

大阪市外国人住民アンケート調査報告書

令和 2 年 1 月

大 阪 府
大 阪 市

- 目 次 -

| | |
|-----------------------|----|
| . 調査目的 | 1 |
| . 調査実施概要 | 1 |
| . 調査結果の要約 | 3 |
| . 回答者の属性 | 6 |
| . 調査結果の詳細 | 16 |
| 1 普段の生活について | 16 |
| 2 住まいと防災について | 40 |
| 3 医療・保険・福祉について | 49 |
| 4 出産・子育て・教育について | 55 |
| 5 差別的な言動について | 58 |
| 6 仕事について | 61 |
| 7 あなた自身について | 67 |
| . 調査票 | 73 |

．調査目的

大阪府域では、近年、外国籍住民が増加傾向にあることに加え、2019年4月に改正された「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律」による、新たな在留資格「特定技能制度」の創設に伴い、外国籍住民のさらなる増加が見込まれる。

今後の外国籍住民の円滑な受入れと共生社会づくりの推進に向けた対応策を検討するうえでの基礎資料とするため、外国人住民の生活実態や課題を把握する調査を実施する。

．調査実施概要

1．調査方法

郵送による無記名式のアンケート調査（調査票を郵送し、後日記入済みの調査票を返送。）

調査票は日本語版(ルビつき)と、調査対象者の国籍を参照して選択した日本語以外の1言語(英語、中国語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、フィリピン語)版の2種類を送付し、回答可能な言語で回答してもらった。

2．調査対象

大阪市内在住の18歳以上の外国人の中から無作為に抽出された4,000人

3．調査実施期間

令和元年10月15日～令和元年11月4日

4．回収数

発送数：4,000件

到達数：3,916件（不着を除く）

回収数：626件

回収率（発送数を母数とする）：15.7%

回収率（到達数を母数とする）：16.0%

調査票の設計にあたっては、大阪大学大学院人間科学研究科 高谷 幸准教授、徳島大学総合科学部 樋口 直人准教授、上智大学総合グローバル学部 稲葉 奈々子教授にご協力いただきました。

5. 報告書の表記について

- ・本報告書の中の図表の数字は、回答者数を母数にした比率(%)を表しています。
- ・集計結果は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、表示した比率の合計が100.0%とならないことがあります。
- ・複数の回答を依頼した質問では(複数回答)と表示しています。複数回答の比率の合計は100.0%を超えることがあります。
- ・各質問の回答者数は(n=)として示しています。

- ・在留資格と日本語能力のクロス集計は、下記の基準で分類しています。

在留資格(Q 46)

「身分」= 永住者、定住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等

「就労」= 技術・人文知識・国際業務、経営・管理、技能、技能実習

なお、「家族滞在」及び「特定活動」は回答者が少ないため、参考値とする。

日本語能力(Q 5、Q 6)

聞く

「母語と同じくらい(不自由なく)」= Q 5「日本語を不自由なく使うことができる」+
Q 6「問題なく聞きとることができる(母語と同じくらい)」
「それ以外」= Q 6「日常会話は聞きとることができる」以下

話す

「母語と同じくらい(不自由なく)」= Q 5「日本語を不自由なく使うことができる」+
Q 6「問題なく話すことができる(母語と同じくらい)」
「それ以外」= Q 6「日常会話は話すことができる」以下

読む・
わかる

「母語と同じくらい(不自由なく)」= Q 5「日本語を不自由なく使うことができる」+
Q 6「問題なく読むことができる(母語と同じくらい)」
「それ以外」= Q 6「ひらがなカタカナと簡単な漢字を読むことができる」以下

書く

「母語と同じくらい(不自由なく)」= Q 5「日本語を不自由なく使うことができる」+
Q 6「問題なく書くことができる(母語と同じくらい)」
「それ以外」= Q 6「ひらがなカタカナと簡単な漢字を書くことができる」以下

・ 調査結果の要約

1 . 普段の生活について

・役所からの案内やお知らせの認知は、「あなたの住んでいる区の広報誌」が48.6%で最も高いが、「全部知らない」も29.1%と高い。

・生活に関する情報源は、「友人・知り合い(日本人)」「友人・知り合い(同じ国籍の人・同じルーツの人)」「家族」など身近な人や、「日本の新聞・テレビ・ラジオ」「インターネット・SNSなどのメディア」が40%を超え上位。

・役所での利用サービスは、「住民登録」(86.6%)、「住民票のコピーや税金の証明書をもらう」(74.1%)の利用率が高く、役所での経験をみると、「職員が親切だった」「やさしい日本語での説明だったので、内容がわかった」で「ある」が約7～8割と高くなっている。

・不自由なく使うことができる言語として「日本語」をあげた人は63.3%であった。「日本語」をあげなかった人の日本語能力は、“聞く”“話す”能力では半数以上が日常会話レベル、“読む・わかる”“書く”能力では約半数が「ひらがなとカタカナと簡単な漢字」の読み書きができるレベル。

・日本語の学習状況は、「大学・日本語学校などの日本語の授業」「日本語の学校や教室に通っていない」が約3割。日本語を学習しない理由は、「生活や仕事で日本語を話すことなどで勉強している」が50.7%で最も高い。

・生活での困りごとや知りたい情報は、「国民健康保険や年金」(35.3%)、「税金」(28.9%)といったお金に係る項目が上位。

・困りごとの相談相手は、「家族」「友人・知り合い(同じ国籍の人・同じルーツの人)」「友人・知り合い(日本人)」が5割前後で高い。

・活動・交流状況は、何らかの活動率が約5割、「活動していない」が約4割。地域の団体の活動やイベントへの参加状況は、何らかの参加率が約4割、「活動していない」が約5割。「活動していない」理由は、「参加する時間がない」が約4割。

・また、地域での活動・交流意向は、「日本の文化や習慣を学びたい」「友達になりたい」が3割台となっている。

2 . 住まいと防災について

・住居形態は、「賃貸住宅」が約半数を占め、次いで「持ち家」が3割。過去5年間で家を探した経験は、「ある」が39.1%、「ない」が52.6%となっている。家を探した方法は、「外国語が話せない日本の不動産業者で探した」が56.7%で最も高く、家を探したときの経験をみると、「家賃が高くて、住みたい家に住むことができなかった」で「ある」が54.7%と最も高い。

・災害への備えは、8割が何らかの備えをしている。災害に関する情報源は、「日本の新聞・テレビ・ラジオ」「インターネット・SNS」といったメディアが5割台で上位。

・災害に備えるために知りたい情報は、「家に居ると危ないときに逃げる場所や逃げる方法」「電話やインターネットが使えない時に家族などに連絡する方法」が5割を超え上位となっている。

3 . 医療・保険・福祉について

・病気になったときの経験をみると、「病院で払ったお金が高かった」「医者のお話を言葉がわからなかった」で「ある」が2割以上であった。健康保険の加入状況は、「仕事先の健康保険」「国民健康保険」がそれぞれ4割強となった。また、年金の加入状況は、「仕事先の年金」が46.7%で最も多く、「国民年金」が23.7%で続いている。「入っていない」も22.2%みられた。

・介護の経験は、「ある」が13.3%。介護に関する経験をみると、「介護に必要なお金が高い」「介護保険制度がわからない」で「ある」が2割台となっている。

4 . 出産・子育て・教育について

・18歳以下の子どもの同居状況は、「いる」が18.2%。子育てに関する心配・困りごとは、「子育てや教育に必要なお金が高い」「塾や習い事に必要なお金が高い」といったお金に関する項目で5割台と高い。子どもの教育は、「大学まで」受けさせたいという人が39.3%で最も多い。

5 . 差別的な言動について

・差別的な言動についての過去5年間の経験をみると、「職場や学校の人々が外国人に偏見を持っていて、人間関係がうまくいかなかった(親しくできなかった)」が「よくある」+「たまにある」で37.2%と最も高い。差別的な言動を見聞きした経験は、「インターネットで見た」が「よくある」で9.9%と最も高い。差別的な言動を見聞きしたときの感情は、41.2%が「不快に感じた」としている。

・多文化共生社会をつくるために重要だと思うことをみると、「外国人がなんでも相談することができる窓口を作る」で47.8%、「子どもたちが国籍や文化の違いを理解できるような教育を学校で行う」で44.7%、次いで「役所で働いている人が外国人についてよく理解する」が39.0%、「日本人が多文化共生を理解する」が37.7%となっている。

6 . 仕事について

・就労状況は、「正社員」(26.7%)、「アルバイトやパートタイマー」(25.2%)が多い。「仕事をしていない(仕事を探していない)」が10.9%で続いている。職種は、「販売員(飲食、販売など)」「工場などの工員・作業員(技能工、食品加工など)」が1割台と高く、業種は、「飲食サービス業・宿泊業(食品の販売、レストラン、ホテルなど)」(18.8%)、「製造業(機械や自動車、缶詰などの食料品の製造)」(12.4%)が上位。求職方法は、「家族・知り合いの紹介」が28.9%で特に多い。

・仕事に関する過去5年間の経験をみると、「日本語での会話・コミュニケーションがうまくいかなかった」で「ある」が34.7%と特に高い。

7. あなた自身について（回答者の属性含む）

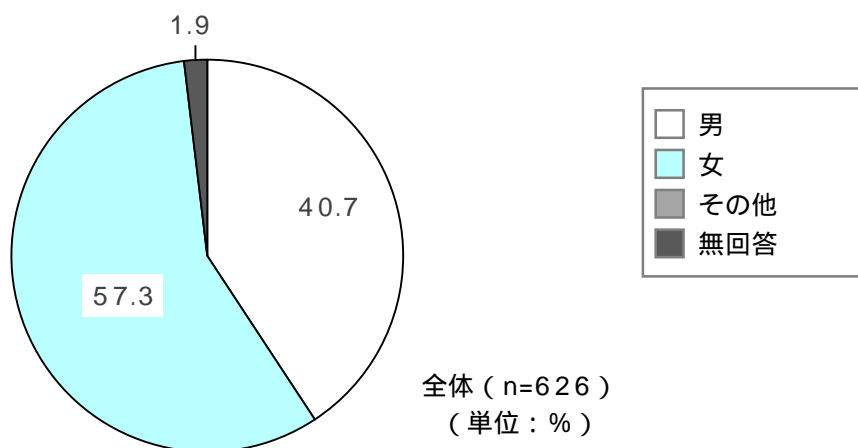
- ・使用している名前は、「いつも民族名である」が45.7%で最も多く、「場合によって、日本名と民族名を使い分けている」「いつも日本名である」がともに約25%となっている。
- ・国籍は、「韓国・朝鮮」が37.4%で最も多く、次いで「中国」が24.1%、「フィリピン」が13.6%、「ベトナム」が7.7%となっている。
- ・出生地は、「日本で生まれた」が29.4%、「外国で生まれた」が68.2%。外国で生まれた人の日本在住年数は、「1～5年」が33.0%と最も多い。
- ・在留資格は、「特別永住者」(28.1%)、「永住者」(21.6%)、「技術・人文知識・国際業務」(13.9%)、「留学」(12.5%)が上位。
- ・世帯年収は、399万円までで56.7%と過半数を占める。生まれた国へお金などを「送っている」人は26.2%で、「送っていない」人(67.6%)の方が圧倒的に多い。
- ・最終学歴は、「外国の大学以上」が25.7%で最も多い。
- ・在留資格【特定技能】の認知は、「知っている」が33.7%で、「知らない」(62.6%)の方が多い。

・回答者の属性

性別

Q 37 あなたの性別を教えてください。(単一回答)

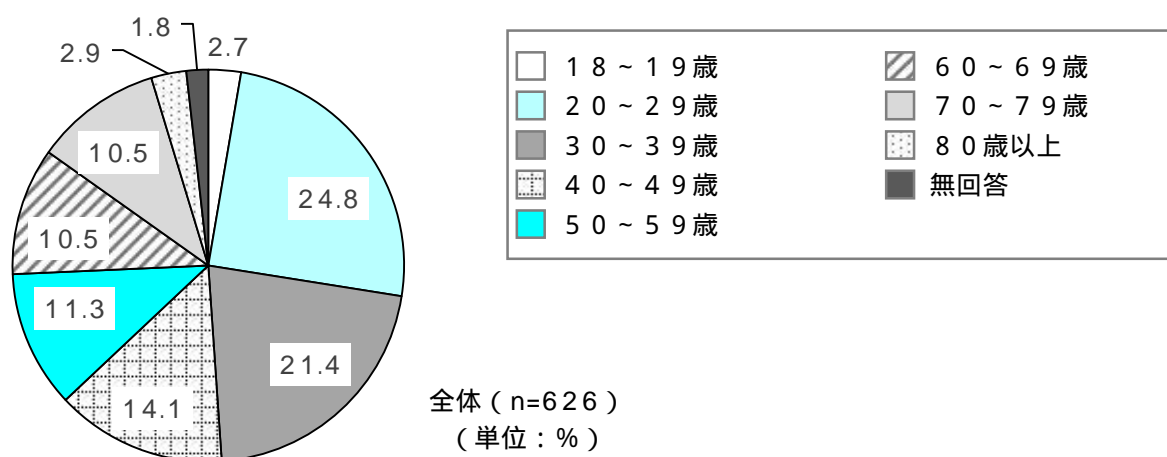
性別は、「男性」が40.7%、「女性」が57.3%となっている。



年齢

Q 38 あなたの年齢を教えてください。(単一回答)

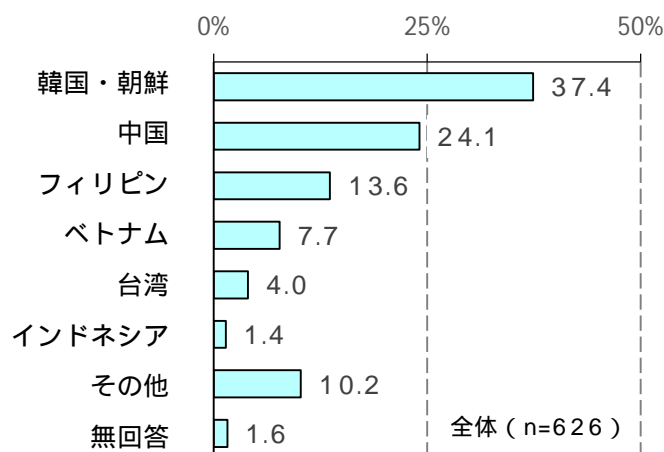
年齢は、「20～29歳」(24.8%)、「30～39歳」(21.4%)が2割台が多い。以下、「40～49歳」(14.1%)、「50～59歳」(11.3%)、「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」(ともに10.5%)となっている。



国籍

Q 39 あなたの国籍（地域）はどれですか。（単一回答）

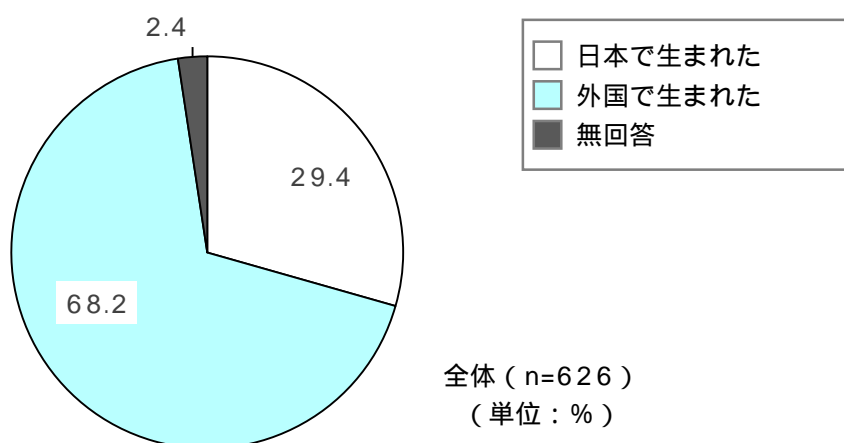
国籍は、「韓国・朝鮮」が37.4%で最も多く、次いで、「中国」が24.1%、「フィリピン」が13.6%、「ベトナム」が7.7%となっている。



日本在住年数

Q 40 あなたはどこで生まれましたか。（単一回答）

出生地は、「日本で生まれた」が29.4%、「外国で生まれた」が68.2%であった。



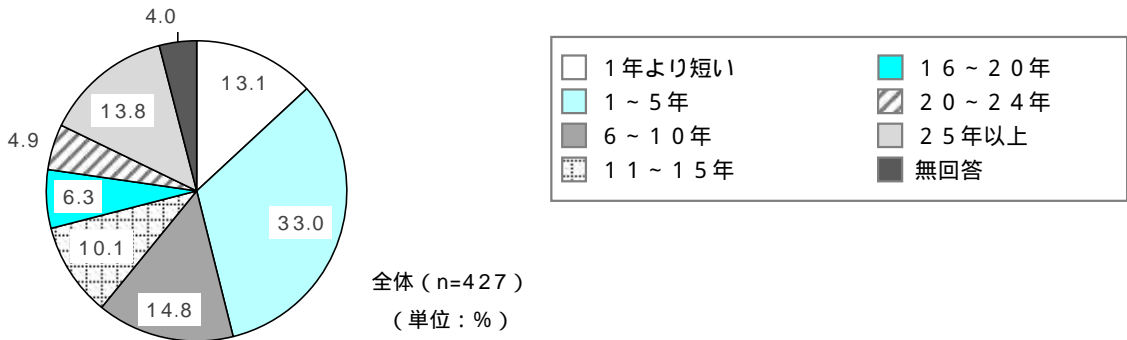
「外国で生まれた」と答えた方にお聞きします。

Q 40-1 あなたは日本に合計何年住んでいますか。(単一回答)

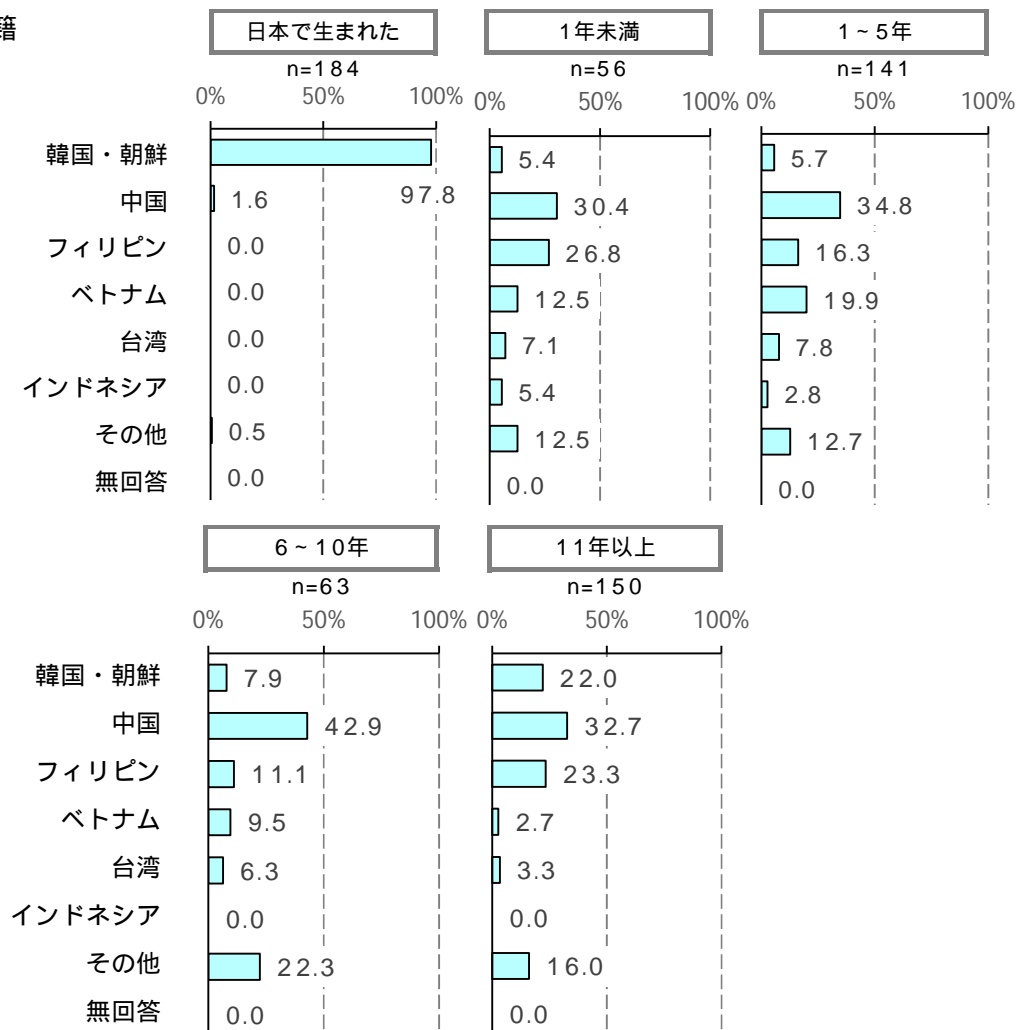
外国で生まれた人の日本在住年数は、「1～5年」が33.0%と最も多い。以下、「6～10年」(14.8%)、「25年以上」(13.8%)、「1年より短い」(13.1%)と続いている。

日本在住年数別に国籍をみると、日本で生まれた層は97.8%が「韓国・朝鮮」となっている。それ以外の層ではいずれも「中国」が多くなっているが、1年未満でフィリピン、1～5年層で「ベトナム」も多くなっている。

【全体】



【日本在住年数別】国籍



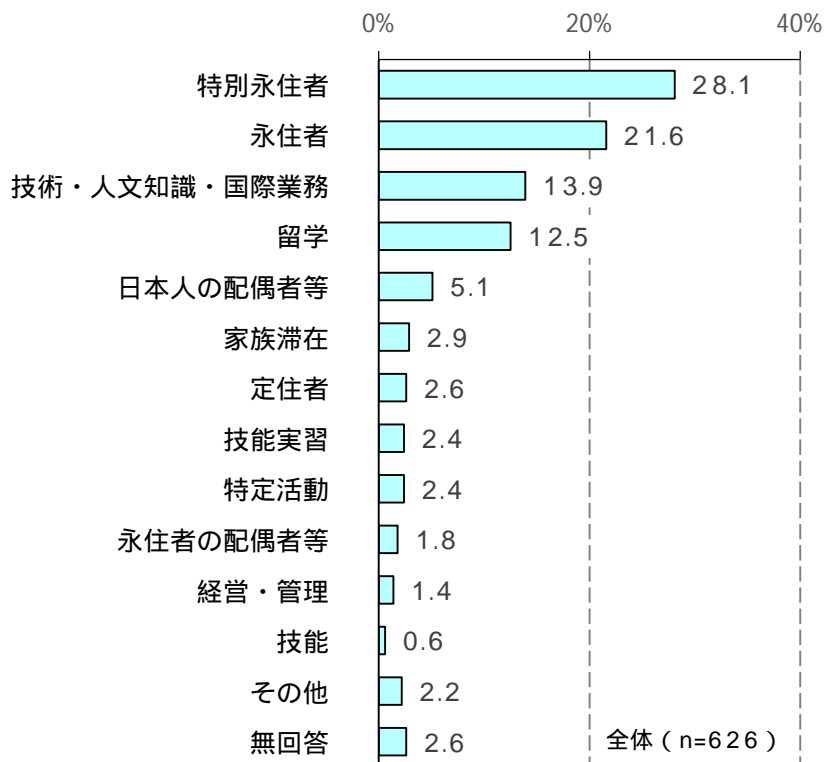
在留資格

Q 46 あなたの在留資格は次のどれですか。(単一回答)

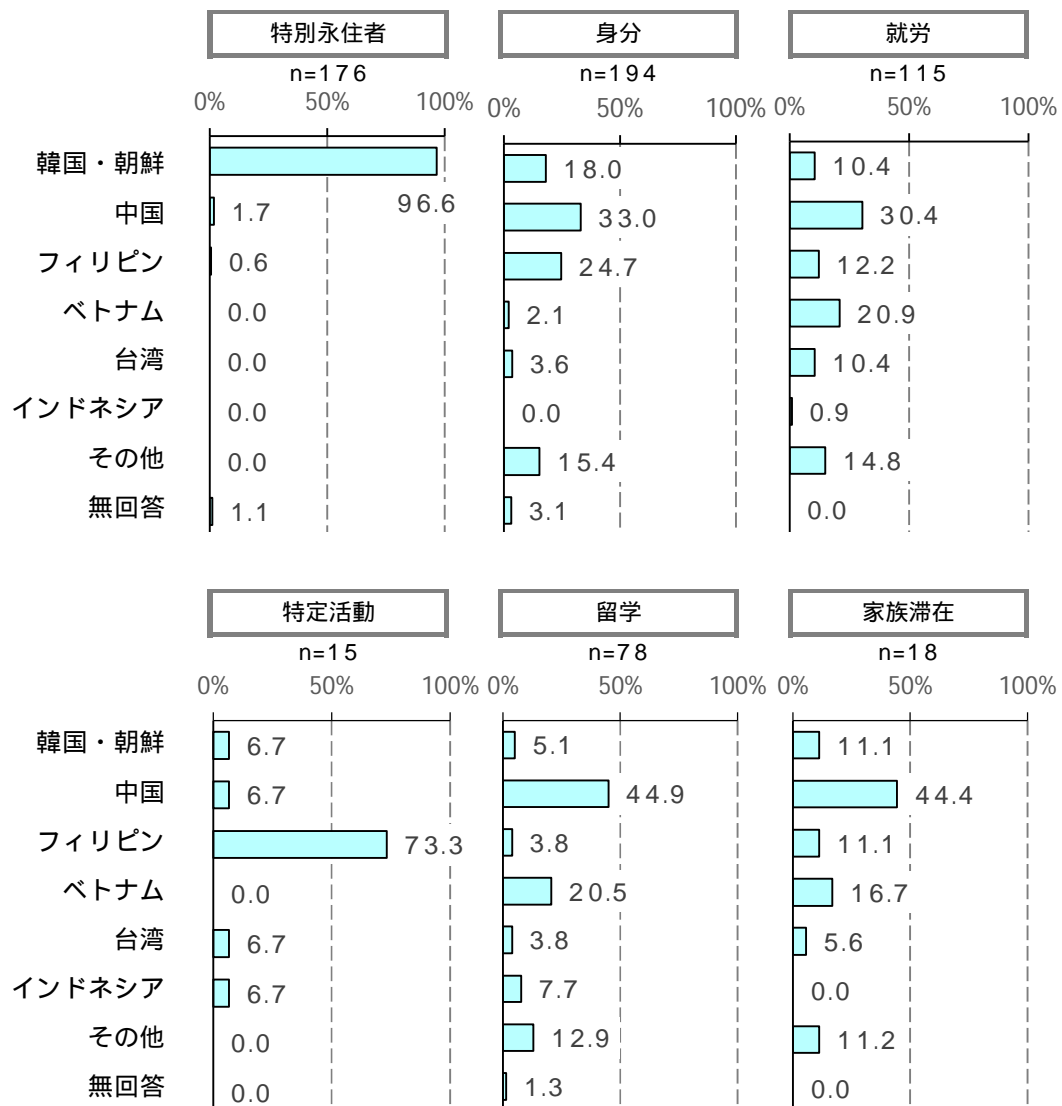
在留資格は、「特別永住者」28.1%、「永住者」21.6%、「技術・人文知識・国際業務」13.9%、「留学」12.5%となっている。

在留資格別の国籍の内訳は、特別永住者は96.6%が「韓国・朝鮮」となっている。身分では「中国」「フィリピン」、就労では「中国」「ベトナム」が2～3割強を占めている。特定活動は「フィリピン」が7割強と圧倒的に高く、留学、家族滞在では「中国」が4割台を占める。

【全体】



【在留資格別】国籍



以下、「身分」= 永住者、定住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等

「就労」= 技術・人文知識・国際業務、経営・管理、技能、技能実習 とする。

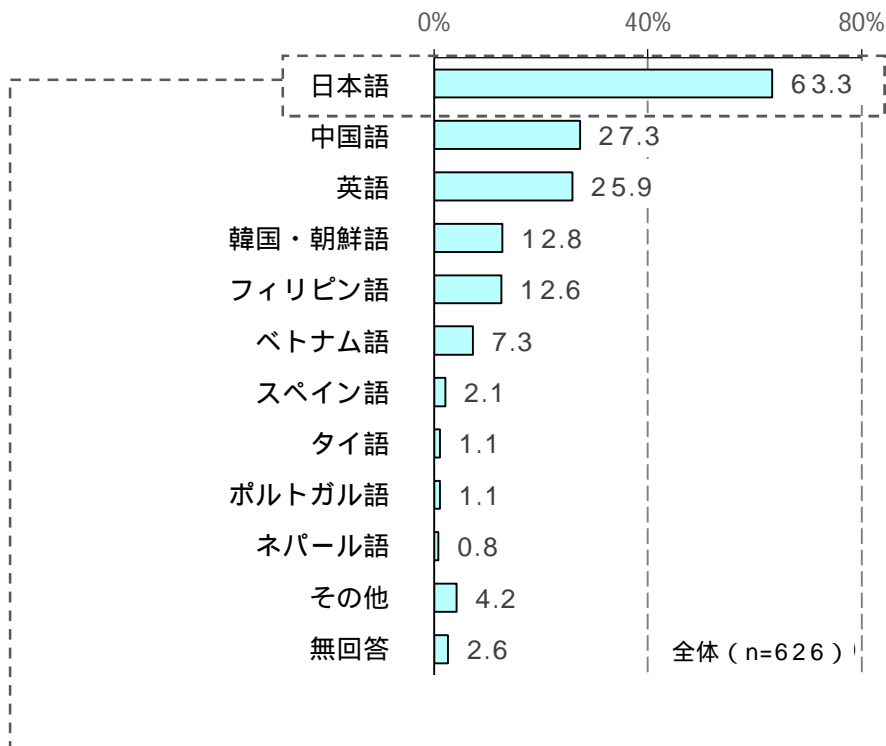
日本語能力

Q 5 あなたが不自由なく使うことができる言葉は次のうちどれですか。(複数回答)

不自由なく使うことができる言語として「日本語」をあげた人は 63.3%であった。その他の言語としては、「中国語」が 27.3%、「英語」が 25.9%と多い。「韓国・朝鮮語」、「フィリピン語」も 1 割強みられる。

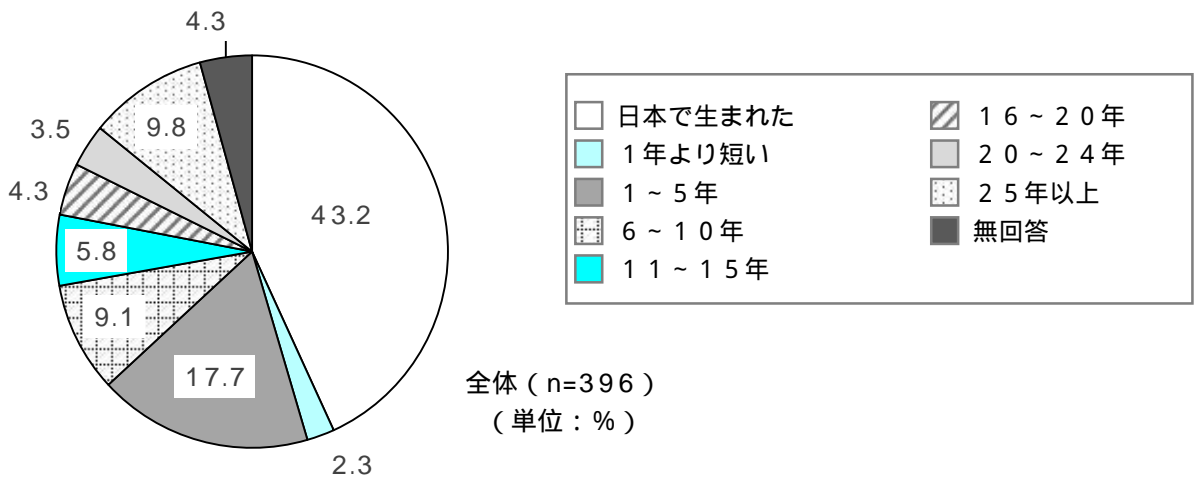
「日本語」を不自由なく使えると答えた方の日本在住年数をみると、「日本で生まれた」が 43.2%と最も多い。以下、「1~5年」(17.7%)、「25年以上」(9.8%)、「6~10年」(9.1%)と続いている。

【全体】



【日本語能力 不自由なく使える】

日本在住年数

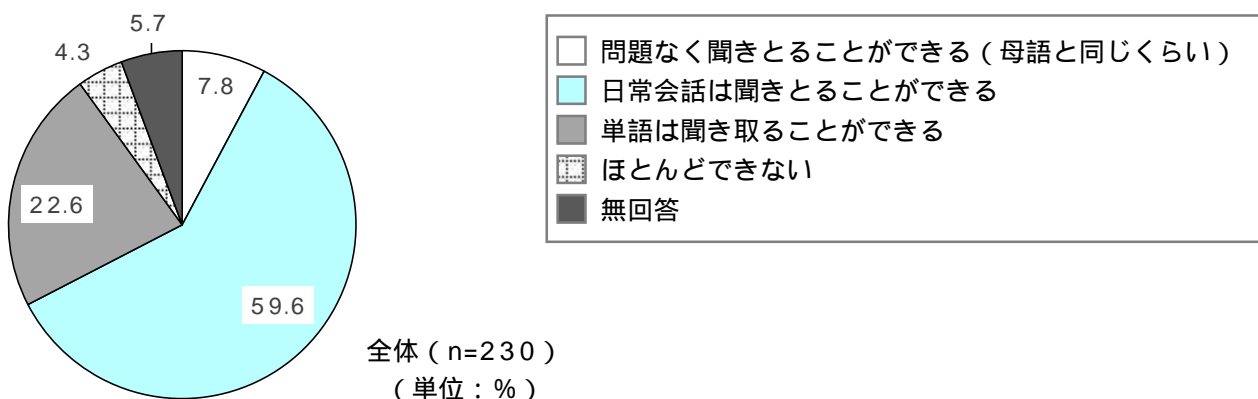


Q 6 あなたは日本語がどれくらいできますか。【聞く】(単一回答)

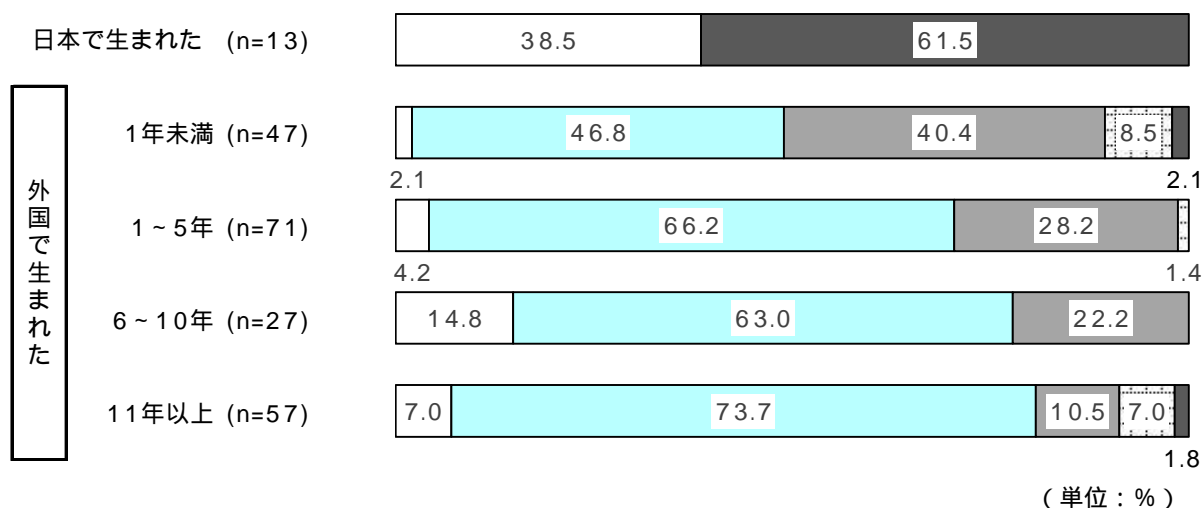
日本語を“聞く”能力は、「日常会話は聞きとることができる」が59.6%と約6割を占める。「問題なく聞きとることができる(母語と同じくらい)」(7.8%)、「ほとんどできない」(4.3%)は、いずれも1割未満となっている。

なお、日本在住年数別の結果は以下のとおりである。

【全体】



【日本在住年数別】

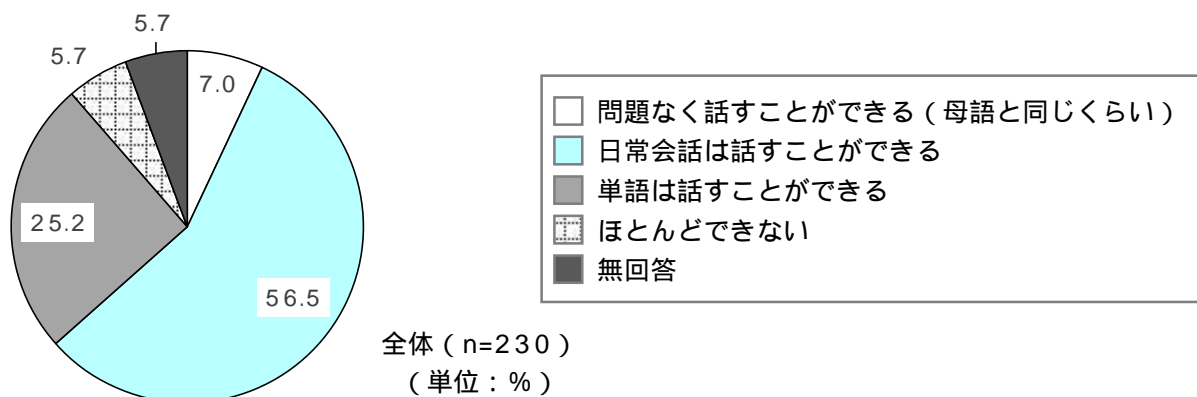


Q 6 あなたは日本語がどれくらいできますか。【話す】(単一回答)

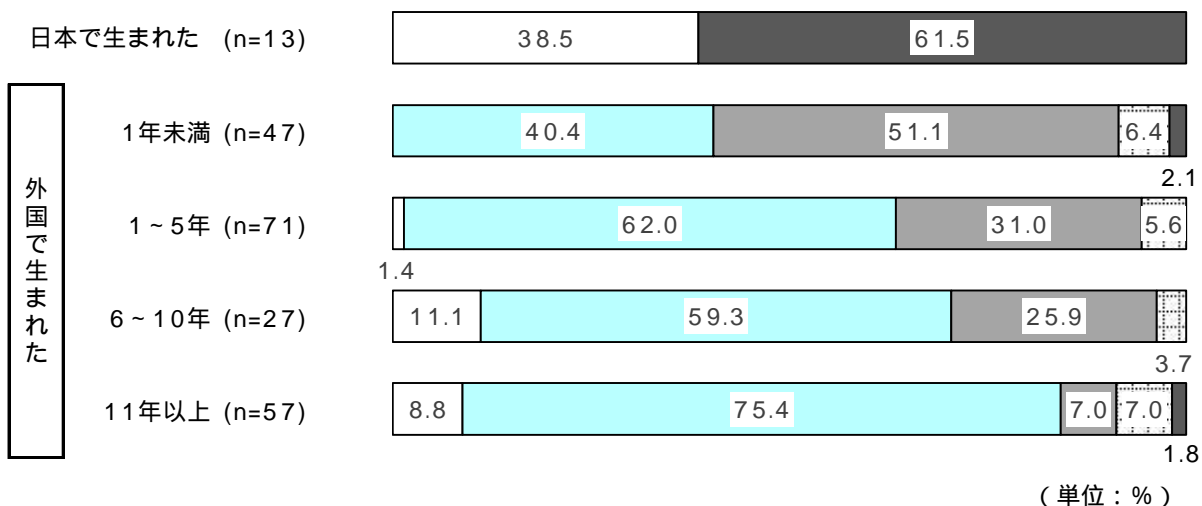
日本語を“話す”能力は、「日常会話は話すことができる」が56.5%で過半数を占める。「問題なく話すことができる(母語と同じくらい)」(7.0%)、「ほとんどできない」(5.7%)は、いずれも1割未満となっている。

なお、日本在住年数別の結果は以下のとおりである。

【全体】



【日本在住年数別】

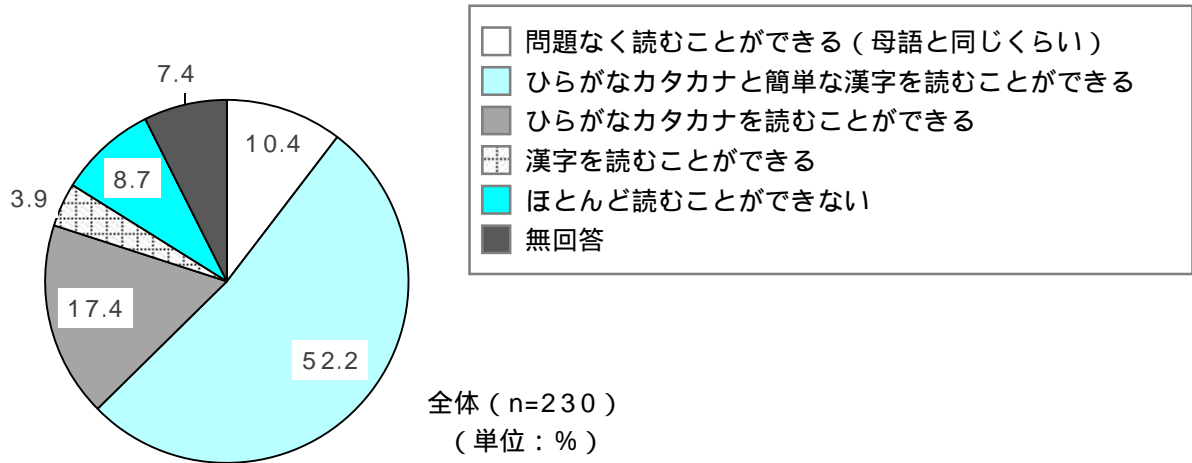


Q 6 あなたは日本語がどれくらいできますか。【読む・わかる】(単一回答)

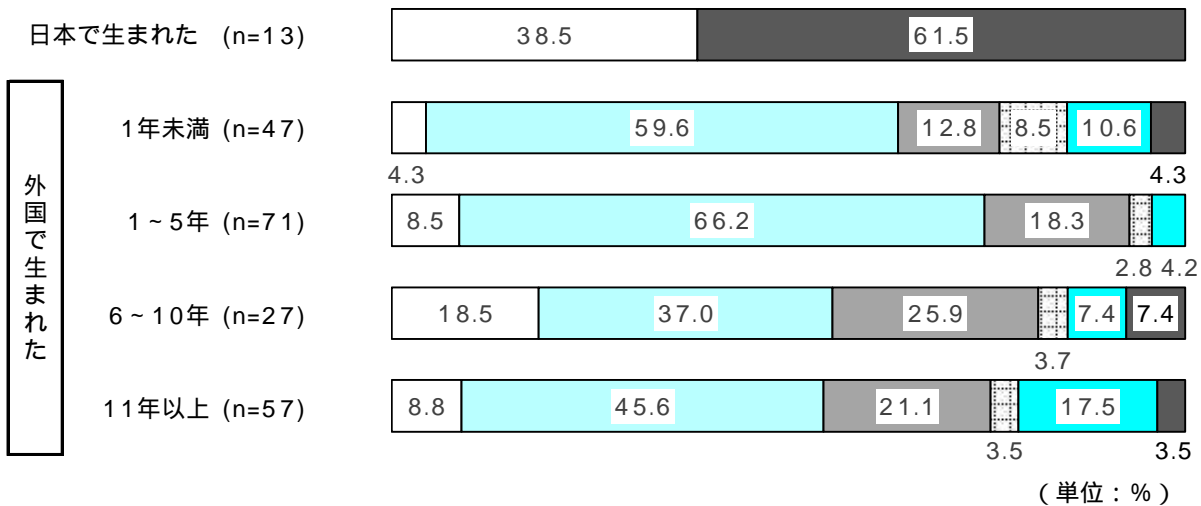
日本語を“読む・わかる”能力は、「ひらがなとカタカナと簡単な漢字を読むことができる」が52.2%と過半数を占める。「問題なく読むことができる(母語と同じくらい)」は10.4%で、4つの能力の中で最も多い。「ほとんど読めない」(8.7%)は、1割未満となっている。

なお、日本在住年数別の結果は以下のとおりである。

【全体】



【日本在住年数別】

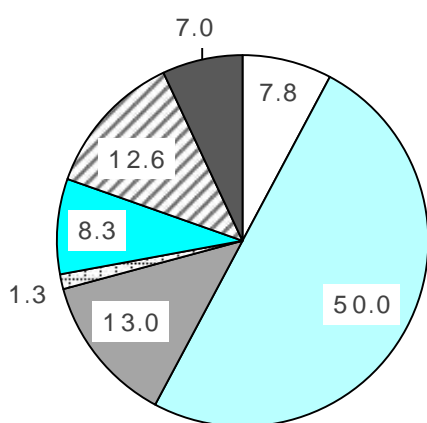


Q 6 あなたは日本語がどれくらいできますか。【書く】(単一回答)

日本語を“書く”能力は、「ひらがなとカタカナと簡単な漢字を書くことができる」が50.0%となっている。「問題なく書くことができる(母語と同じくらい)」は7.8%で、「ほとんどできない」(12.6%)は、1割を超えており、4つの能力の中で最も多い。

なお、日本在住年数別の結果は以下のとおりである。

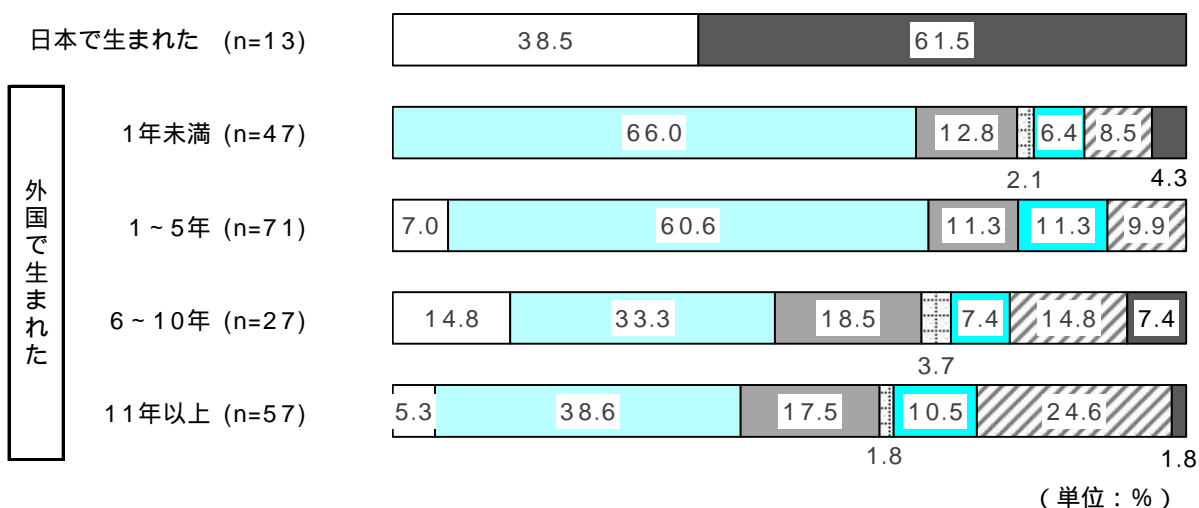
【全体】



- 問題なく書くことができる (母語と同じくらい)
- ひらがなカタカナと簡単な漢字を書くことができる
- ひらがなカタカナを書くことができる
- ▨ 漢字だけ書くことができる
- スマートフォンやパソコンなどを使えば書くことができる
- ▨ ほとんど書くことができない
- 無回答

全体 (n=230)
(単位: %)

【日本在住年数別】



・ 調査結果詳細

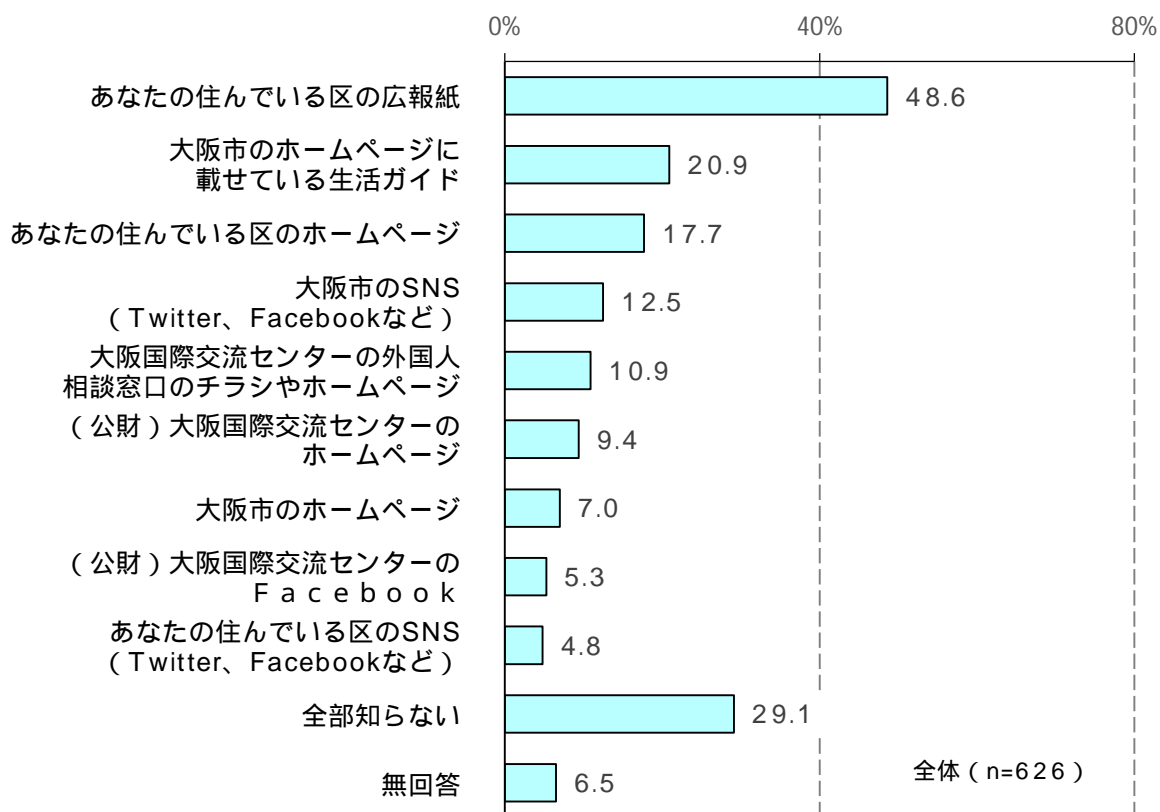
1 . 普段の生活について

Q 1 あなたは役所（区役所や大阪市役所など）が出している次の案内やお知らせを知っていますか。
（複数回答）

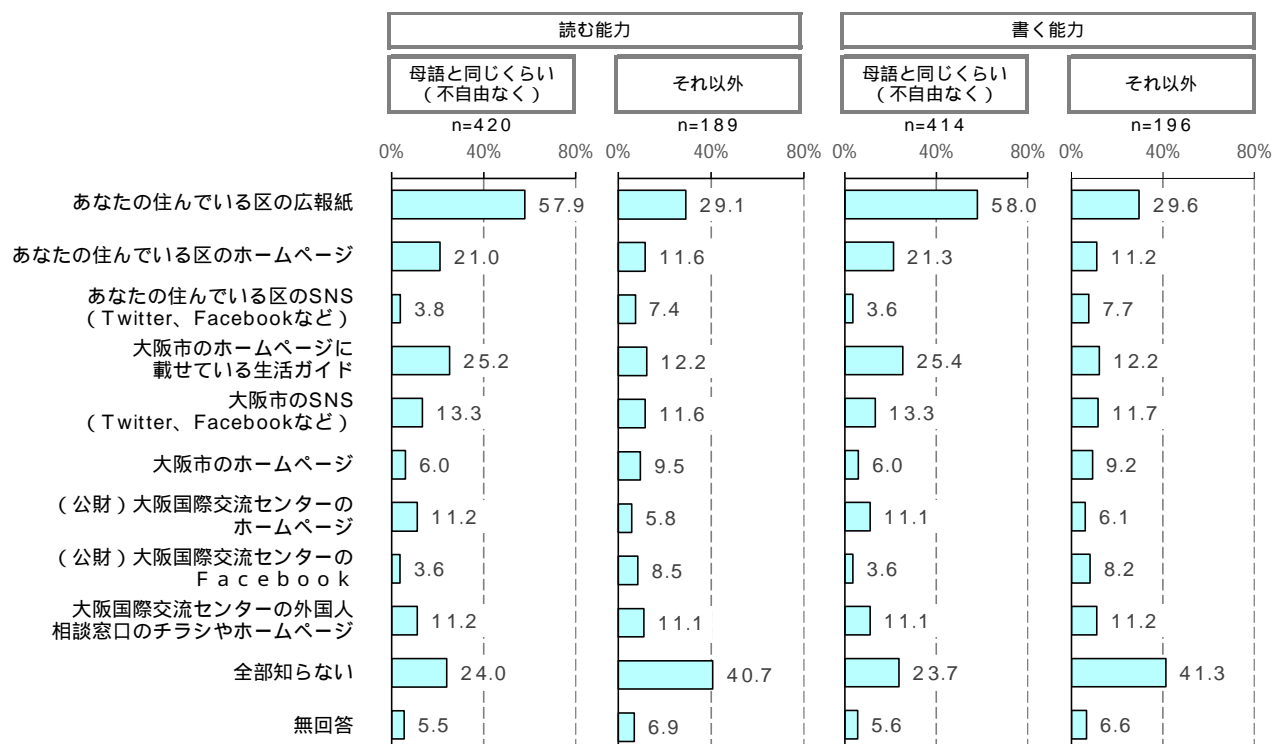
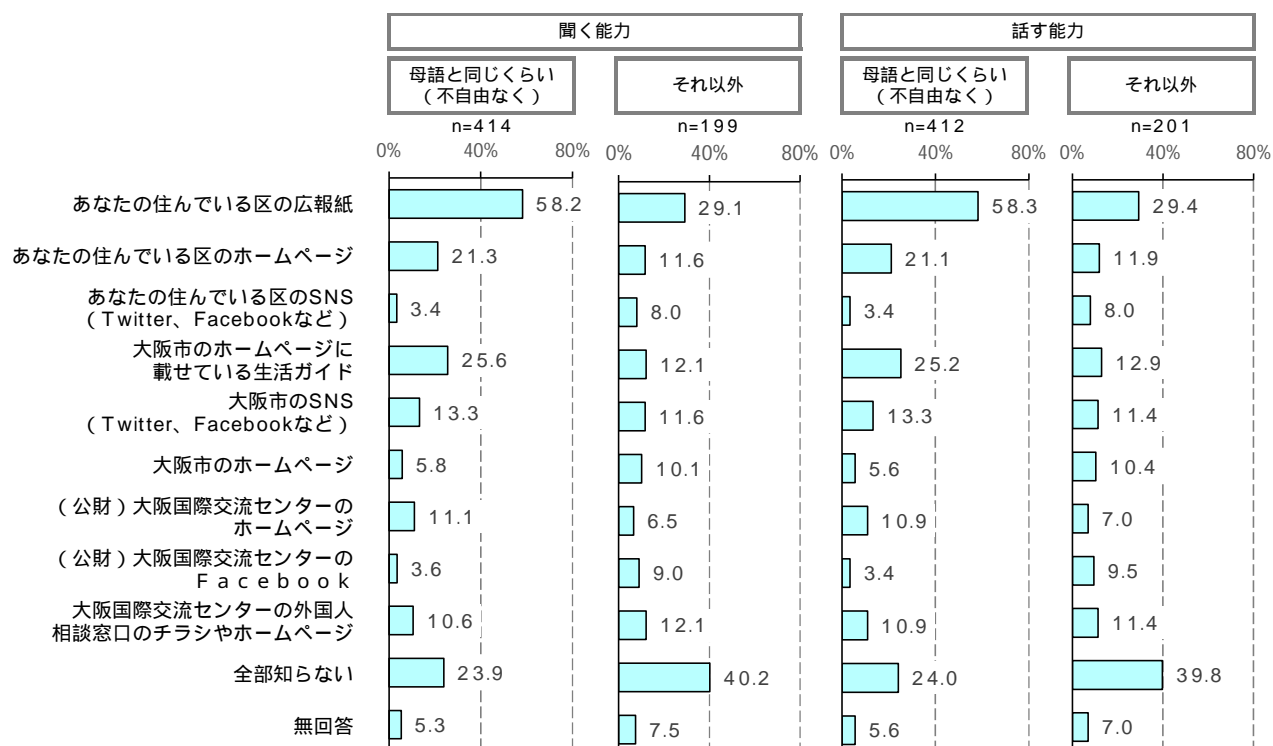
案内やお知らせの認知は、「あなたの住んでいる区の広報紙」が48.6%で最も高く、次いで「大阪市のホームページに掲載している生活ガイド」(20.9%)、「あなたの住んでいる区のホームページ」(17.7%)があがっている。一方、「全部知らない」も29.1%と高い。

日本語能力別にみると、「母語と同じくらい(不自由なく)」では、「あなたの住んでいる区の広報紙」の認知度が高い。「それ以外」の層では、「全部知らない」が約4割と高くなっているが、区のSNSや市のホームページなど、「母語と同じくらい(不自由なく)」より高い割合を示すものもある。聞く/話す/読む/書く、いずれの能力でみても、スコアは似通っており、差はみられない。

【全体】



【日本語能力別】

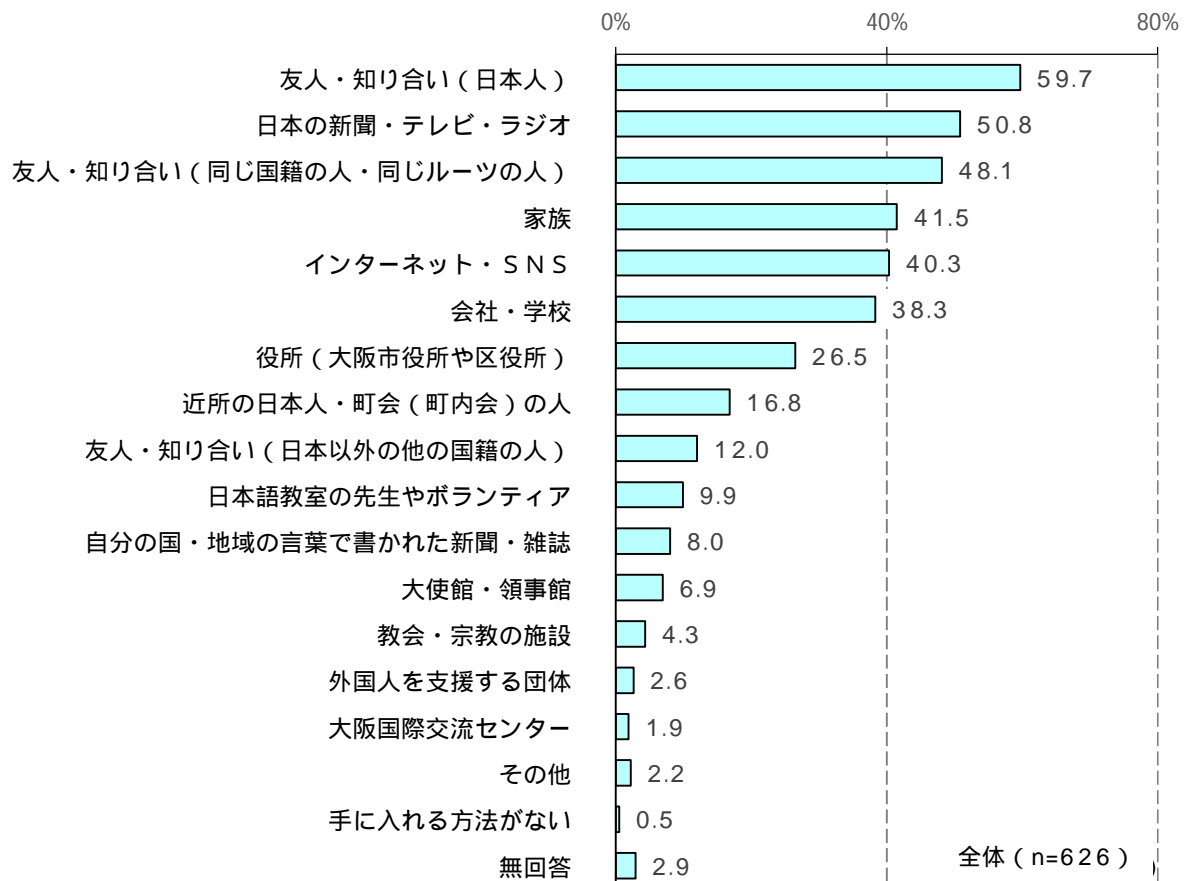


Q 2 あなたは日本での生活に必要な情報をどこから手に入れていますか。(複数回答)

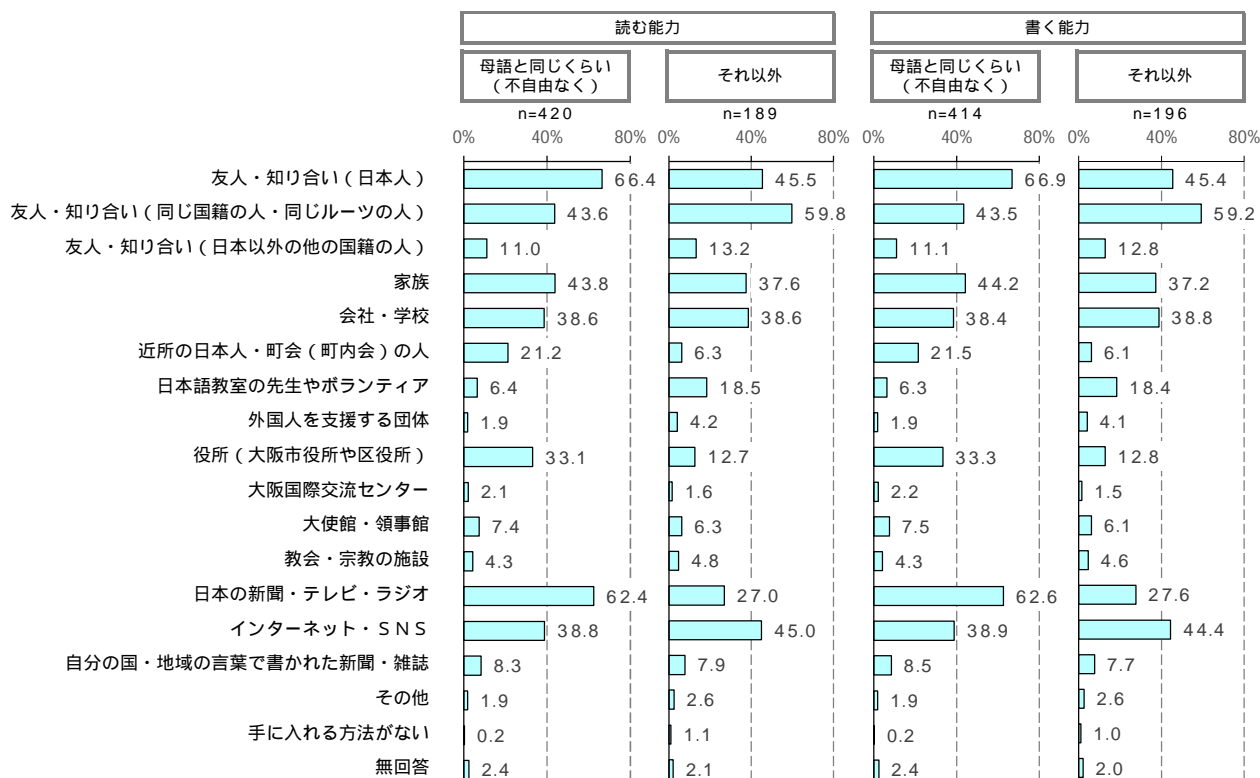
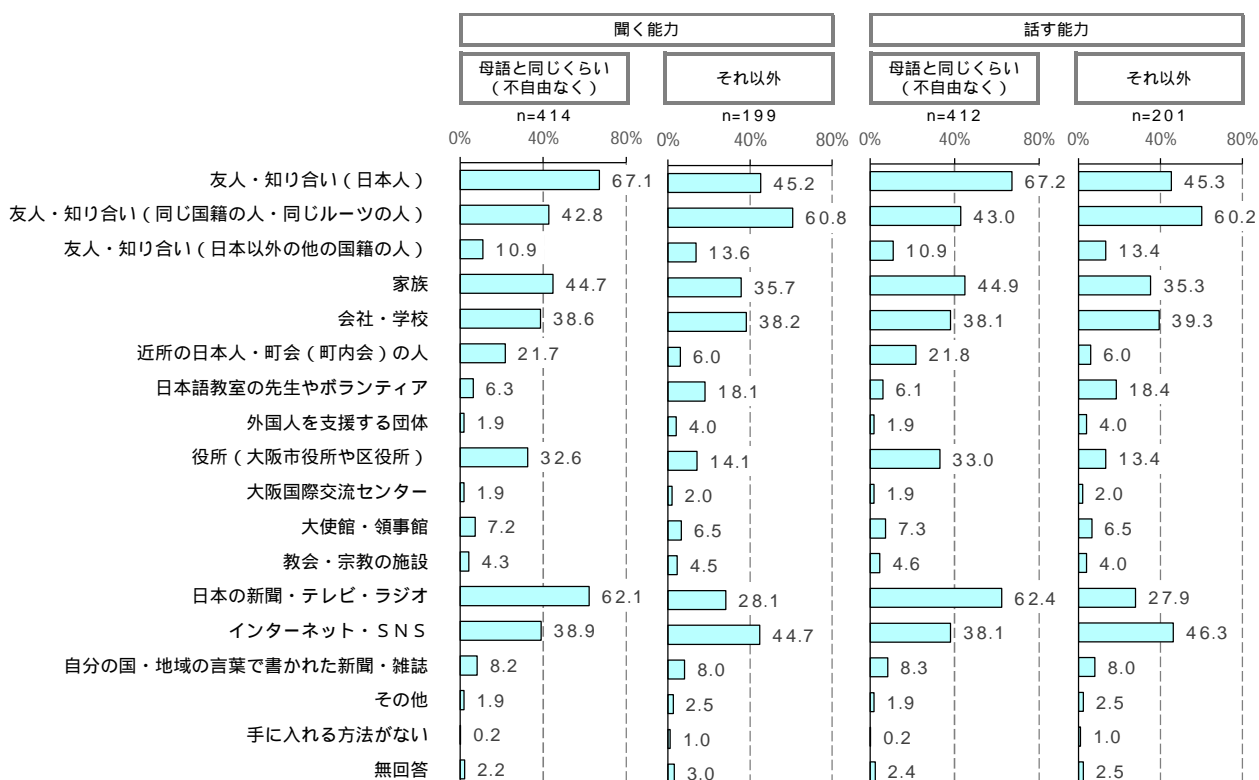
生活に関する情報源は、「友人・知り合い(日本人)」(59.7%)が最も多く、次いで、「日本の新聞・テレビ・ラジオ」(50.8%)、「友人・知り合い(同じ国籍の人・同じルーツの人)」(48.1%)となっている。

日本語能力別にみると、「友人・知り合い」の中でも、「母語と同じくらい(不自由なく)」は「日本人」、「それ以外」では「同じ国籍の人・同じルーツの人」の方が高い。同様に、媒体の中でも、「母語と同じくらい(不自由なく)」は「日本の新聞・テレビ・ラジオ」、「それ以外」では「インターネット・SNS」の方が高くなっている。聞く/話す/読む/書く、いずれの能力でみても、スコアは似通っており、差はみられない。

【全体】



【日本語能力別】

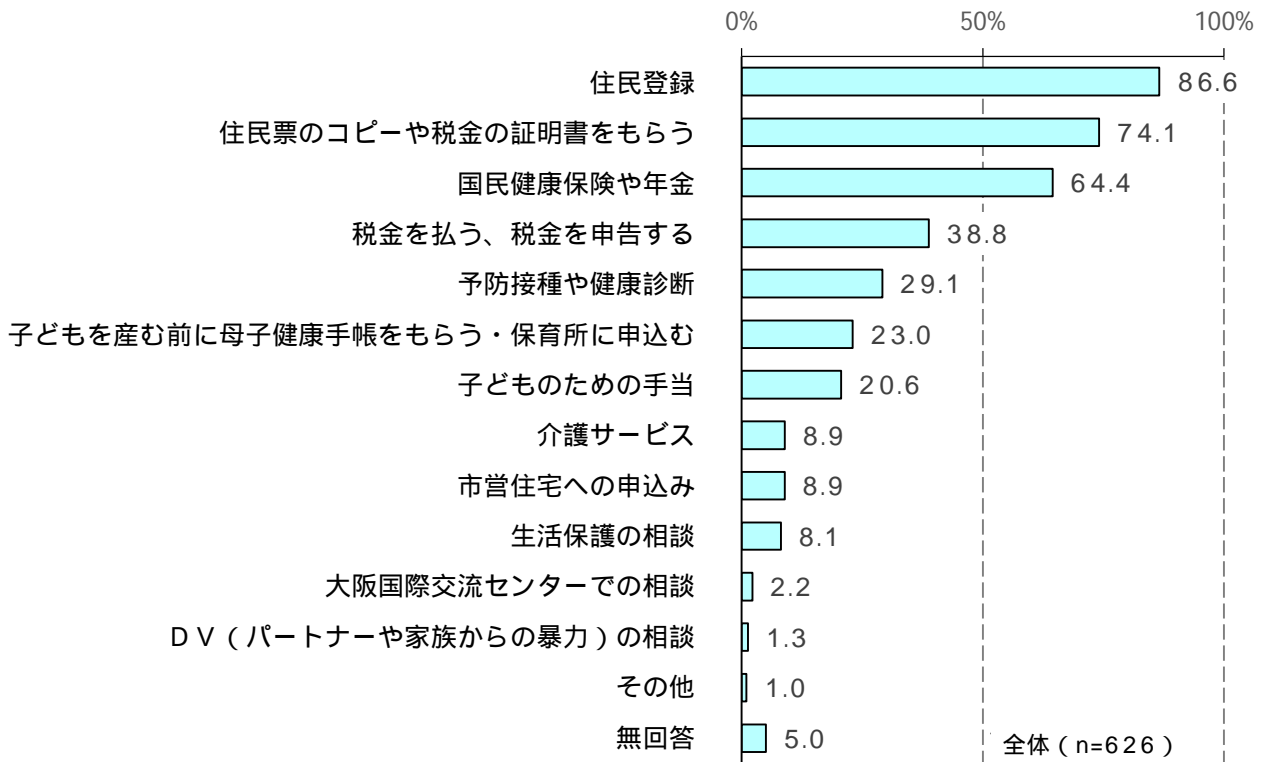


Q3 あなたは役所（区役所や大阪市役所など）のサービスで、利用したことのあるものはありますか。
（複数回答）

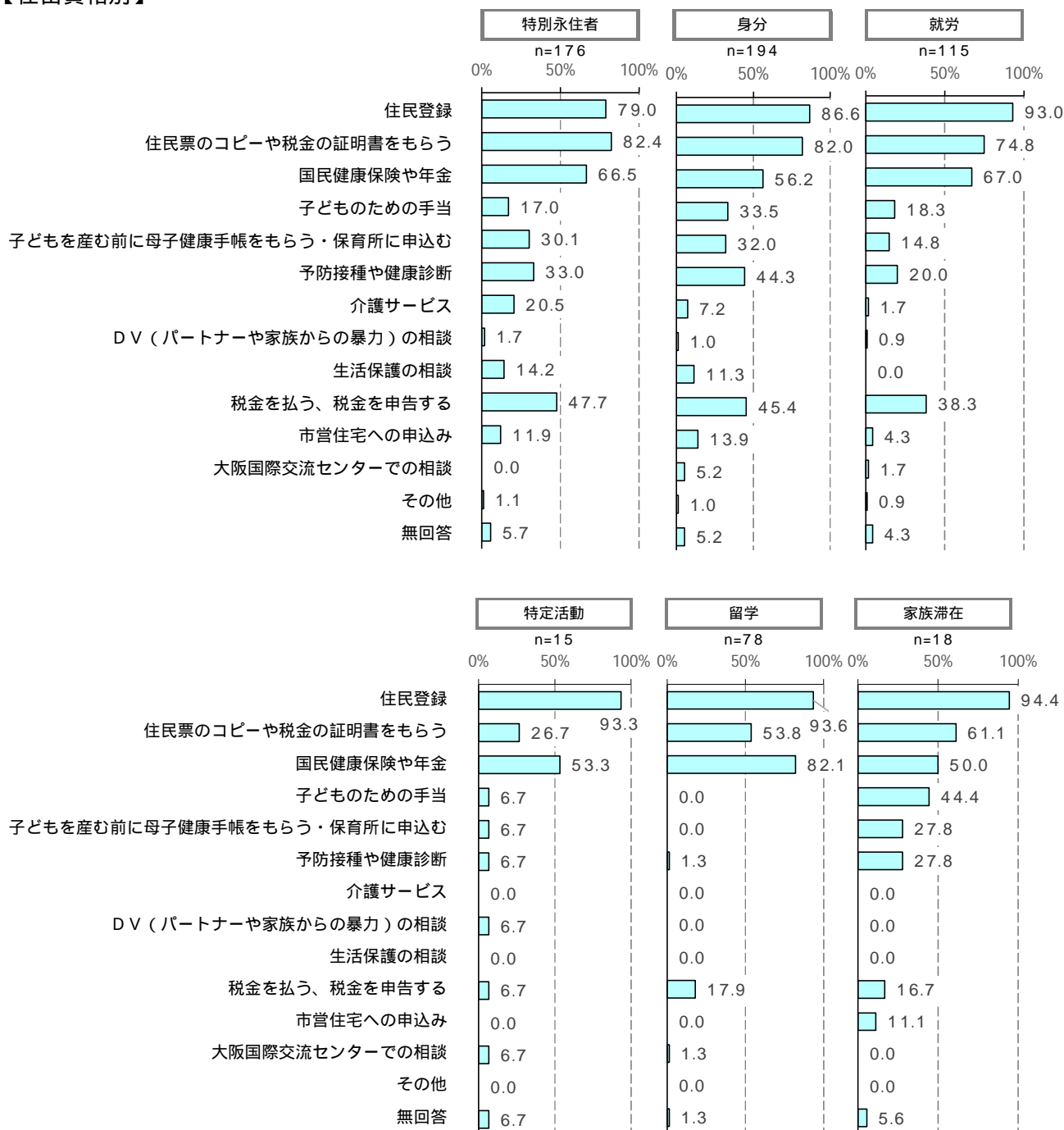
役所での利用サービスは、「住民登録」(86.6%)、「住民票のコピーや税金の証明書をもらう」(74.1%)、「国民健康保険や年金」(64.4%)の利用率が高い。

また、在留資格別に見ると、「住民票のコピーや税金の証明書をもらう」は、特別永住者、身分、就労では7割を超えている。「国民健康保険や年金」は、留学で82.1%と高い。また、「税金を払う、税金を申告する」では、特別永住者(47.7%)、身分(45.4%)、就労(38.3%)の割合が他の在留資格に比べて高くなっている。

【全体】



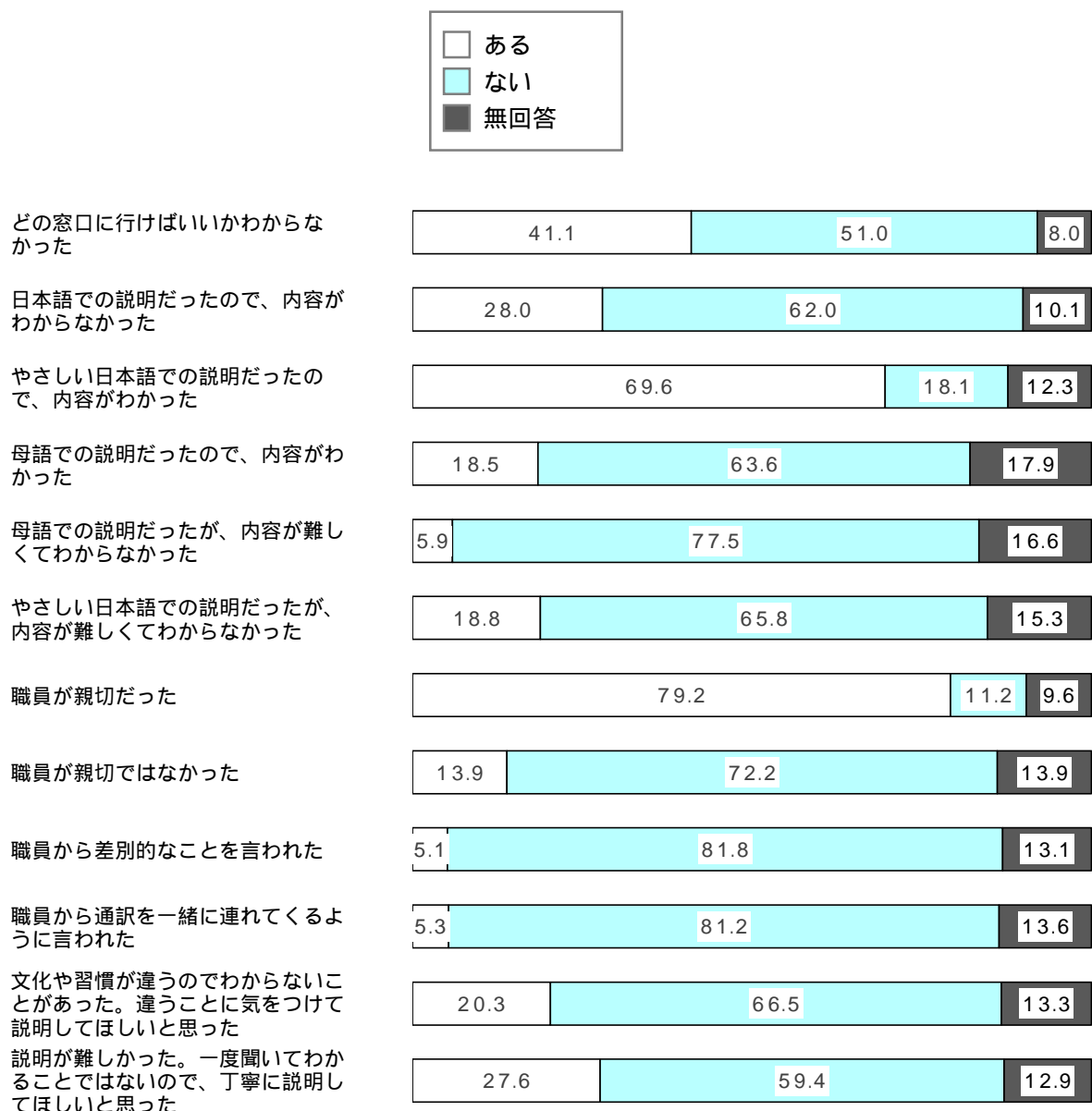
【在留資格別】



Q 4 役所（区役所や大阪市役所）に行ったときに、以下のような経験をしたことはありますか。
（単一回答）

役所で経験したことが「ある」と回答した割合は、「職員が親切だった」（79.2%）で約8割、「やさしい日本語での説明だったので、内容がわかった」（69.6%）が約7割と高くなっている。

次いで、「どの窓口に行けばいいかわからなかった」（41.1%）、「日本語での説明だったので、内容がわからなかった」（28.0%）、「説明が難しかった。一度聞いてわかることではないので、丁寧に説明してほしいと思った」（27.6%）順となっている。



(n=626)

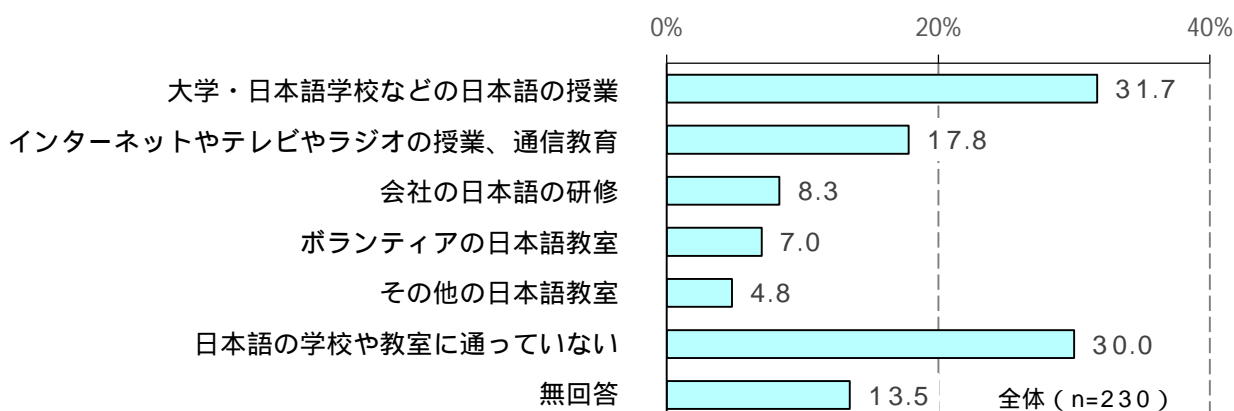
(単位：%)

Q 7 (Q 5 不自由なく使うことができる言語で「日本語」を選ばなかった人が教えてください。)
 あなたは今次の場所で日本語を勉強していますか。(複数回答)

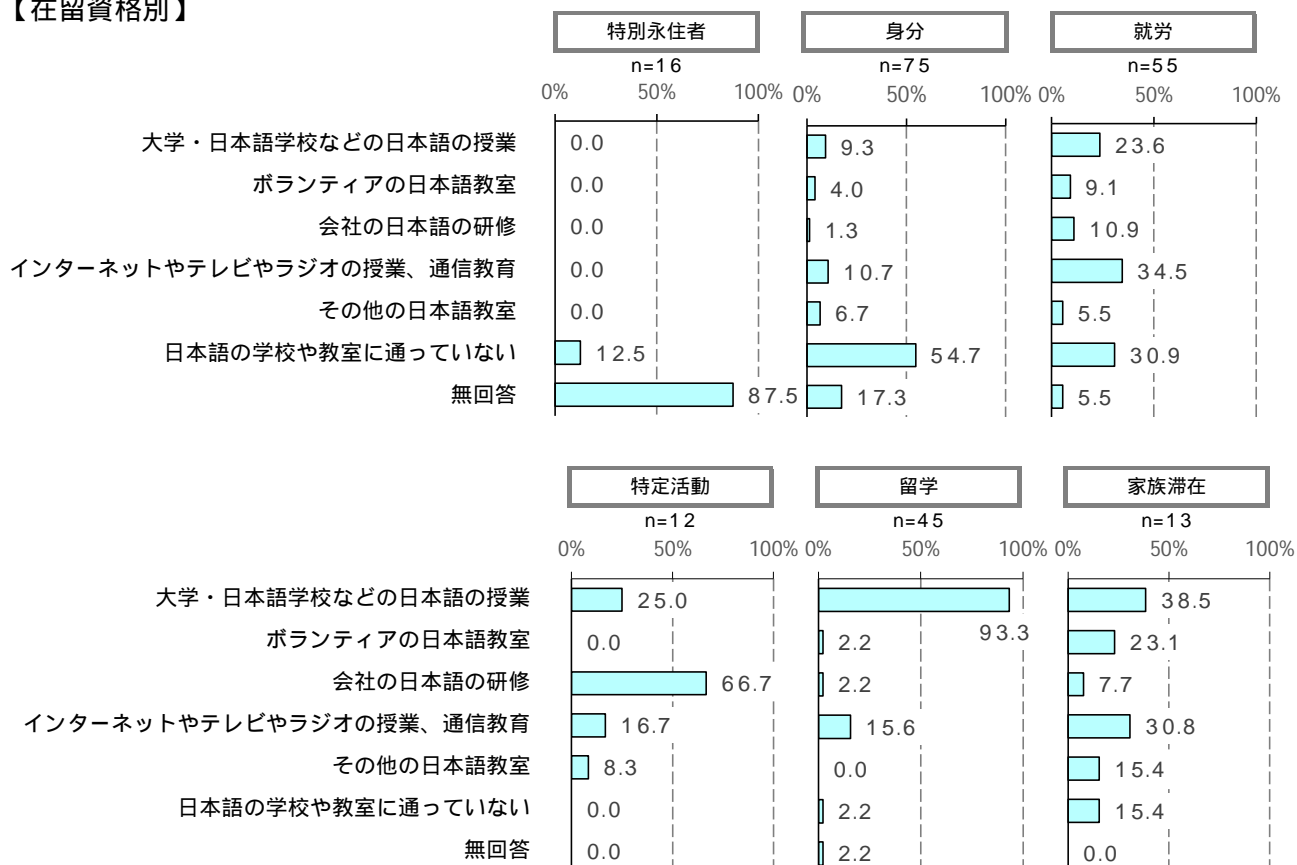
日本語の学習状況は、「大学・日本語学校などの日本語の授業」が31.7%で最も多く、次いで「日本語の学校や教室に通っていない」が30.0%、「インターネットやテレビやラジオの授業、通信教育」が17.8%となっている。

在留資格別にみると、就労では、「インターネットやテレビやラジオの授業、通信教育」や「日本語の学校や教室に通っていない」がともに3割台となっている。

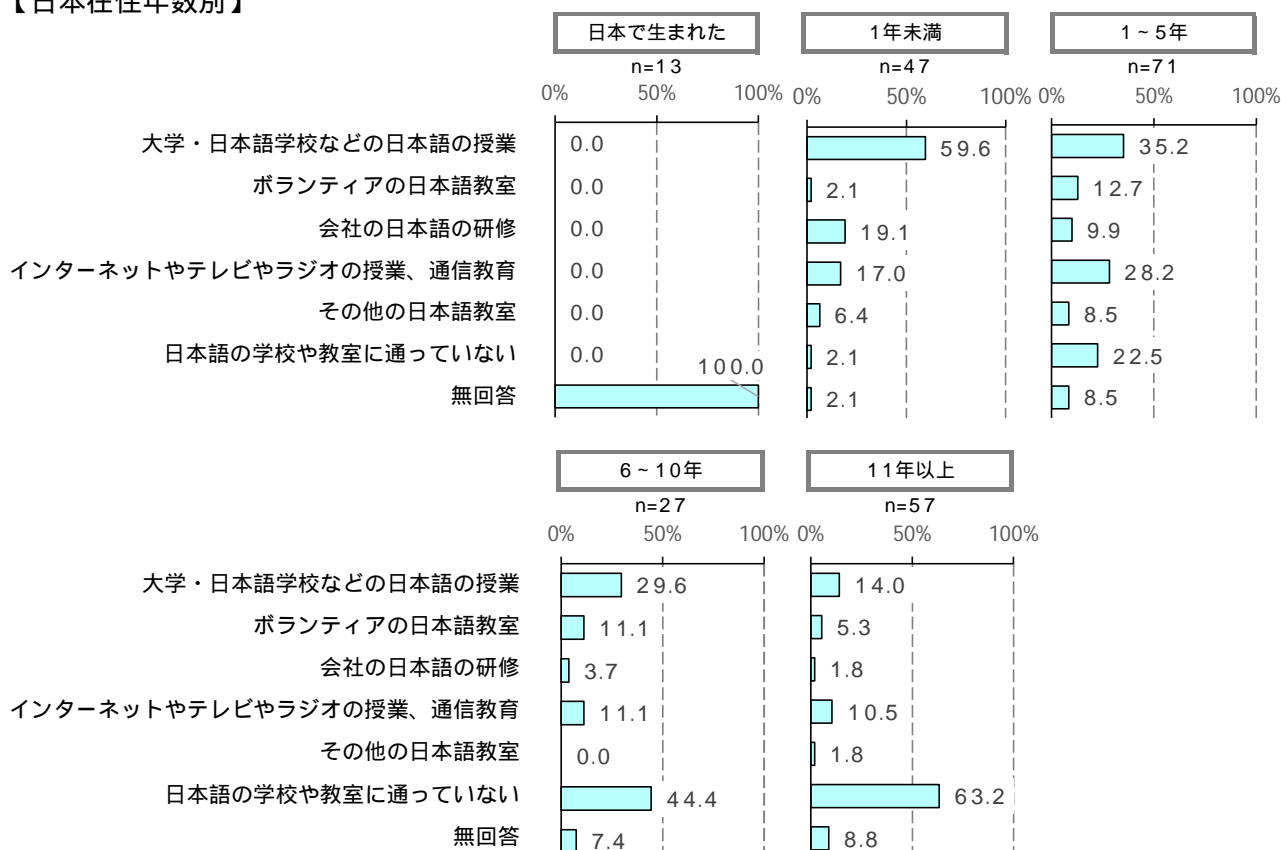
【全体】



【在留資格別】



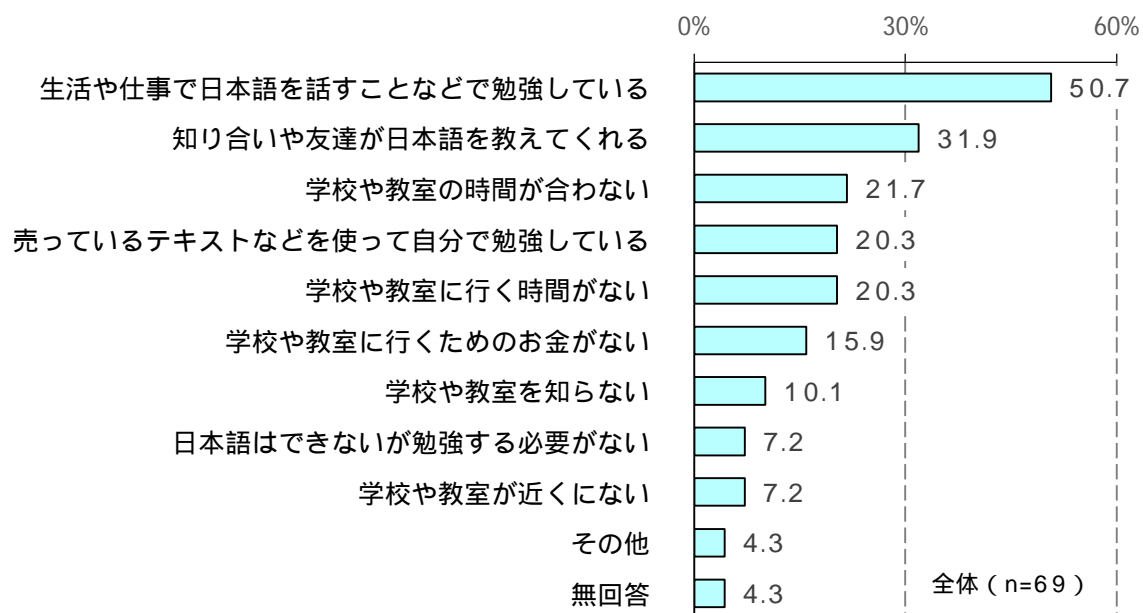
【日本在住年数別】



Q 8 (Q 7で「日本語の学校や教室に通っていない」を選んだ人が答えてください。)

あなたが日本語の学校や教室に通っていない理由は何ですか。(複数回答)

日本語の学校や教室に通っていない理由は、「生活や仕事で日本語を話すことなどで勉強している」が50.7%で最も高く、「知り合いや友達が日本語を教えてくれる」が31.9%で続いている。次いで、「学校や教室の時間が合わない」「学校や教室に行く時間がない」「売っているテキストなどを使って自分で勉強している」が約2割となっている。

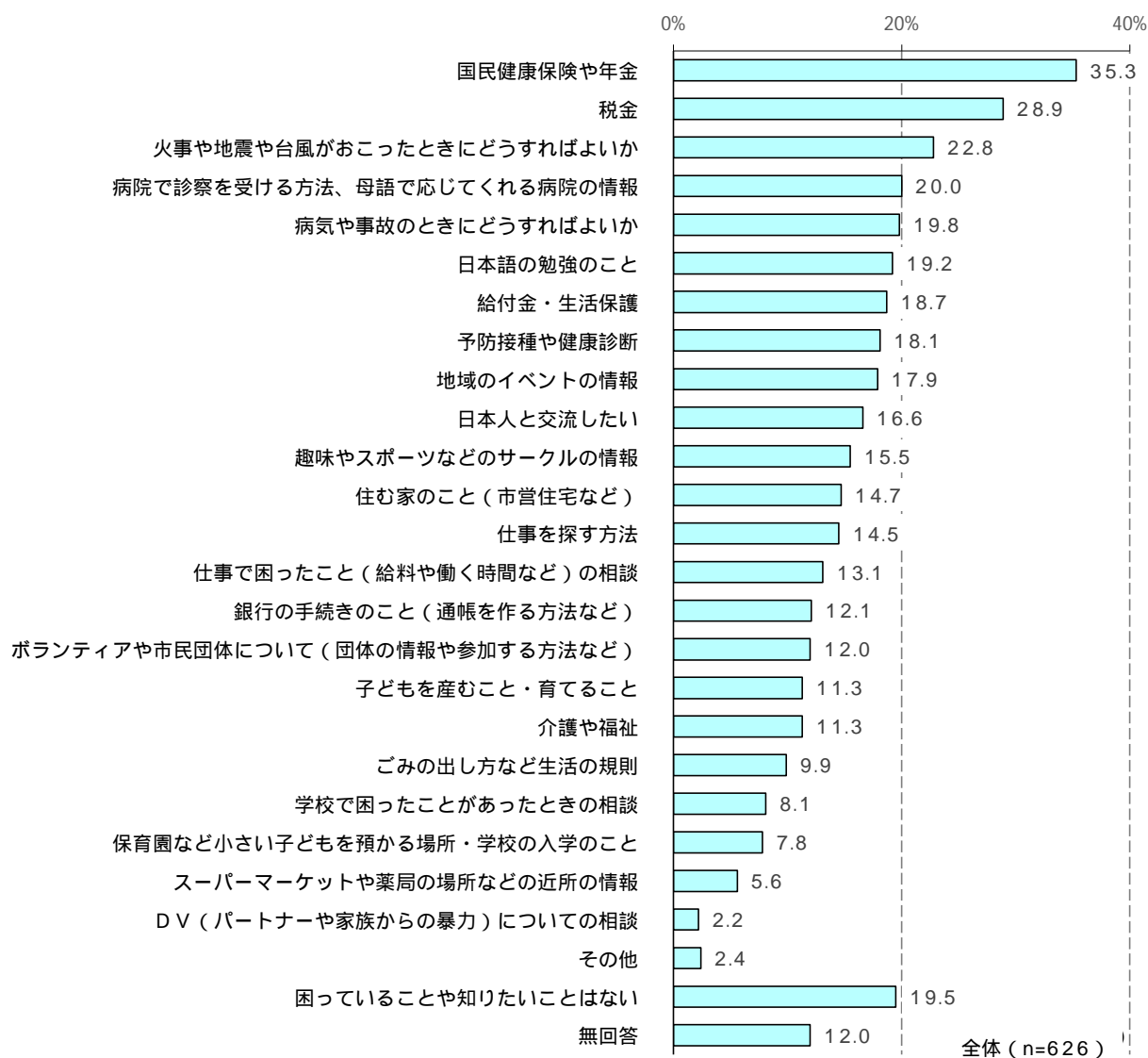


Q 9 あなたが生活で分からなくて困っていることや知りたい情報は何か。(複数回答)

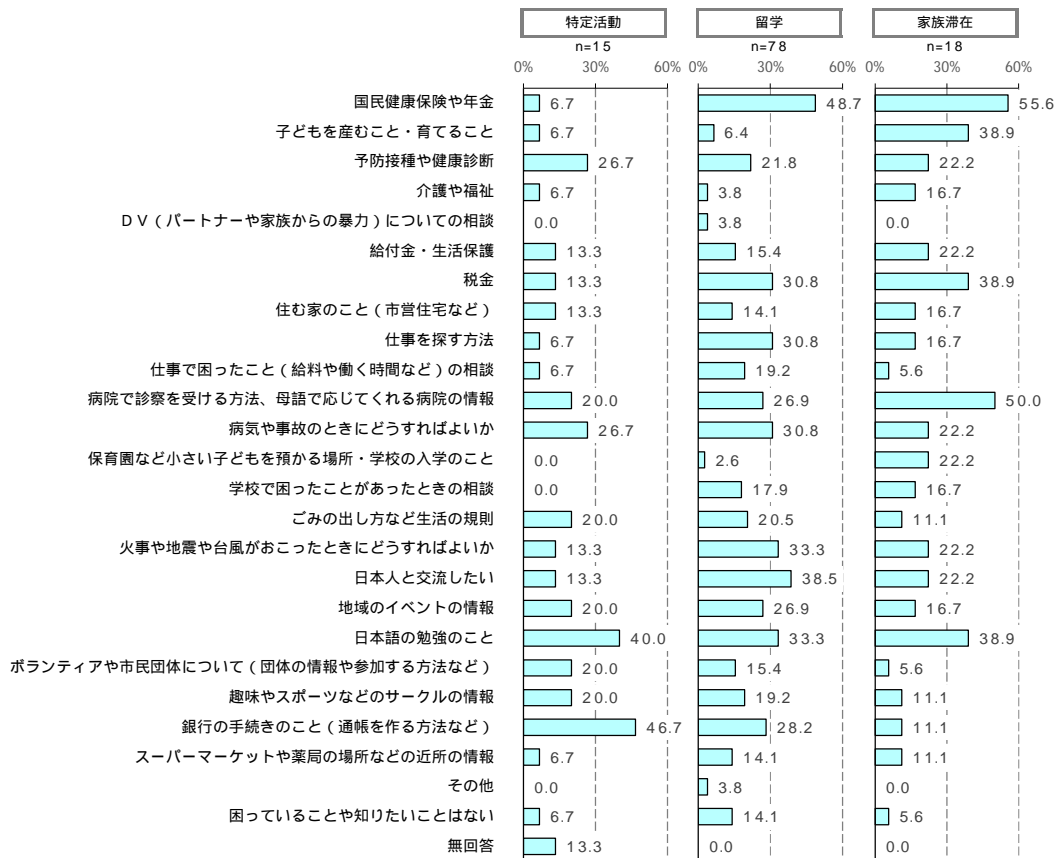
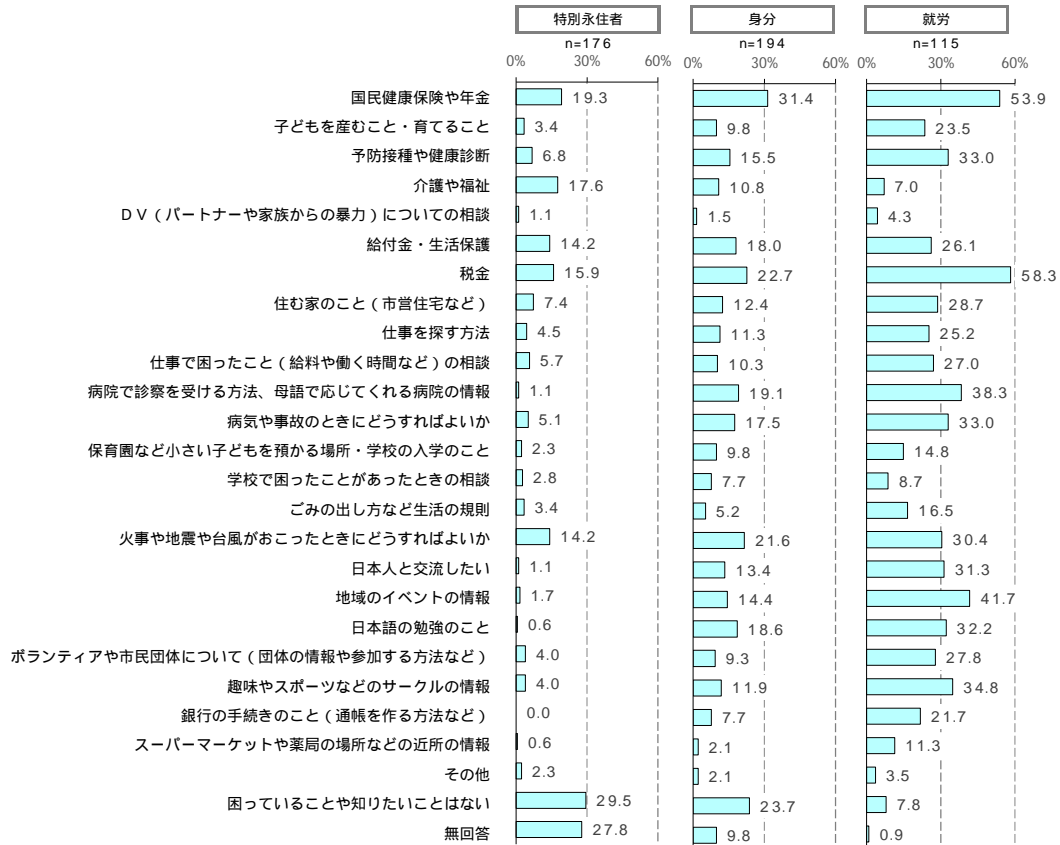
生活での困りごとや知りたい情報は、「国民健康保険や年金」(35.3%)、「税金」(28.9%)といった社会保障等に係る項目が上位で、次いで「火事や地震や台風がおこったときにどうすればよいか」(22.8%)、「病院で診察を受ける方法、母語で応じてくれる病院の情報」(20.0%)、「病気や事故のときにどうすればよいか」(19.8%)といった緊急時の対応に係る項目があがっている。

在留資格別にみると、「国民健康保険や年金」は就労、留学、家族滞在で、「税金」は就労で特に高い。特定活動では、「国民健康保険や年金」「税金」は低く、「銀行の手続きのこと」「日本語の勉強のこと」が高いのが特徴。また、就労で「地域のイベントの情報」、留学で「日本人と交流したい」が上位にあがっている点も特徴である。特別永住者では、「困っていることや知りたいことはない」を除くと、2割以上の項目はみられない。

【全体】



【在留資格別】

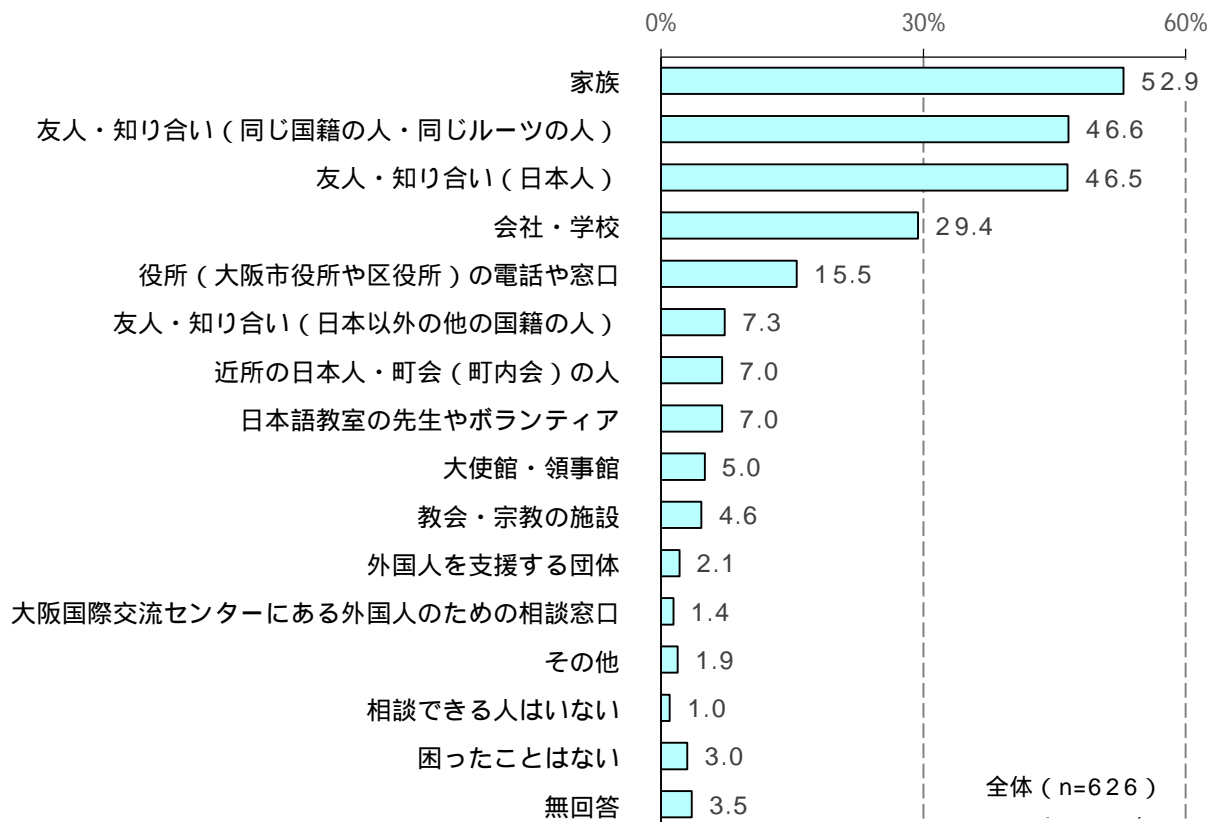


Q 10 あなたは生活で困っているとき、誰に相談しますか。(複数回答)

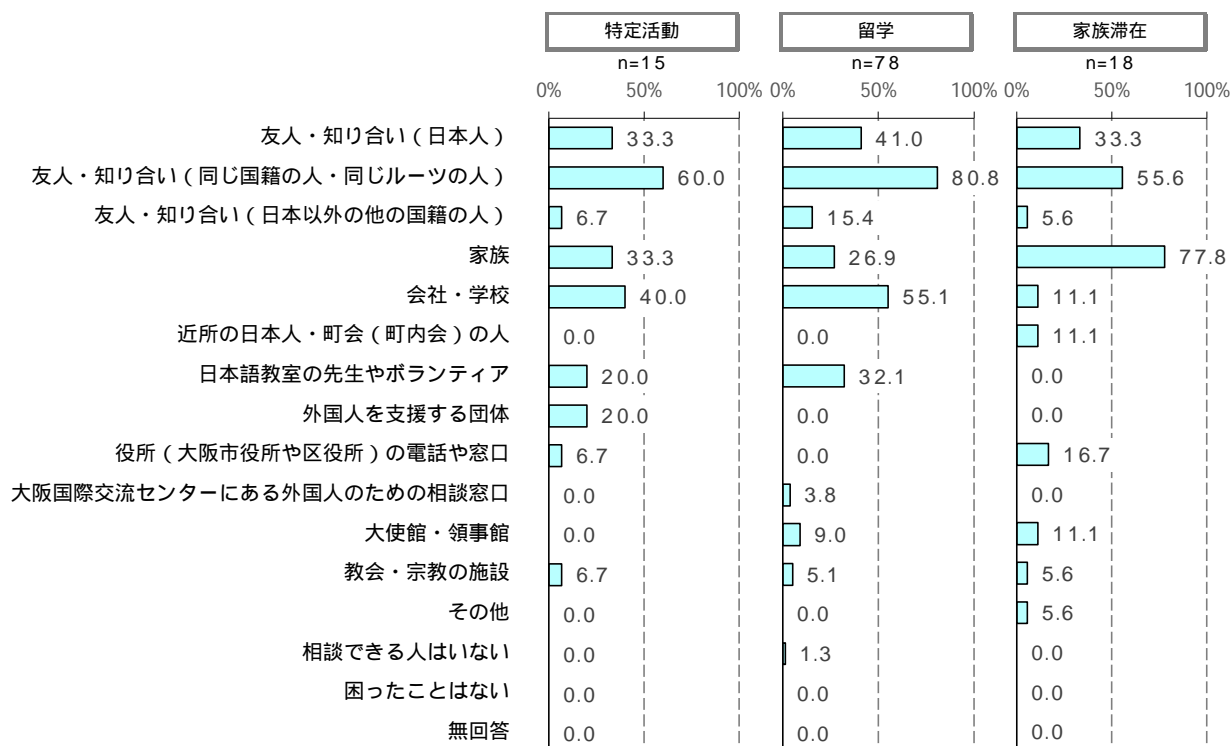
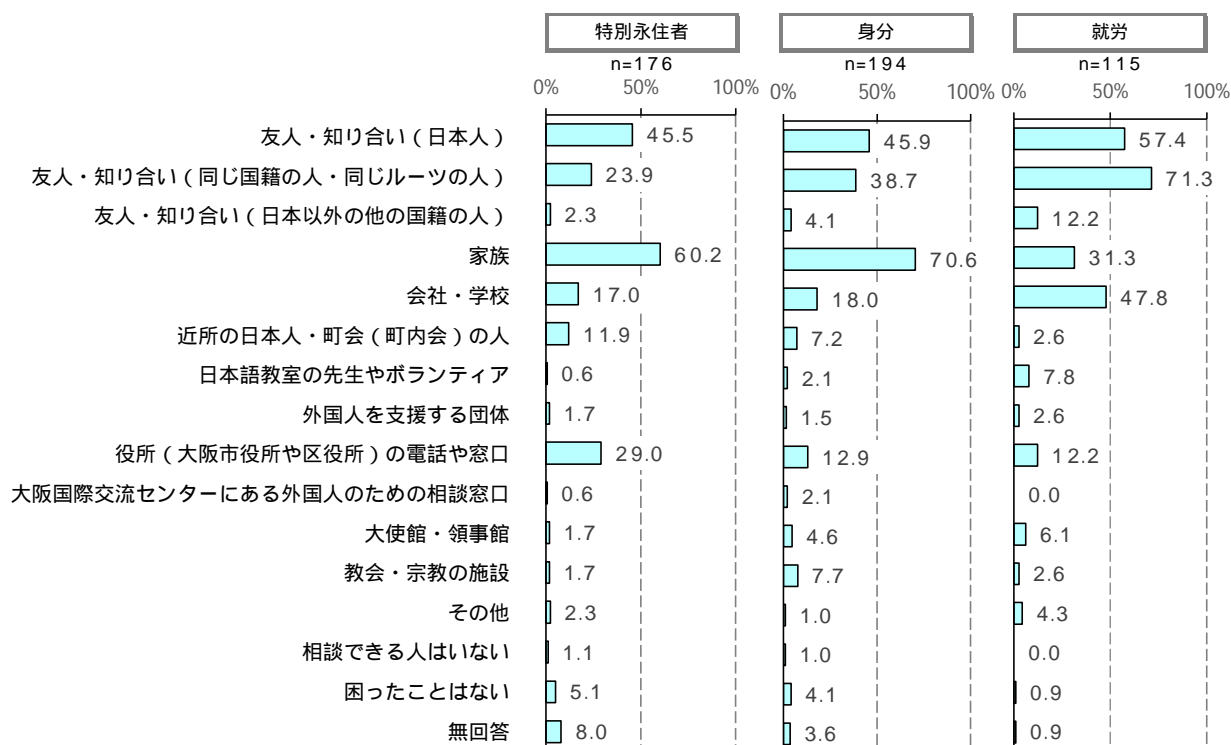
困りごとの相談相手は、「家族」が 52.9%で最も高く、次いで「友人・知り合い(同じ国籍の人・同じルーツの人)」(46.6%)、「友人・知り合い(日本人)」(46.5%)、「会社・学校」(29.4%)となっている。

在留資格別にみると、特別永住者、身分では、「家族」が最も高くなっている。就労、留学では「友人・知り合い(同じ国籍の人・同じルーツの人)」が最も高いが、特に留学では8割を超えている。

【全体】



【在留資格別】



Q 11 あなたは次のような場所に行ったり、活動していますか。(複数回答)

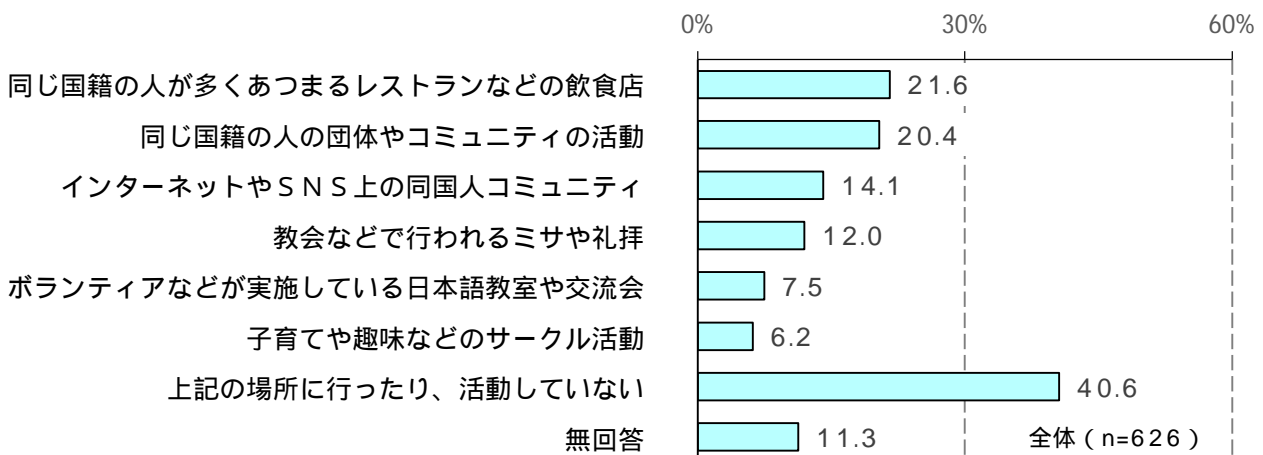
交流している場所や活動状況は、「同じ国籍の人が多くあつまるレストランなどの飲食店」(21.6%)、「同じ国籍の人の団体やコミュニティの活動」(20.4%)、「インターネットや SNS 上の同国人コミュニティ」(14.1%)の順に高くなっている。

国籍別にみると、韓国・朝鮮は「上記の場所に行ったり、活動していない」が 50.4%と過半数を占める。中国は「同じ国籍の人が多くあつまるレストランなどの飲食店」が 40.4%、ベトナム、台湾は「インターネットや SNS 上の同国人コミュニティ」が 3 割台、フィリピンは「教会などで行われるミサや礼拝」が 44.7%でトップとなっている。

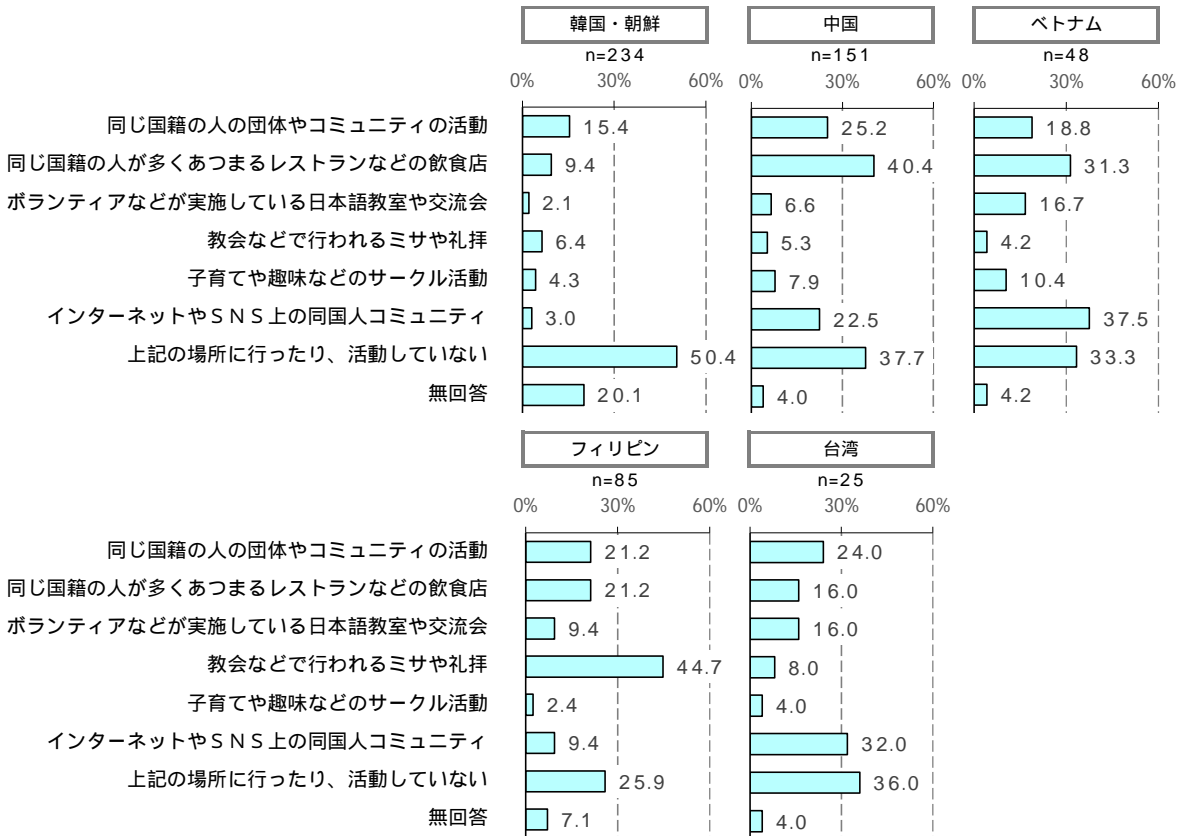
日本在住年数別にみると、1 年未満層では「同じ国籍の人が多くあつまるレストランなどの飲食店」が 4 割弱で最も高く、1～5 年層、6～10 年層では「同じ国籍の人が多くあつまるレストランなどの飲食店」「インターネットや SNS 上の同国人コミュニティ」が約 3 割で上位となっている。また、11～15 年層と日本で生まれた層では、選択肢にある交流活動への参加率は低い。

在留資格別にみると、就労では「同じ国籍の人が多くあつまるレストランなどの飲食店」「インターネットや SNS 上の同国人コミュニティ」、留学では「同じ国籍の人が多くあつまるレストランなどの飲食店」が上位である。「インターネットや SNS 上の同国人コミュニティ」については、就労・留学が、その他の資格に比べて高い。また、特別永住者と身分では、選択肢にある交流活動への参加率は低い。

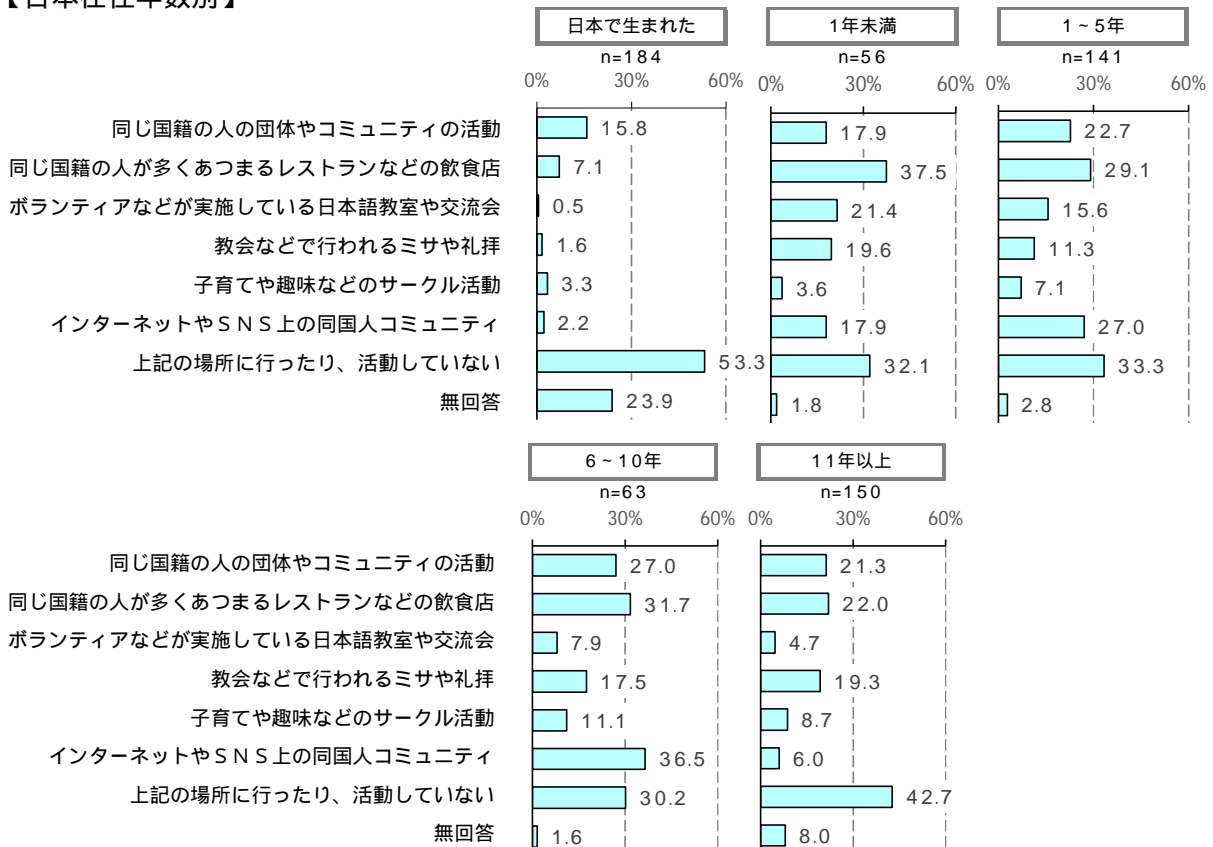
【全体】



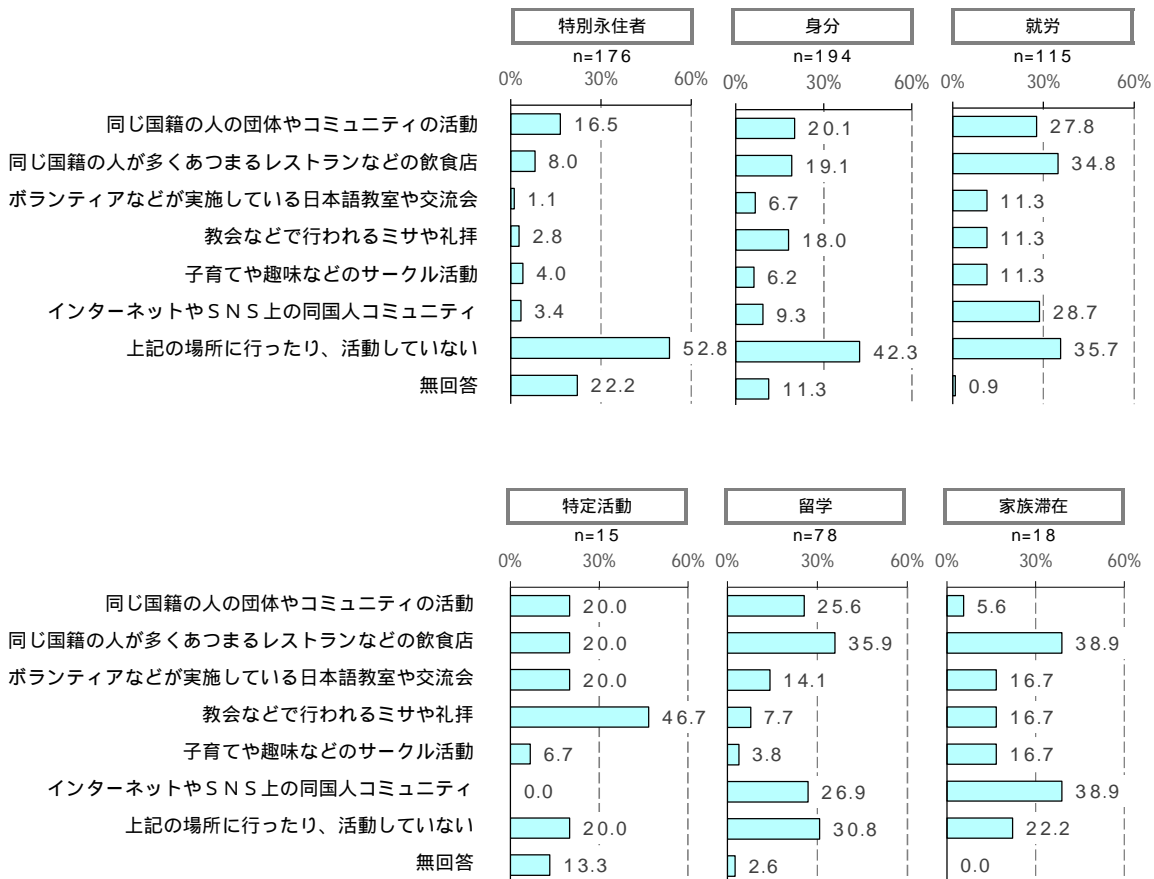
【国籍別】



【日本在住年数別】



【在留資格別】



Q 12 あなたは次のような地域の団体の活動や、イベントに参加していますか。(複数回答)

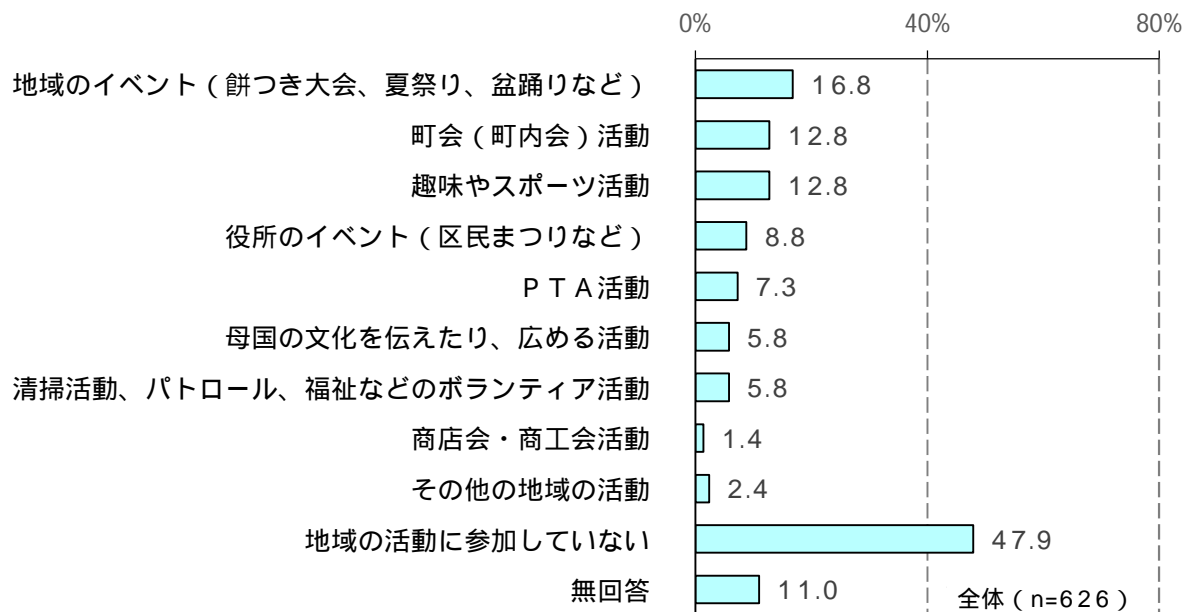
地域の団体の活動やイベントへの参加状況は、「地域の活動に参加していない」が47.9%と半数近くを占め、各活動への参加率も2割に満たない。活動内容でみると、「地域のイベント(餅つき大会、夏祭り、盆踊りなど)」が16.8%で最も高く、次いで「町会(町内会)活動」「趣味やスポーツ活動」がともに12.8%となっている。

国籍別にみると、ベトナムで非参加率が64.6%と特に高い。「地域のイベント(餅つき大会、夏祭り、盆踊りなど)」への参加率は、台湾で32.0%、中国で23.2%と高い。韓国・朝鮮では「町会(町内会)活動」への参加率が22.2%と高い。

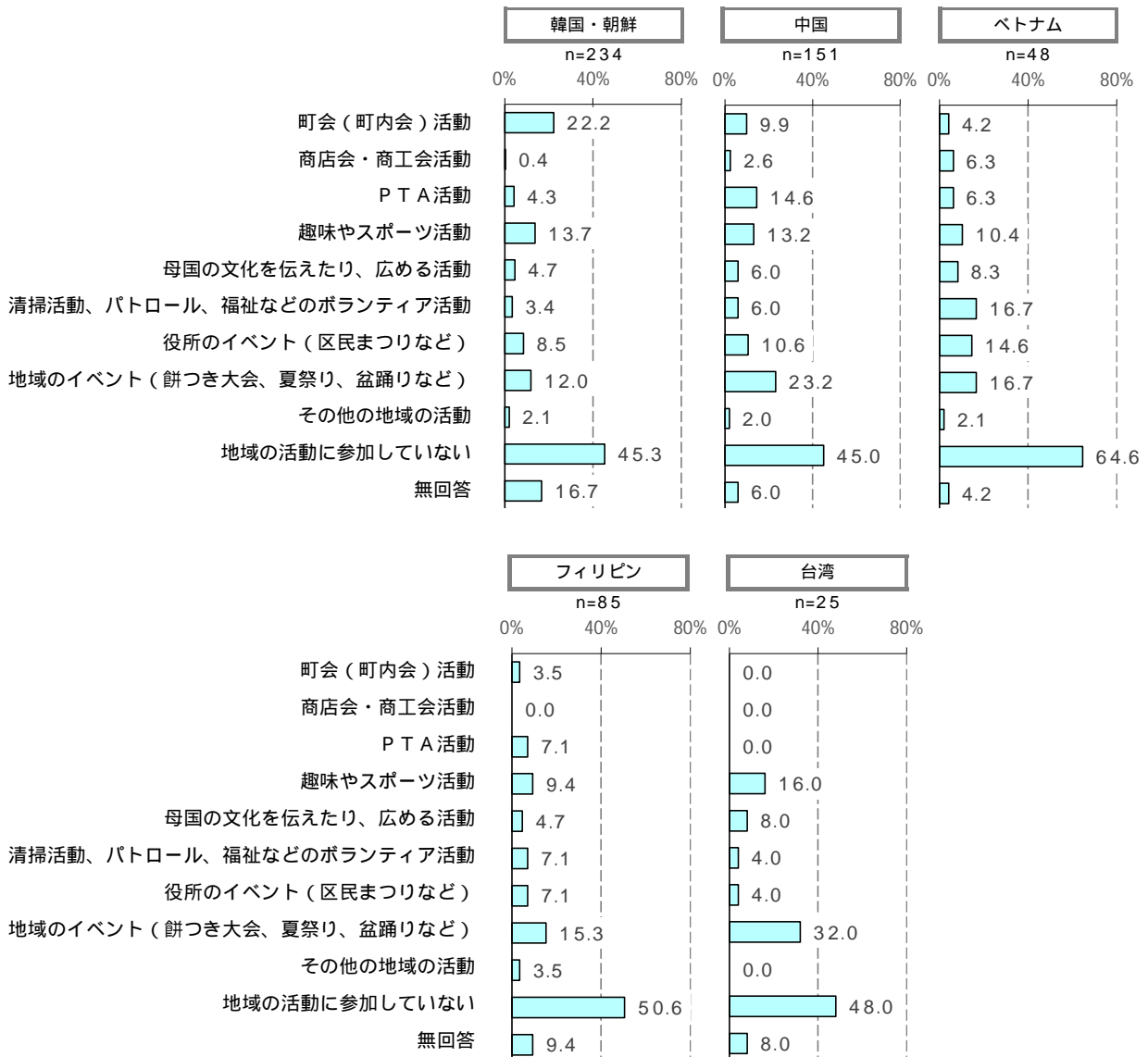
日本在住年数別にみると、日本で生まれた層は「町会(町内会)活動」への参加率が28.3%、1年未満層では「地域のイベント(餅つき大会、夏祭り、盆踊りなど)」への参加率が26.8%と高い。1～5年層、6～10年層では、非参加率が約6割と高い。

在留資格別にみると、特別永住者では「町会(町内会)活動」への参加率が28.4%と高い。就労では、非参加率が高いが、「地域のイベント(餅つき大会、夏祭り、盆踊りなど)」への参加率は他層より高い。

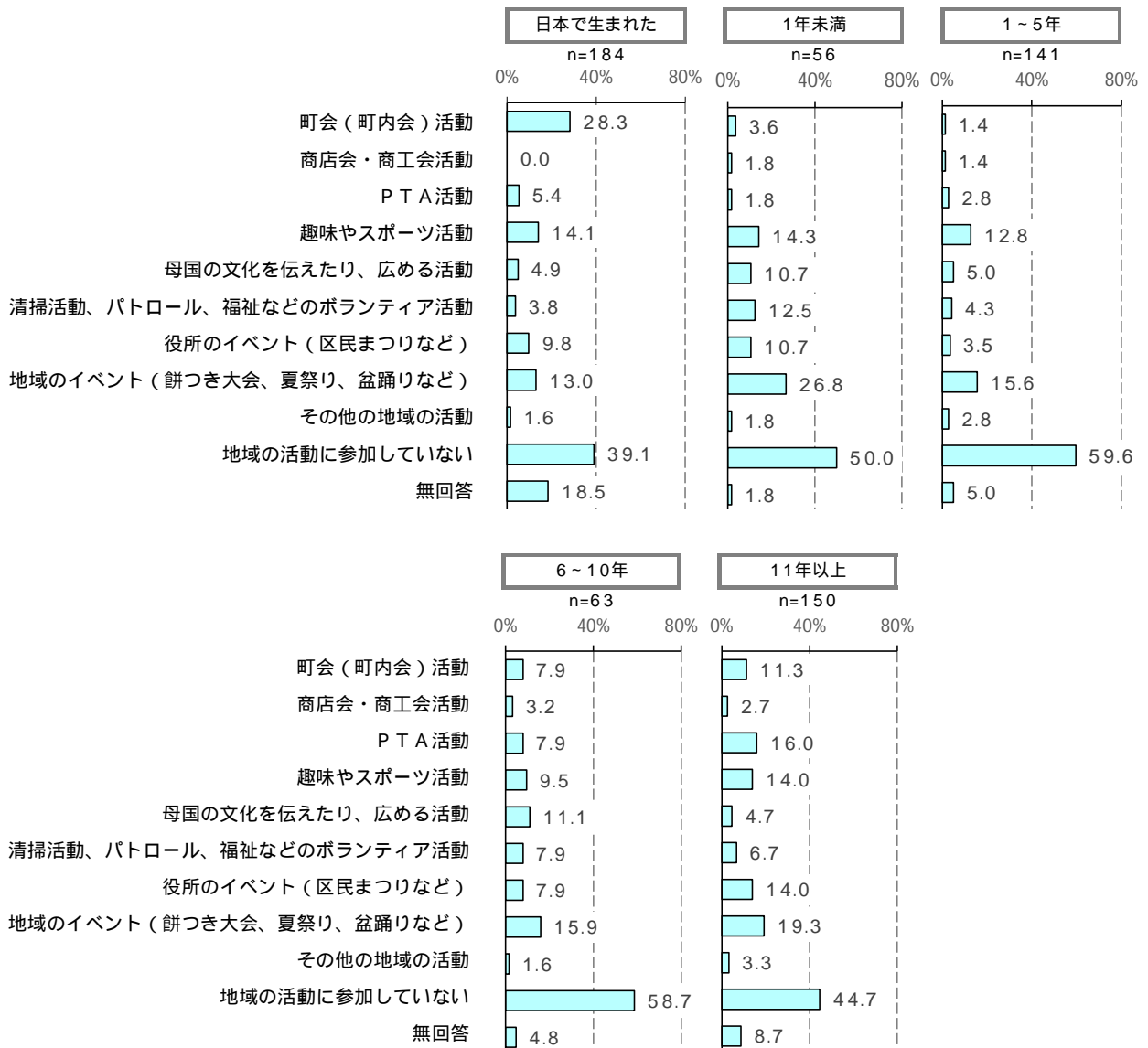
【全体】



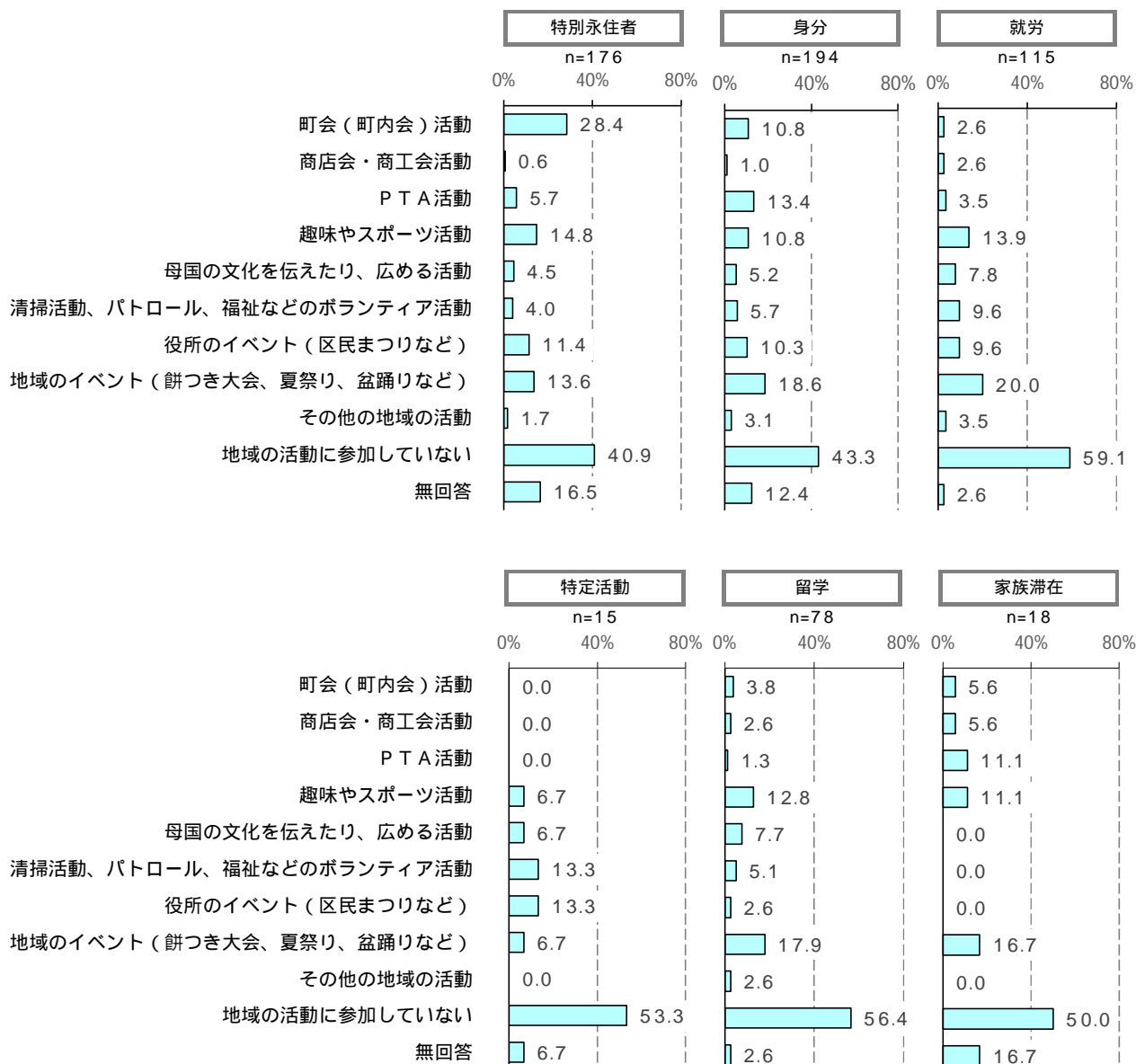
【国籍別】



【日本在住年数別】



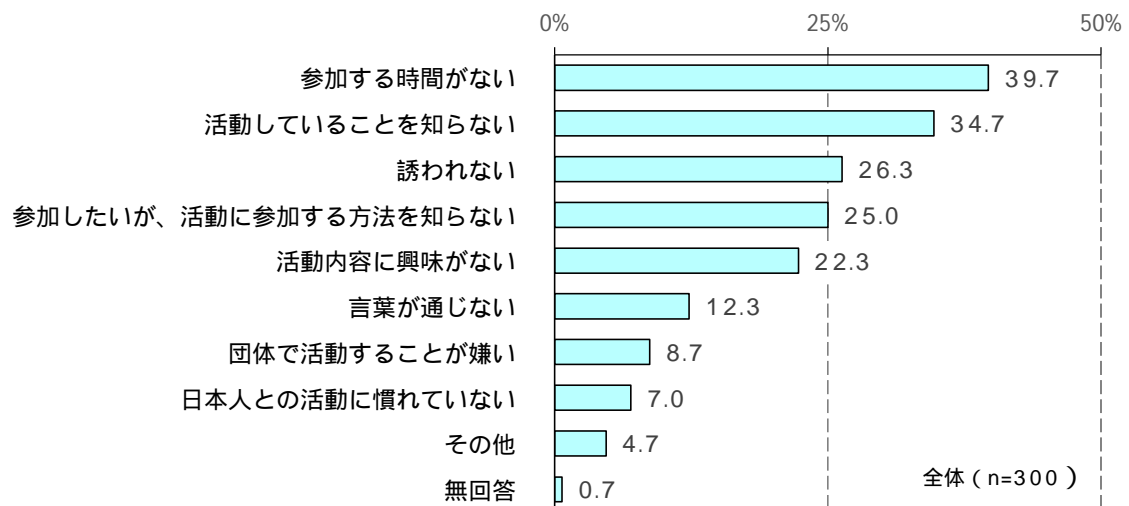
【在留資格別】



Q 13 (Q 12で「地域の活動に参加していない」を選んだ人が教えてください。)

あなたが地域の活動に参加していない理由は何ですか。(複数回答)

地域の活動に参加していない理由は、「参加する時間がない」(39.7%)、「活動していることを知らない」(34.7%)、「誘われない」(26.3%)、「参加したいが、活動に参加する方法を知らない」(25.0%)の順に高くなっている。



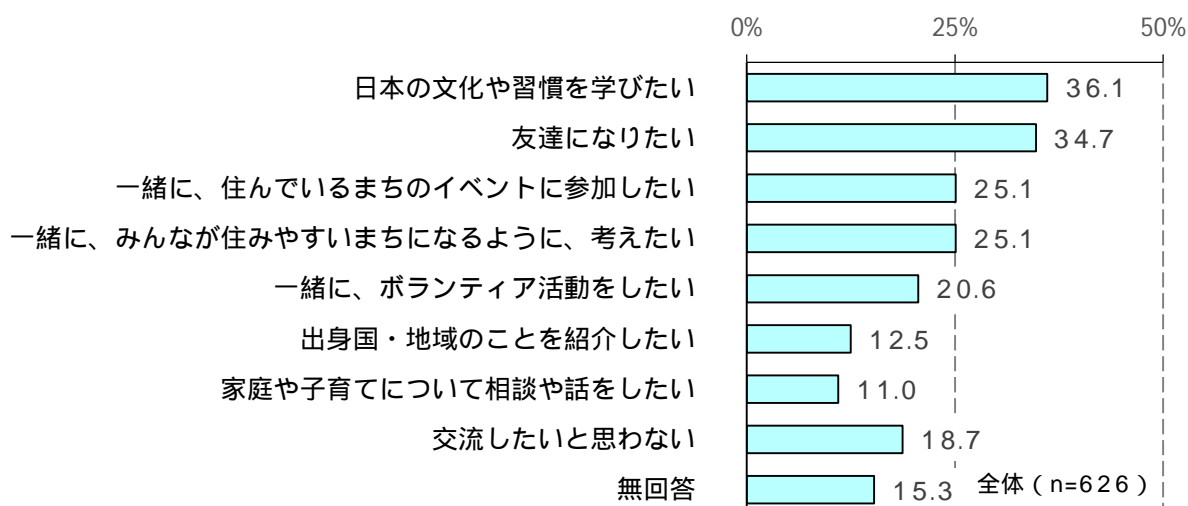
Q 14 あなたは、住んでいるまちで、どんな活動・交流をしたいと思いますか。(複数回答)

地域での活動・交流意向は、「日本の文化や習慣を学びたい」(36.1%)、「友達になりたい」(34.7%)、「一緒に、住んでいるまちのイベントに参加したい」「一緒に、みんなが住みやすいまちになるように、考えたい」(ともに 25.1%)の順に高くなっている。

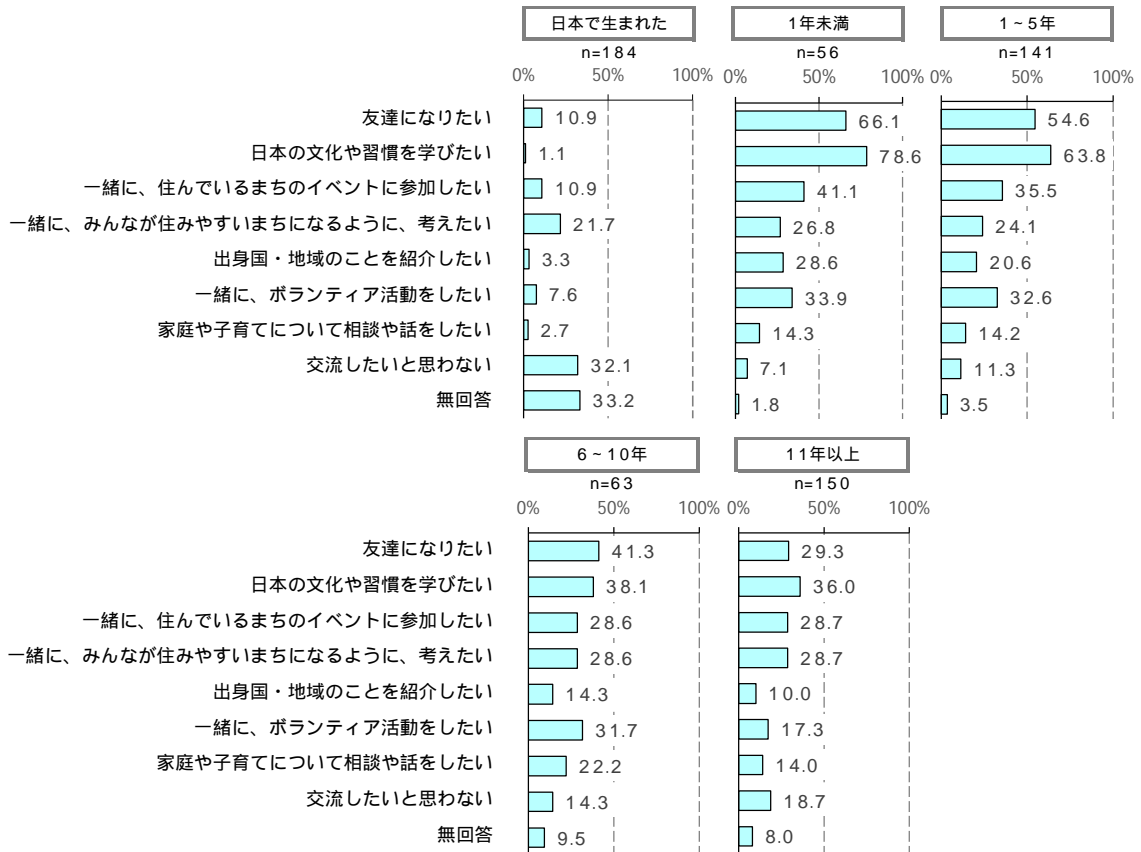
日本在住年数別にみると、1年未満層、1～5年層で「日本の文化や習慣を学びたい」がそれぞれ78.6%、63.8%、「友達になりたい」がそれぞれ66.1%、54.6%と高い。

在留資格別にみると、「日本の文化や習慣を学びたい」は留学で7割以上、就労で6割以上と高い。「友達になりたい」は、就労、留学で6割弱と高い。

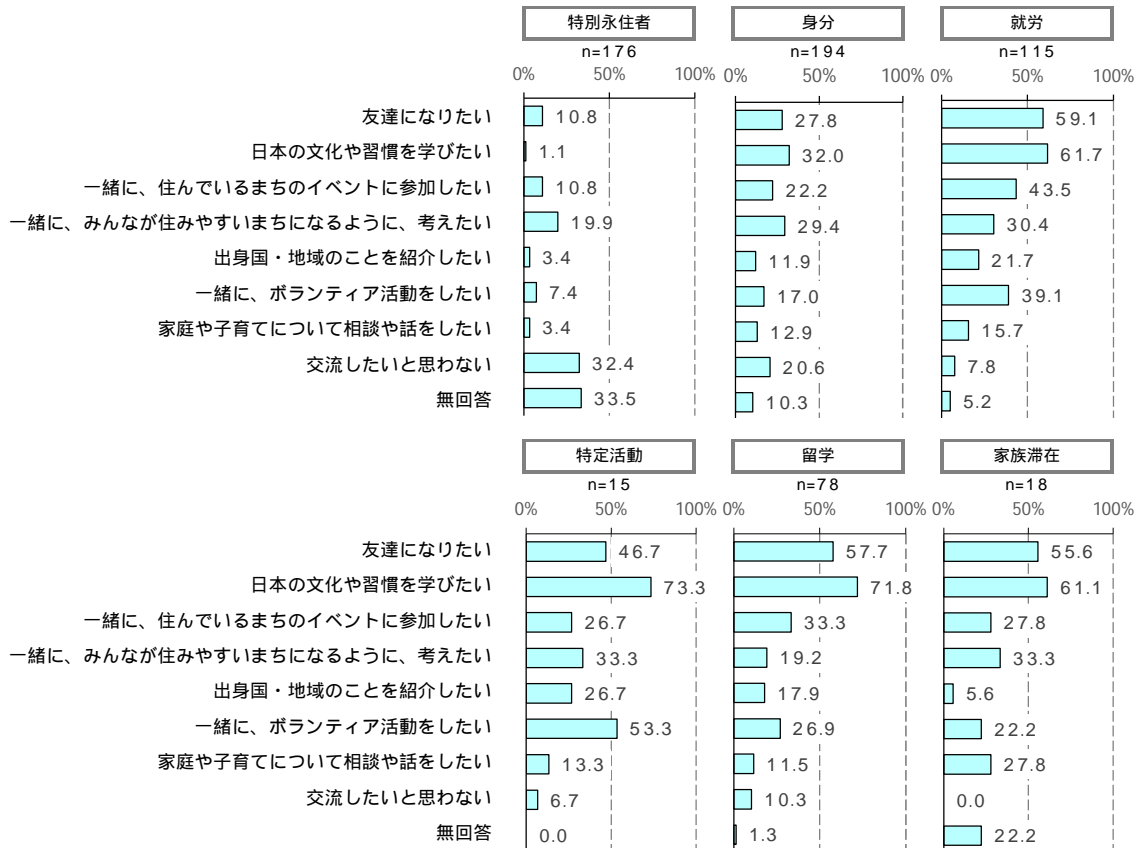
【全体】



【日本在住年数別】



【在留資格別】



2 . 住まいと防災について

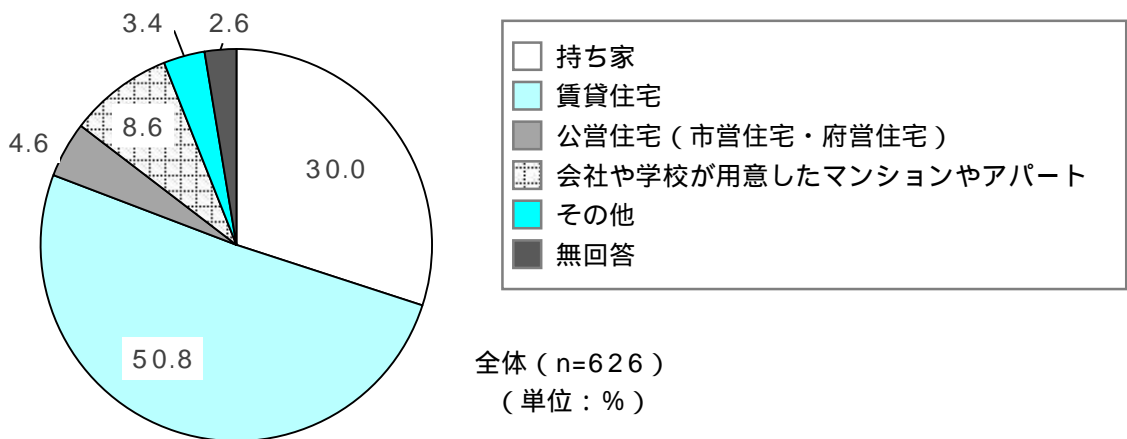
Q 15 あなたは、今、どのような家に住んでいますか。(単一回答)

住居形態は、「賃貸住宅」が50.8%と約半数を占め、次いで「持ち家」が30.0%、「会社や学校が用意したマンションやアパート」が8.6%となっている。

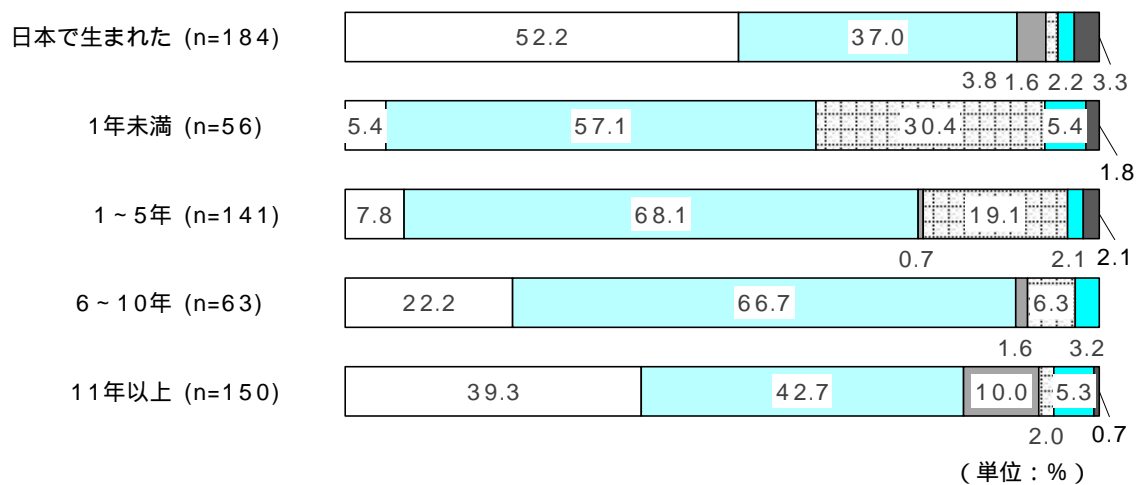
日本在住年数別にみると、在住年数が長いほど、「持ち家」の比率が高く、日本で生まれた層は52.2%と半数以上が「持ち家」である。1年未満層では「会社や学校が用意したマンションやアパート」が30.4%と高く、1~5年層でも19.1%みられる。

在留資格別にみると、「持ち家」は特別永住者で52.3%、身分で37.1%と高く、「賃貸住宅」は留学で83.3%と高い。就労では「会社や学校が用意したマンションやアパート」が2割を超えており、他層に比べて高くなっている。

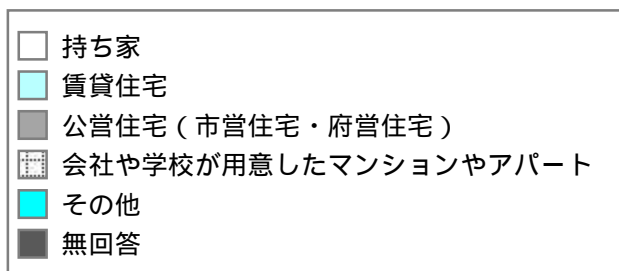
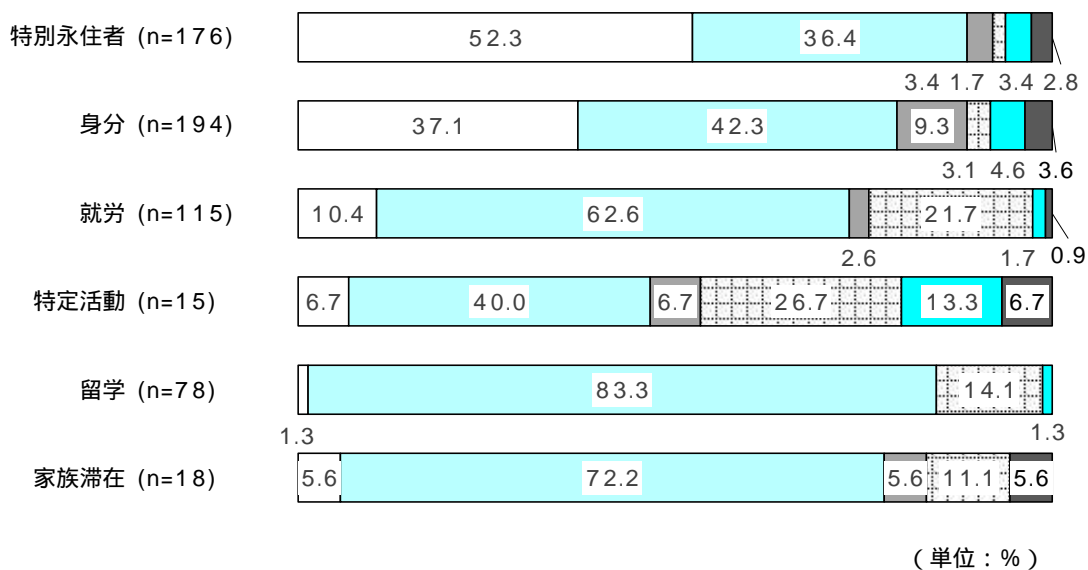
【全体】



【日本在住年数別】

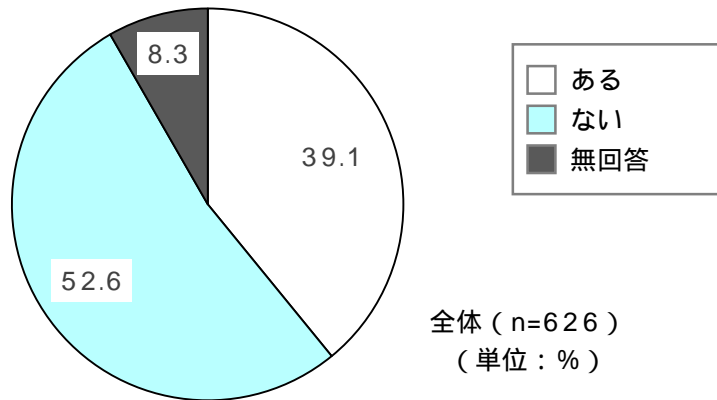


【在留資格別】



Q 16 あなたは大阪市で過去5年間に住む家を探したことがありますか。(単一回答)

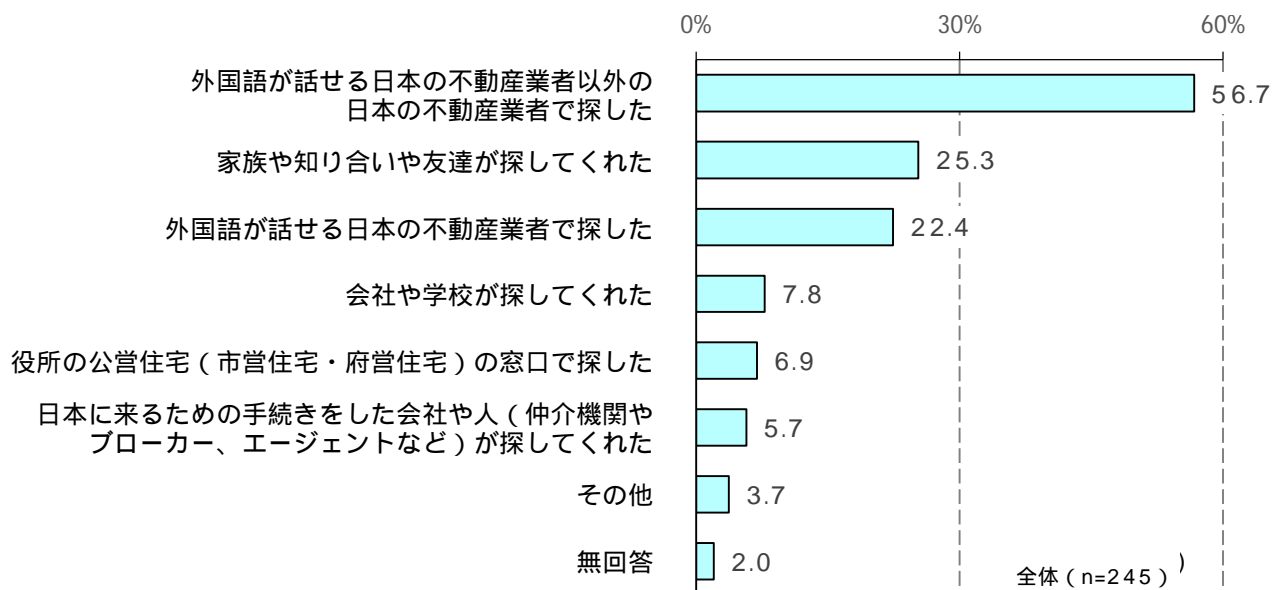
過去5年間で家を探した経験が「ある」と回答した割合は39.1%、「ない」は52.6%となっている。



Q 16-1 (「ある」と答えた方にお聞きします。)

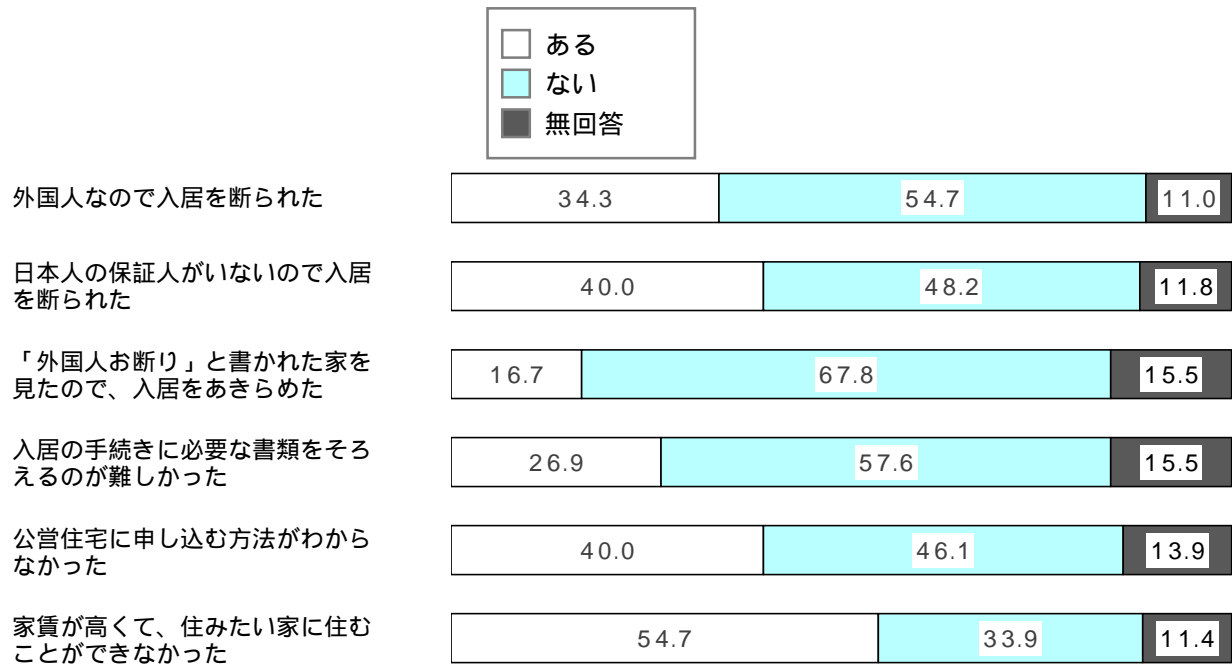
そのときに、住む家をどのように探しましたか。(単一回答)

家を探した方法は、「外国語が話せる業者以外の日本の不動産業者で探した」が56.7%と特に高い。次いで、「家族や知り合いや友達が探してくれた」(25.3%)、「外国語が話せる日本の不動産業者で探した」(22.4%)となっている。



Q 16-2 そのときに、次のような経験をしたことがありますか。(単一回答)

家を探したときの経験で「ある」と回答した割合は「家賃が高くて、住みたい家に住むことができなかった」が54.7%と最も高い。「日本人の保証人がいないので入居を断られた」「公営住宅に申し込む方法がわからなかった」でともに40.0%、次いで、「外国人なので入居を断られた」で34.3%となっている。

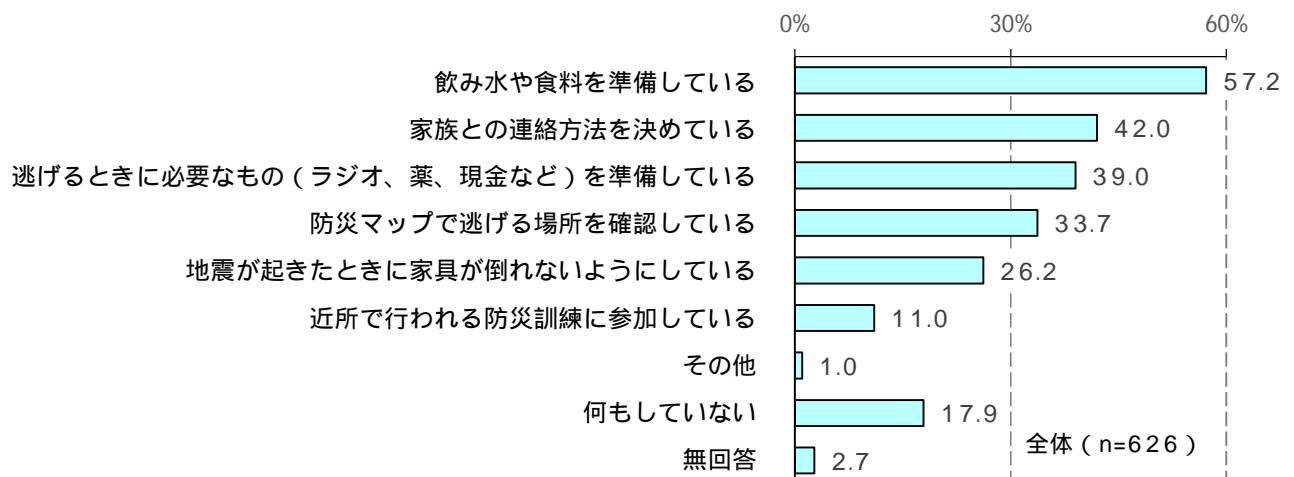


(n=245)

(単位：%)

Q 17 あなたは災害（地震や台風など）が起きた時のために次のような準備をしていますか。
（複数回答）

災害への備えは、「飲み水や食料を準備している」人が 57.2%で最も高い。以下、「家族との連絡方法を決めている」(42.0%)、「逃げるときに必要なもの(ラジオ、薬、現金など)を準備している」(39.0%)、「防災マップで逃げる場所を確認している」(33.7%)が上位となっている。一方、「何もしていない」人も 17.9%みられた。



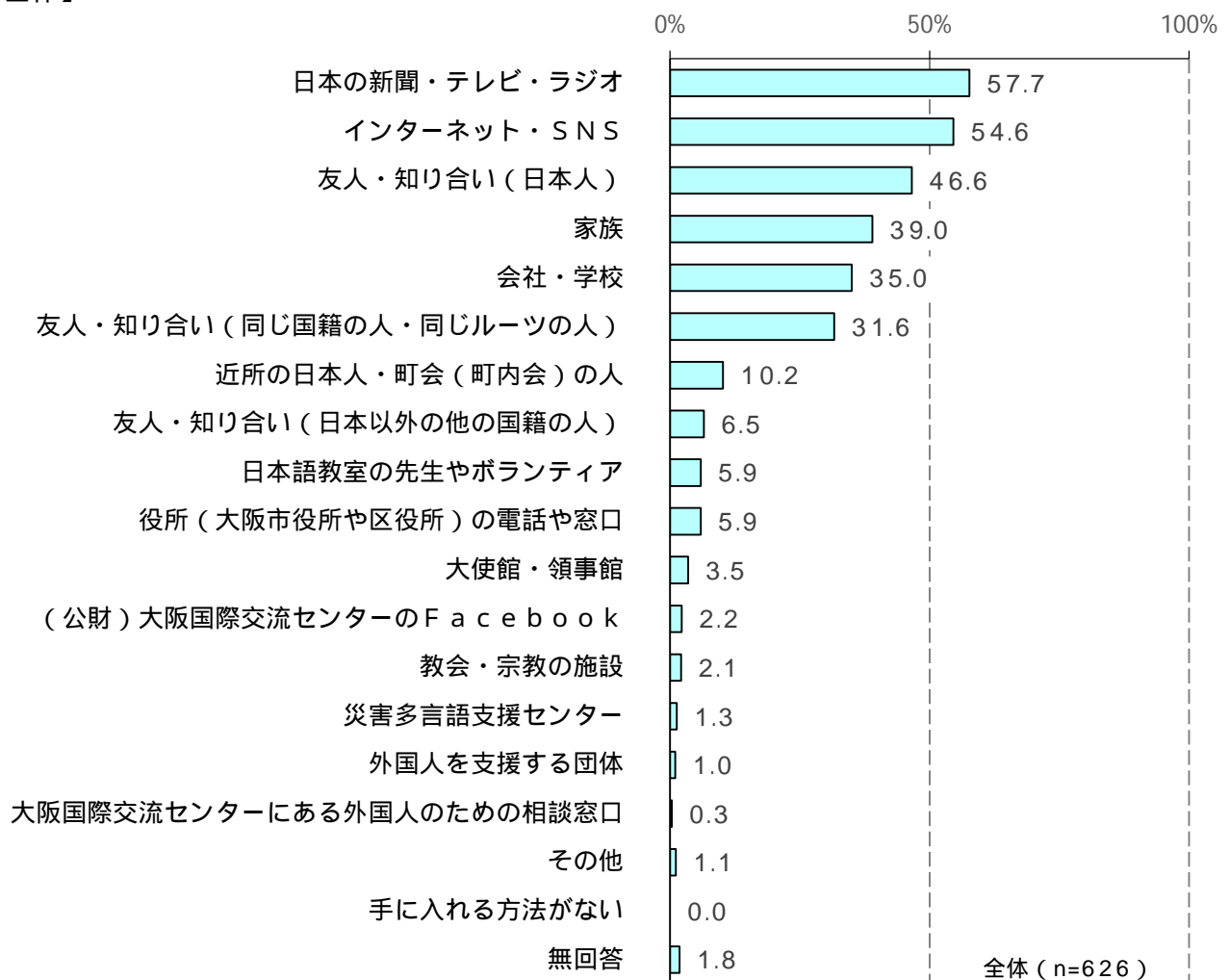
Q 18 あなたは地震、津波、台風などの災害の情報をどこから手に入れていますか。(複数回答)

災害に関する情報源は、「日本の新聞・テレビ・ラジオ」(57.7%)、「インターネット・SNS」(54.6%)が上位となっている。次いで、「友人・知り合い(日本人)」(46.6%)、「家族」(39.0%)、「会社・学校」(35.0%)、「友人・知り合い(同じ国籍の人・同じルーツの人)」(31.6%)といった身近な人があがっている。

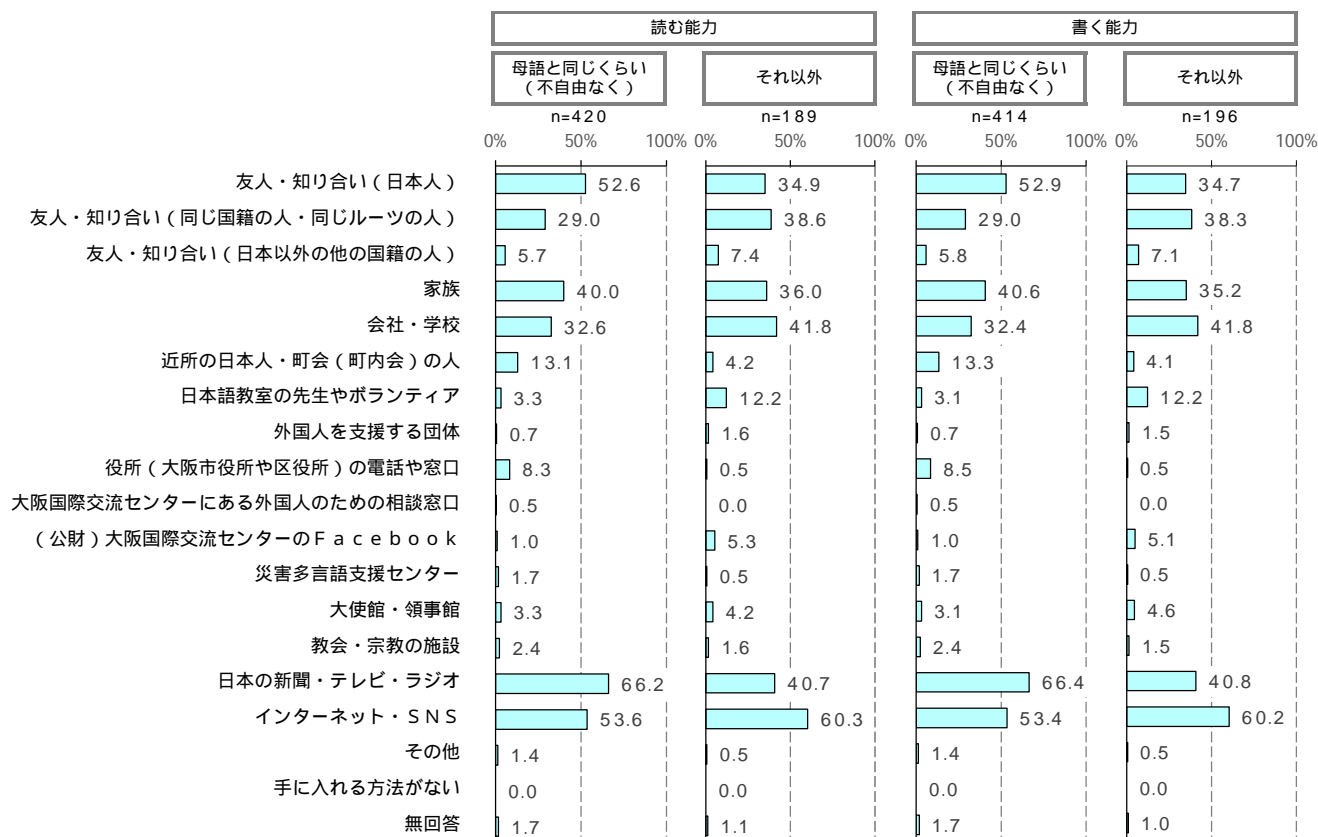
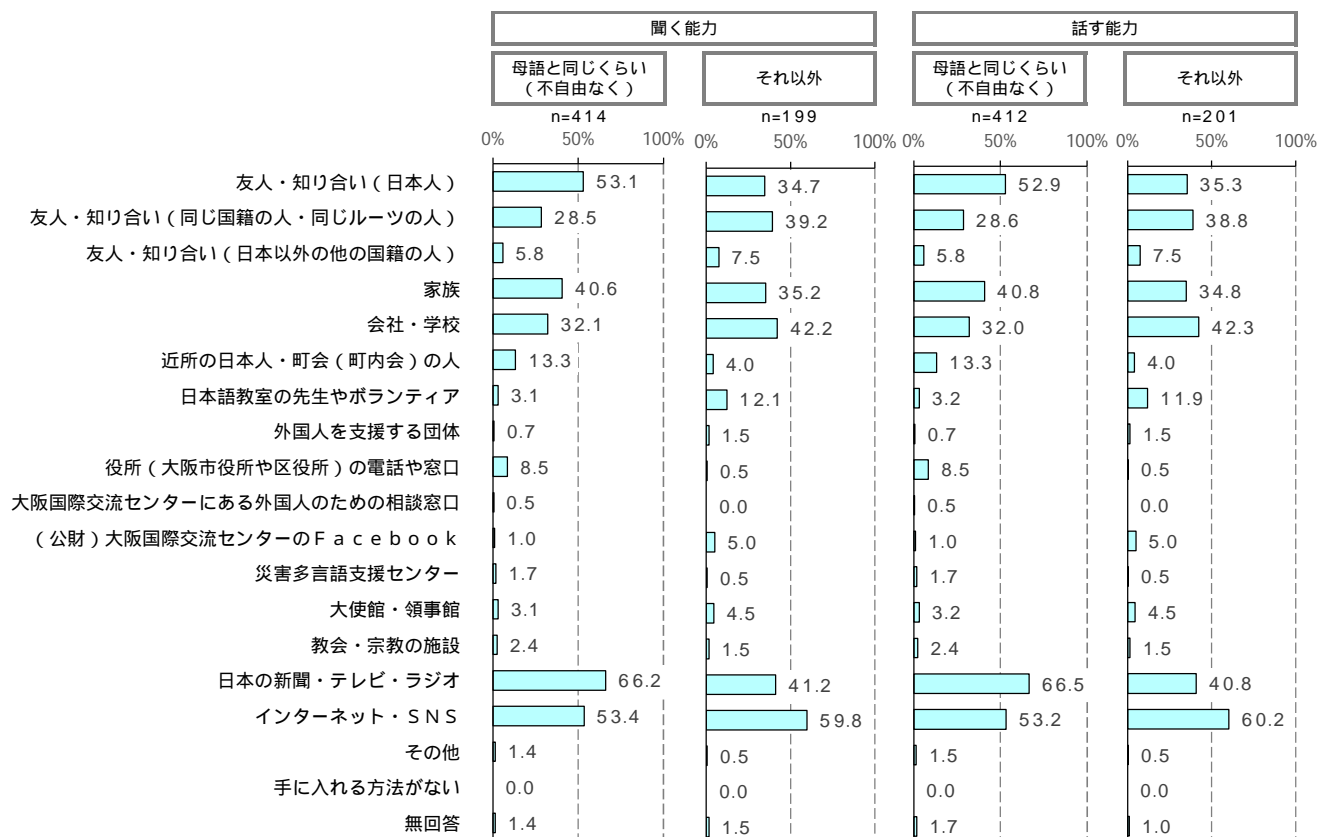
日本語能力別にみると、「母語と同じくらい(不自由なく)」で「日本の新聞・テレビ・ラジオ」、「それ以外」で「インターネット・SNS」の方が高い傾向。友人・知り合いについては、「友人・知り合い(日本人)」は、「母語と同じくらい(不自由なく)」で高くなっている。

在留資格別にみると、特別永住者、身分では「日本の新聞・テレビ・ラジオ」が6割以上、就労、留学では「インターネット・SNS」が7割以上で最も高い。

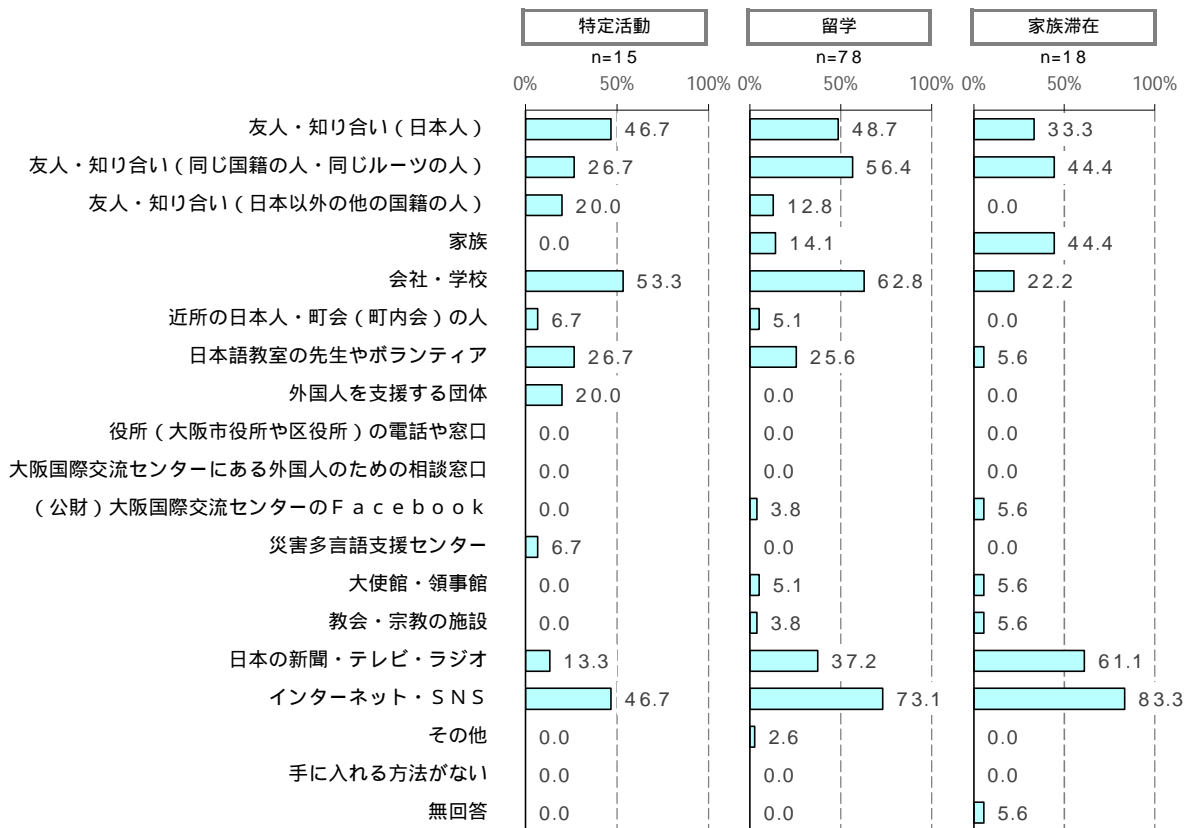
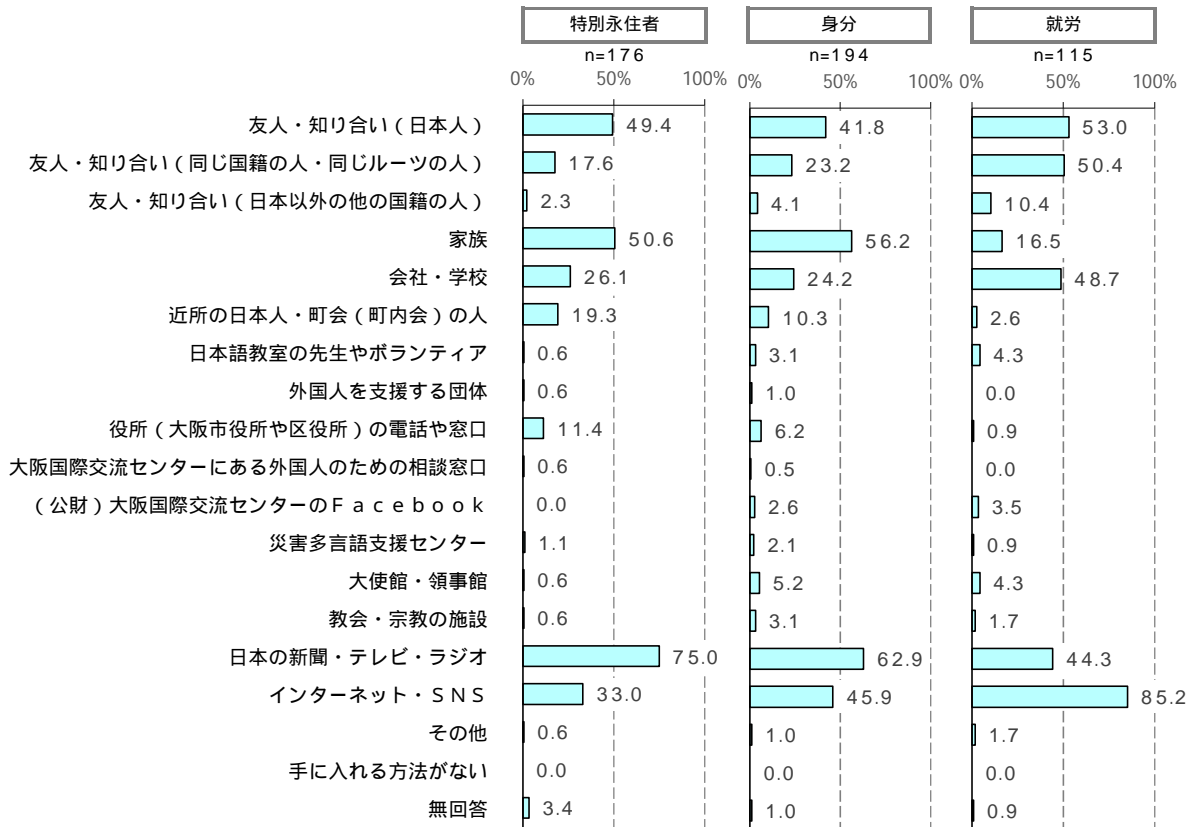
【全体】



【日本語能力別】

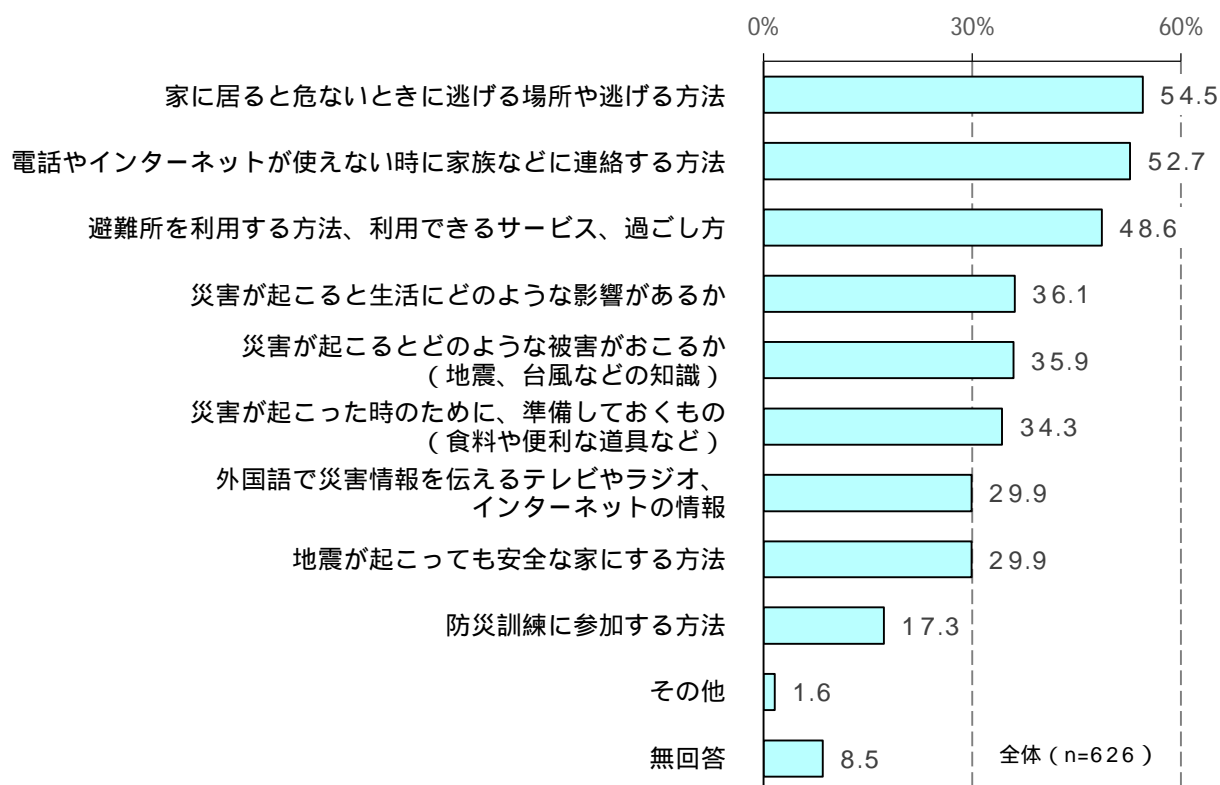


【在留資格別】



Q 19 あなたは災害に準備をするために、どのようなことが知りたいですか。(複数回答)

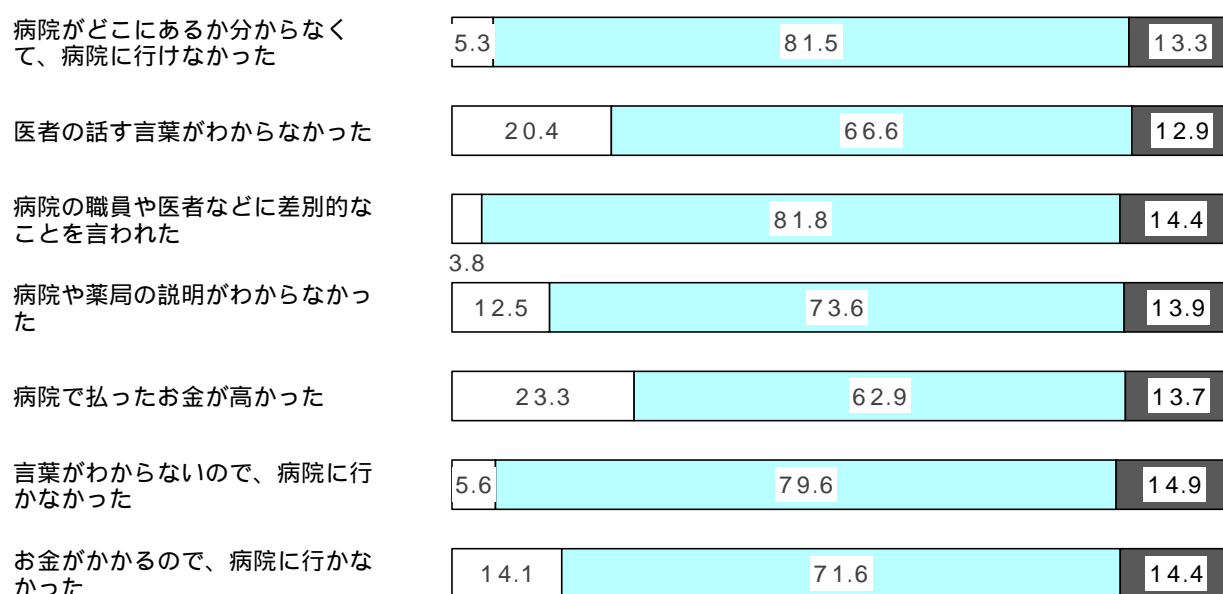
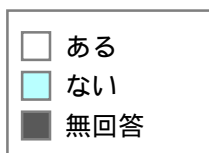
災害に備えるために知りたい情報は、「家に居ると危ないときに逃げる場所や逃げる方法」(54.5%)、「電話やインターネットが使えない時に家族などに連絡する方法」(52.7%)、「避難所を利用する方法、利用できるサービス、過ごし方」(48.6%)が上位となっている。



3 . 医療・保険・福祉について

Q 20 あなたは過去1年間で、病気になったときに次のような経験はありますか。(単一回答)

病気になったときに、経験したことが「ある」のは、「病院で払ったお金が高かった」(23.3%)、「医師の話す言葉がわからなかった」(20.4%)と高い。



(n=626)

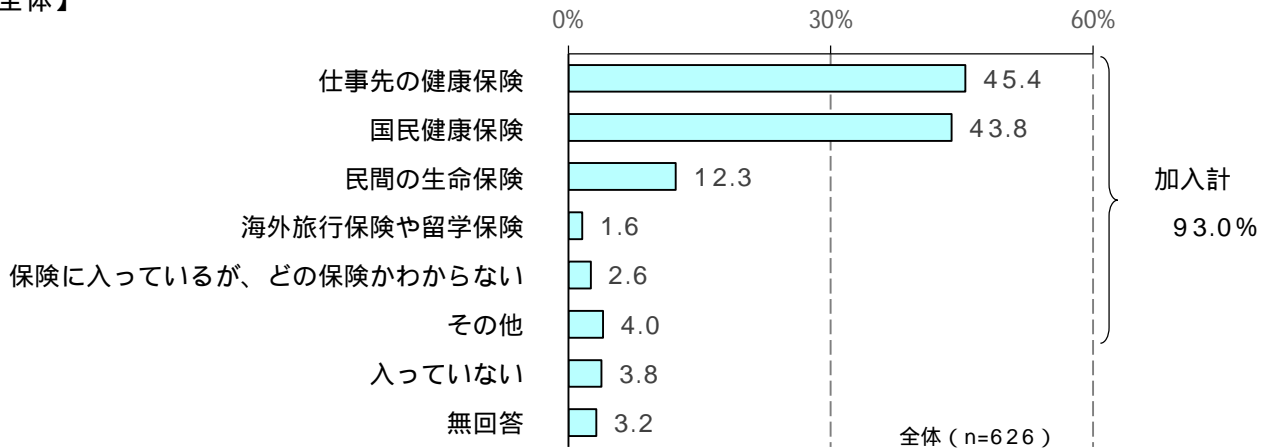
(単位：%)

Q 21 あなたは、今、どのような健康保険（医療保険）に入っていますか。（複数回答）

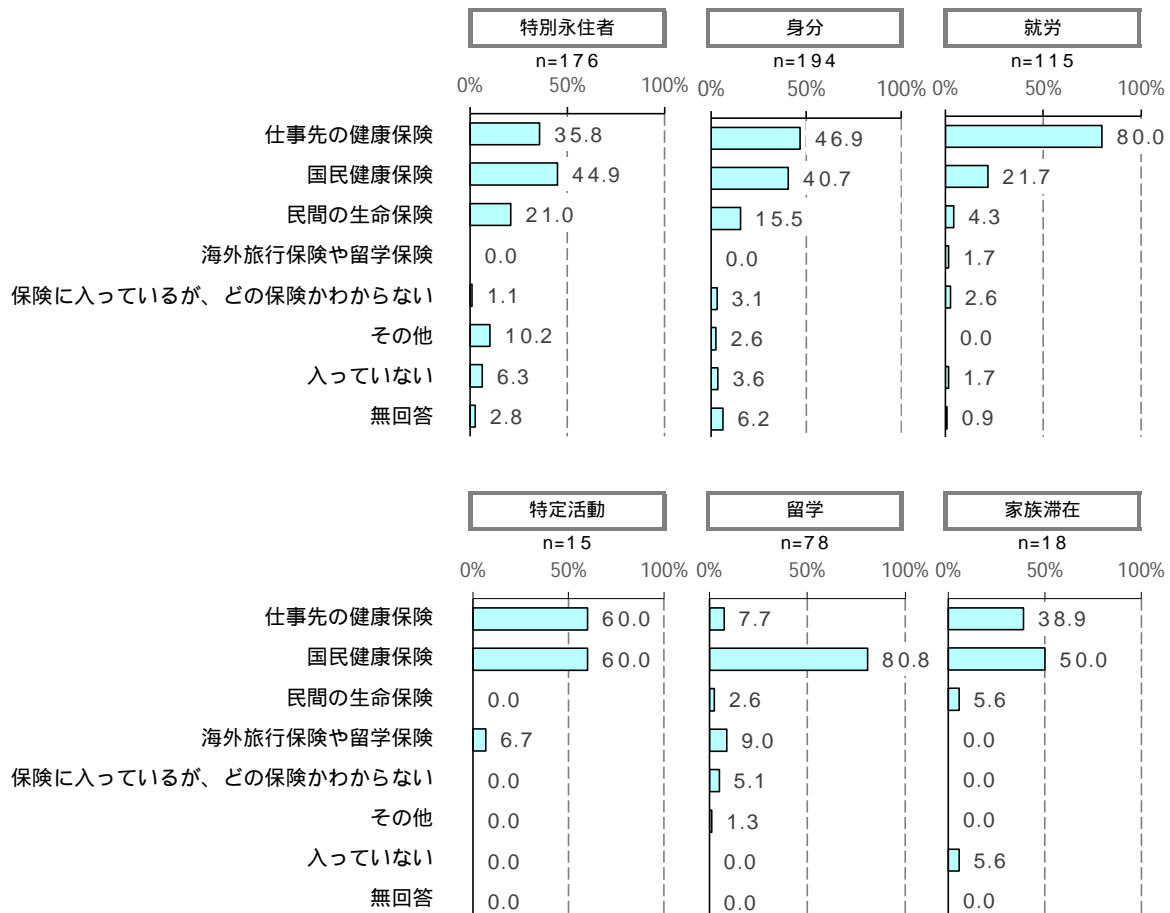
健康保険の加入状況は、93.0%が何らかの健康保険に加入しており、「仕事先の健康保険」が45.4%、「国民健康保険」が43.8%となっている。

在留資格別にみると、就労では「仕事先の健康保険」が80.0%、留学では「国民健康保険」が80.8%とかなり高くなっている。

【全体】



【在留資格別】

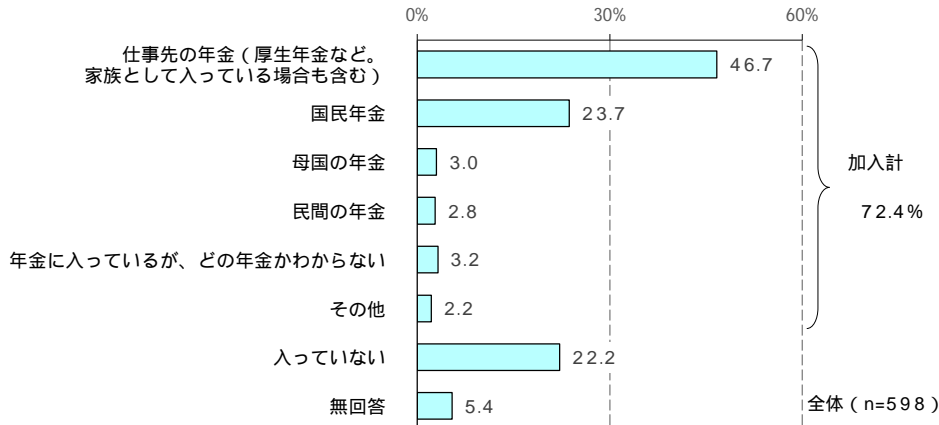


Q 22 あなたは、今、どのような年金に入っていますか。【20歳以上】(複数回答)

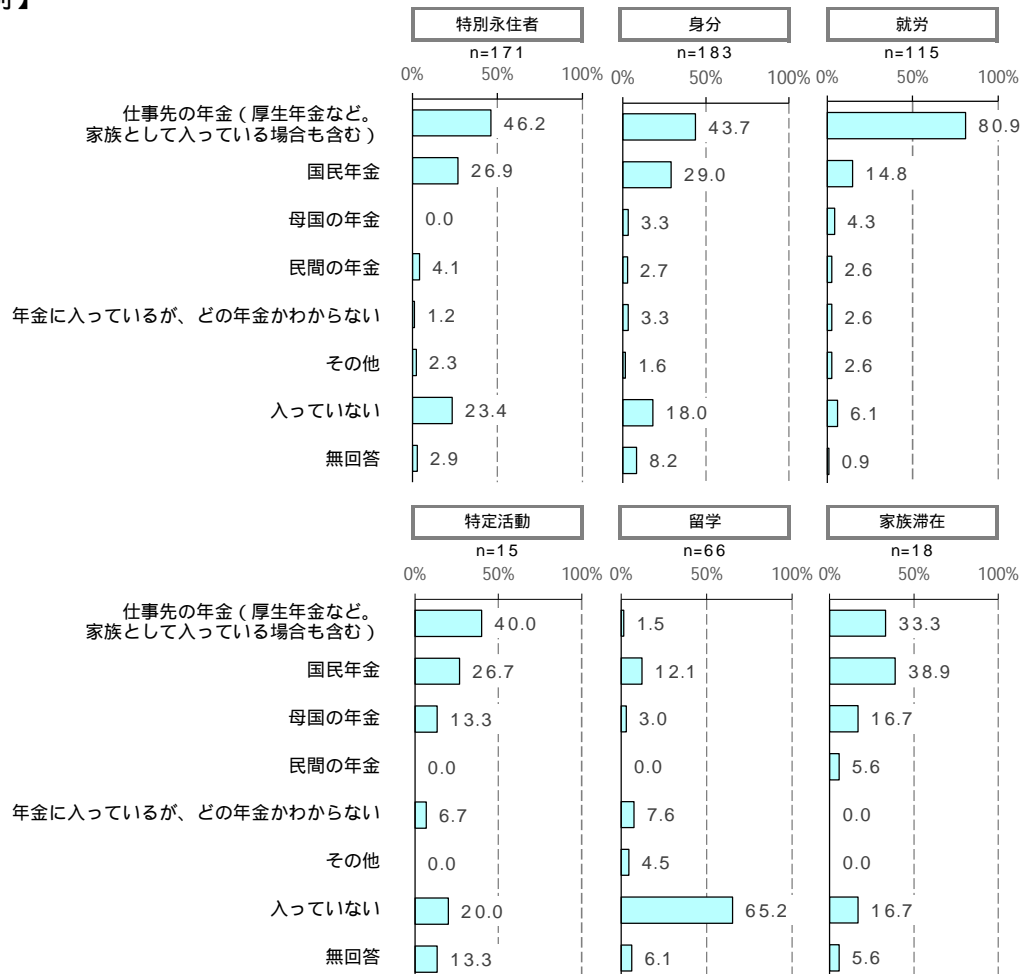
年金の加入状況は、72.4%が何らかの年金に加入しており、「仕事先の年金」が46.7%で最も多く、「国民年金」が23.7%で続いている。「入っていない」も22.2%みられた。

在留資格別にみると、就労では「仕事先の年金」が80.9%と圧倒的に高い。留学では「入っていない」が65.2%と高くなっている。

【全体】

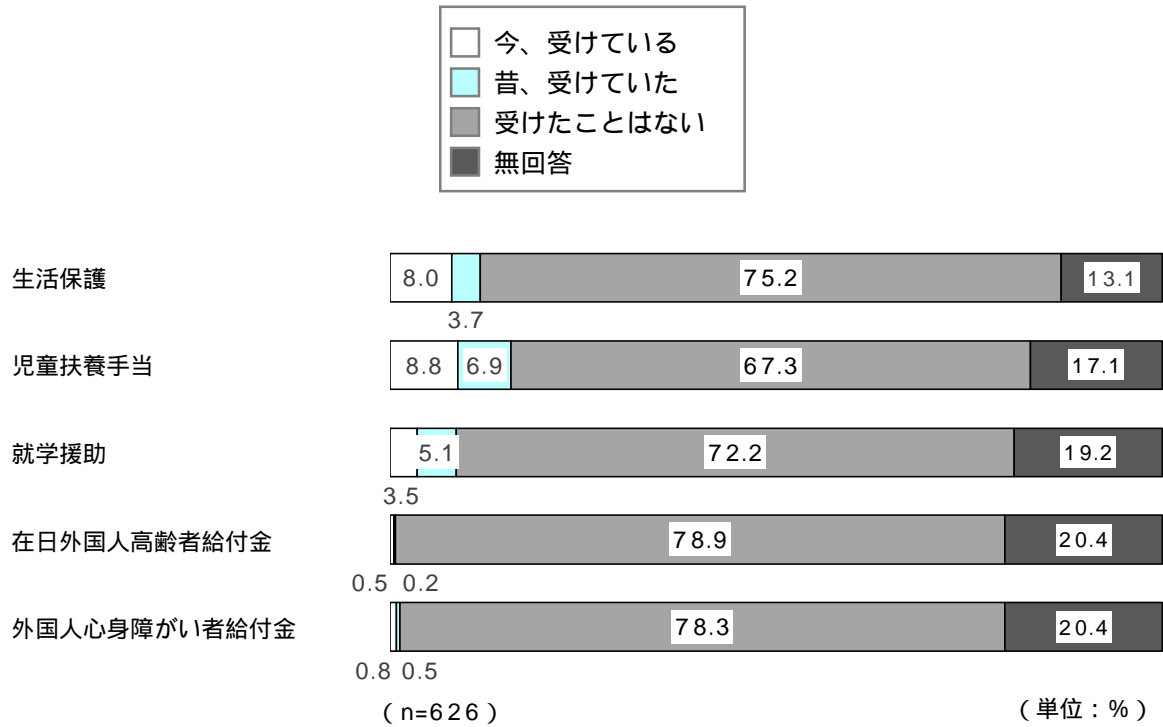


【在留資格別】



Q 23 あなたはこれまで、次の制度を利用したことがありますか。(単一回答)

制度の利用状況について、「今、受けている」は「生活保護」「児童扶養手当」で8%台、「就学援助」で3.5%となっている。

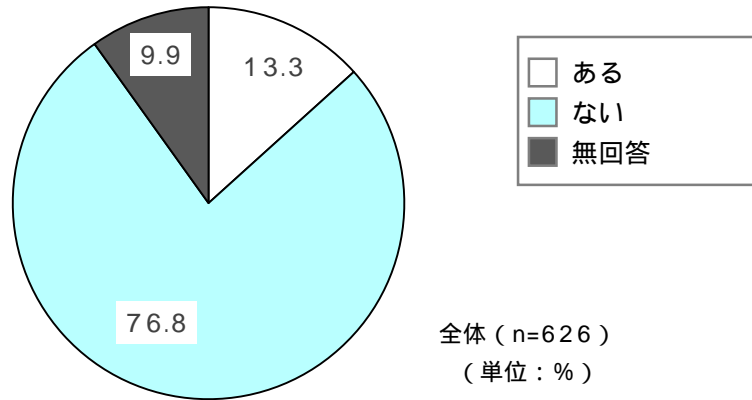


在日外国人高齢者給付金、外国人心身障がい者給付金については、日本在住年数が5年に満たないなど対象外と考えられる回答も含んでいる。

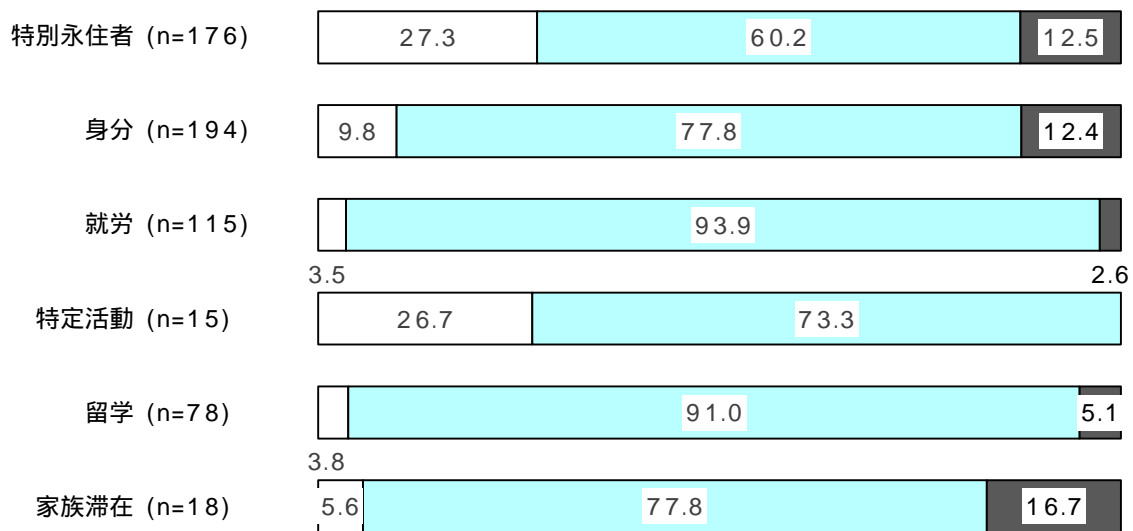
Q 24 あなたは、過去5年間に家族を介護したり、介護を受けたりしたことがありますか。(単一回答)

介護の経験が、「ある」と回答した割合が13.3%、「ない」が76.8%となっている。
 在留資格別にみると、「ある」は特別永住者で27.3%と高い。

【全体】



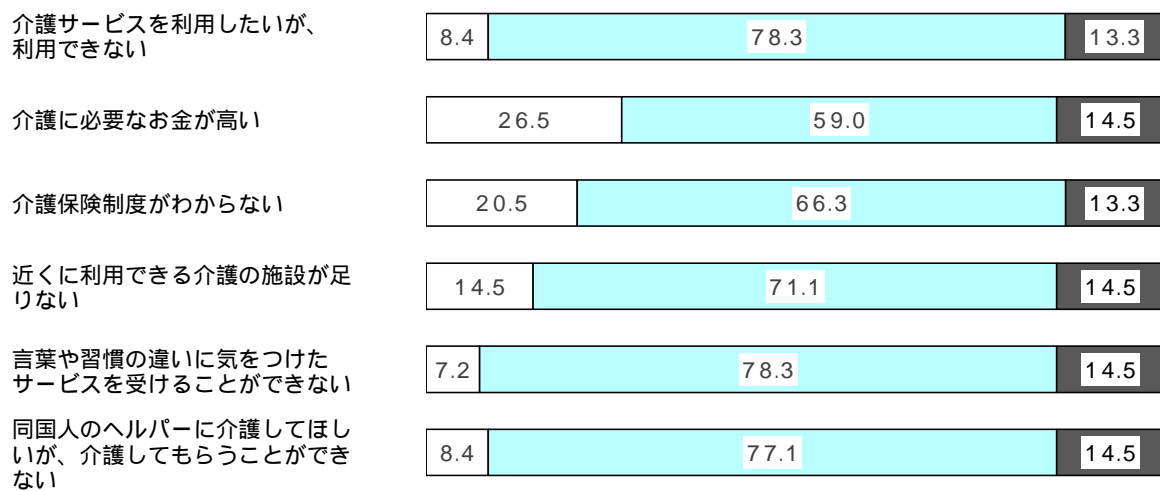
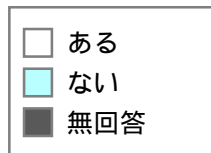
【在留資格別】



(単位：%)

Q 24-1 あなたは、介護で以下のような経験をしたことはありますか。(単一回答)

介護に関して経験したことが「ある」と回答した割合は「介護に必要なお金が高い」で26.5%、「介護保険制度が分からない」で20.5%、「近くに利用できる介護の施設が足りない」で14.5%となっている。それ以外は1割未満となっている。



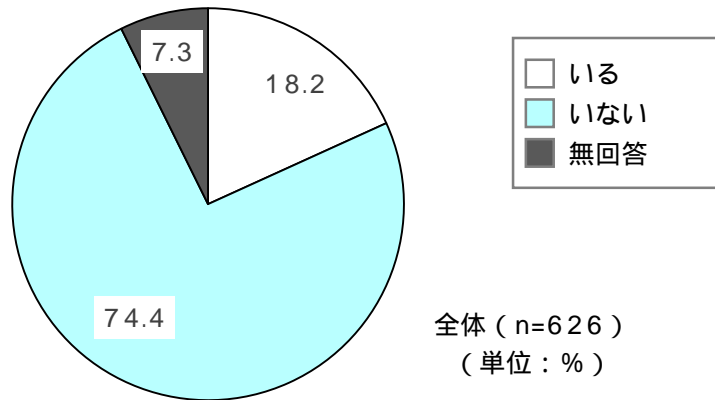
(n=83)

(単位：%)

4 . 出産・子育て・教育について

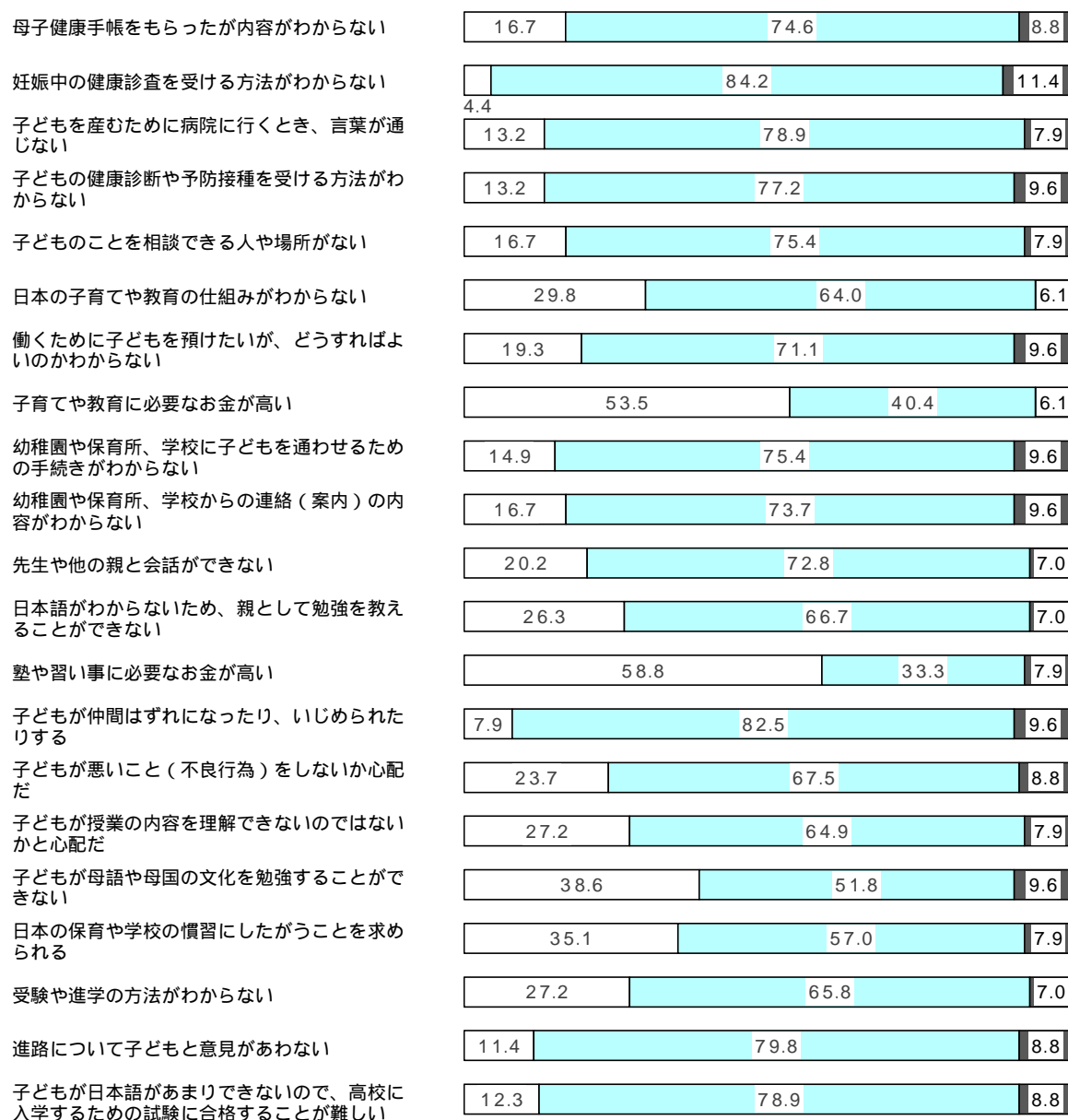
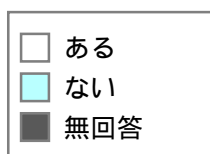
Q 25 あなたは今、一緒に住んでいる18歳以下のお子さんがいますか。(単一回答)

同居する18歳以下の子どもが「いる」と回答した割合が18.2%、「いない」が74.4%となっている。



Q 25-1 あなたは日本での出産・子育て・教育・学校のことで困る（困った）こと、心配する（心配した）ことがありますか。（単一回答）

子育て等に関して心配・困りごとが「ある」と回答した割合は、「塾や習い事に必要なお金が高い」で58.8%、「子育てや教育に必要なお金が高い」で53.5%と、お金に関する項目で高い。次いで、「子どもが母語や母国の文化を勉強することができない」「日本の保育や学校の慣習にしたがうことを求められる」といった文化・慣習に関する項目で3割以上となっている。

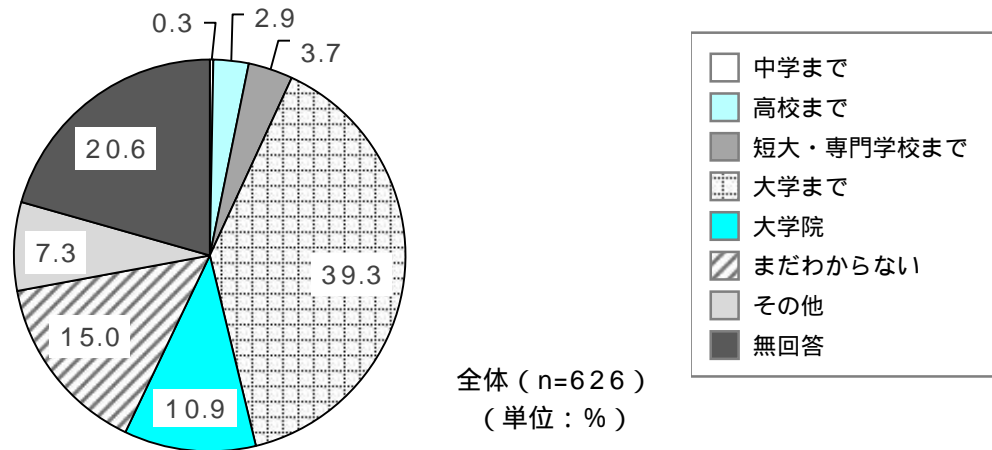


(n=114)

(単位：%)

Q 26 あなたは子どもにどこまで教育を受けさせたいですか。(単一回答)

子どもの教育は、「大学まで」受けさせたいという人が 39.3%で最も多い。次いで、「まだわからない」が 15.0%、「大学院」が 10.9%となっている。

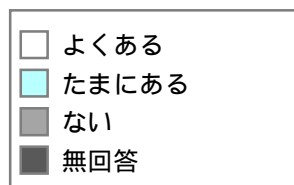


5. 差別的な言動について

Q 27 あなたは過去5年間に次のような経験をしたことがありますか。(単一回答)

差別的な言動について、過去5年間に経験をしたことが「よくある」と回答した割合は「職場や学校の方が外国人に偏見を持っていて、人間関係がうまくいかなかった(親しくできなかった)」で6.2%、「知らない人からジロジロ見られた」で5.0%と高い。

「よくある」及び「たまにある」と回答した割合を合わせると、「職場や学校の方が外国人に偏見を持っていて、人間関係がうまくいかなかった(親しくできなかった)」が37.2%で最も高い。「知らない人からジロジロ見られた」で22.9%、「日本語がうまく使えないことで嫌がらせを受けた」で21.5%と続く。



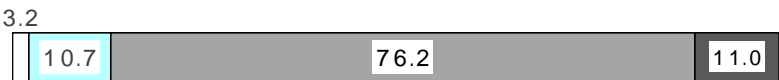
職場や学校の方が外国人に偏見を持っていて、人間関係がうまくいかなかった(親しくできなかった)



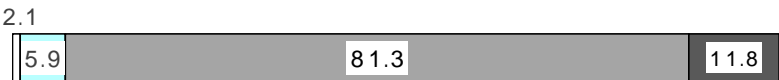
職場・学校で、外国人であることを理由にいじめを受けた



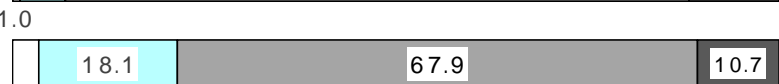
名前が日本人風でないことによって嫌がらせを受けた



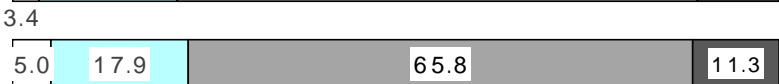
外国人であることを隠すようにいわれた



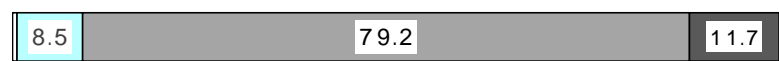
日本語がうまく使えないことで嫌がらせを受けた



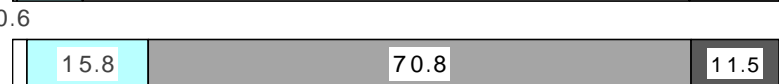
知らない人からジロジロ見られた



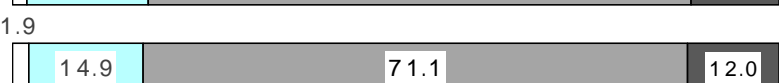
バスや電車、ショッピングセンターなどで自分を避けるようにされた



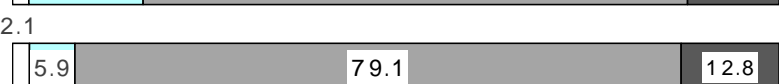
「外国人に見えないから大丈夫」など、外国人であることが良くないことのように言われた



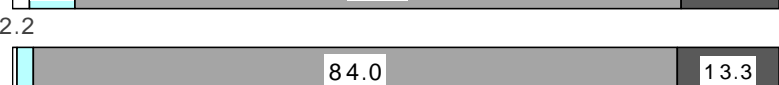
人に話しかけたが無視された



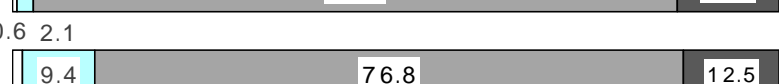
日本人との交際・結婚について、外国人であることを理由に相手の親などから反対された



日本人の家族などから、自分の子どもに生まれた国(地域)の文化や言葉を教えてはいけないと言われた



日本人の家族などから、生まれた国(地域)やその文化について、侮辱されたり、からかわれたりした



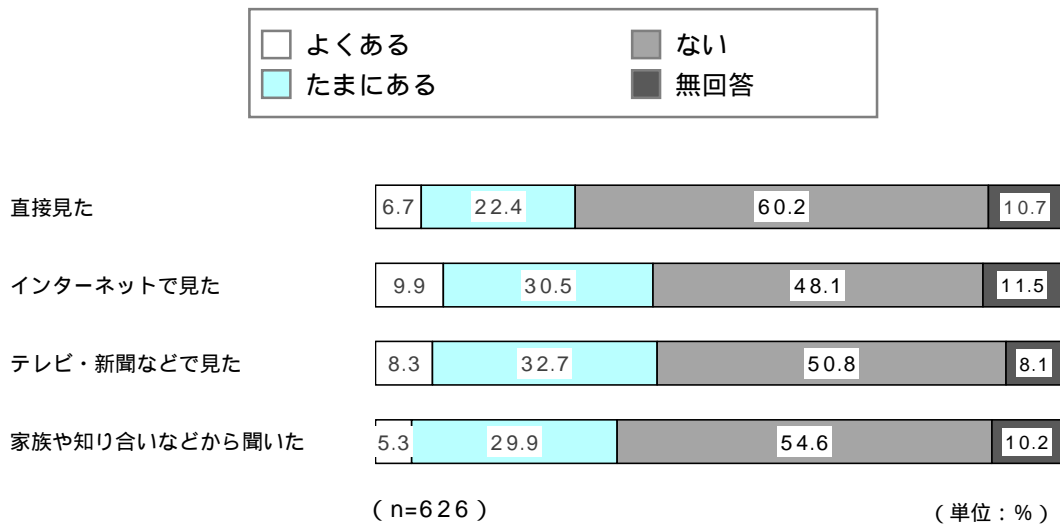
1.3
(n=626)

(単位: %)

Q 28 あなたは、日本に住む外国人を排除するなどの差別的なデモ、街頭宣伝活動、ビラ・チラシ、インターネットでの書き込みなどを見たり、聞いたりしたことはありますか。(単一回答)

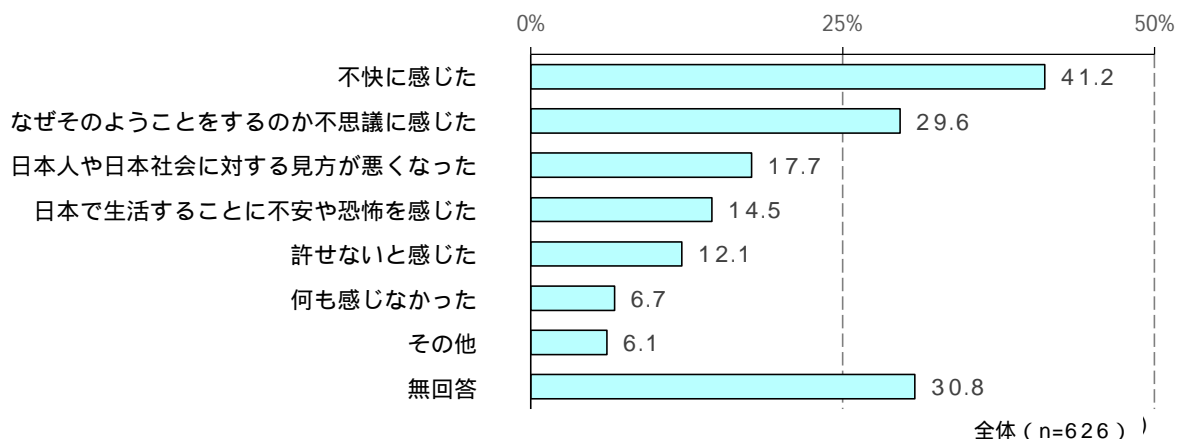
差別的な言動を見聞きした経験について、「よくある」と回答した割合は「インターネットで見た」が9.9%で最も高く、「テレビ・新聞などで見た」(8.3%)、「直接見た」(6.7%)、「家族や知り合いなどから聞いた」(5.3%)となっている。

「よくある」及び「たまにある」と回答した割合を合わせると、「テレビ・新聞などで見た」が41.0%、「インターネットで見た」が40.4%と高くなっている。



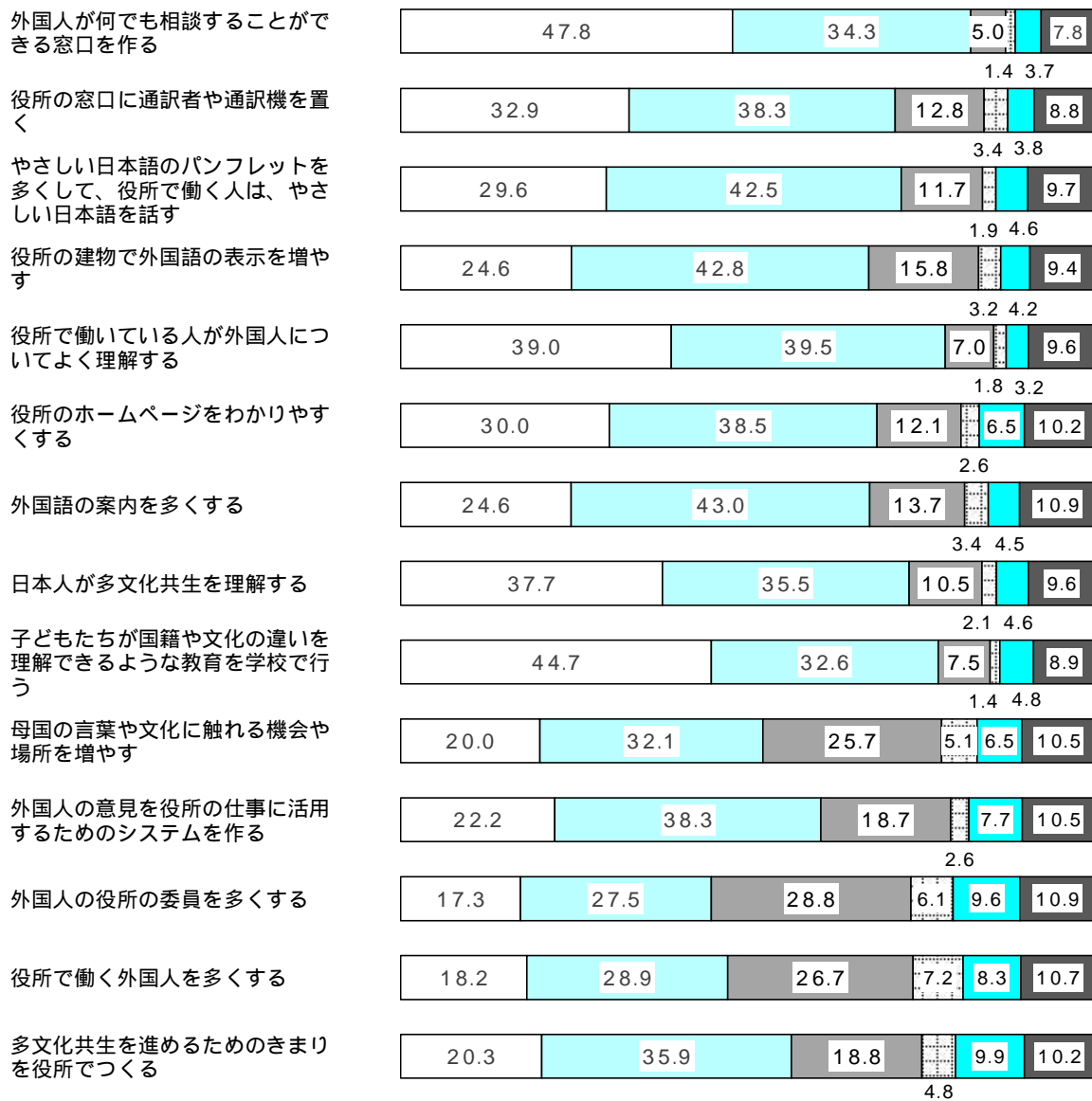
Q 29 (Q 28 で「よくある」「たまにある」に1つでも つけた方にお聞きします。) それを見たり、聞いたりした時にどのように感じましたか。(複数回答)

差別的な言動を見聞きしたときに感じたことは、「不快に感じた」が41.2%で最も高く、次いで、「なぜそのようなことをするのか不思議に感じた」(29.6%)、「日本人や日本社会に対する見方が悪くなった」(17.7%)となっている。



Q 30 外国人や日本人など、色々な文化を持つ人たちが一緒に生きることができる社会、
 (多文化共生社会)をつくるために、あなたは次のようなことは重要だと思いますか。(単一回答)

多文化共生社会をつくるために重要だと思うことについて、「とても重要である」は、「外国人がなんでも相談することができる窓口を作る」(47.8%)、「子どもたちが国籍や文化の違いを理解できるような教育を学校で行う」(44.7%)、「役所で働いている人が外国人についてよく理解する」(39.0%)、「日本人が多文化共生を理解する」(37.7%)の順となっている。



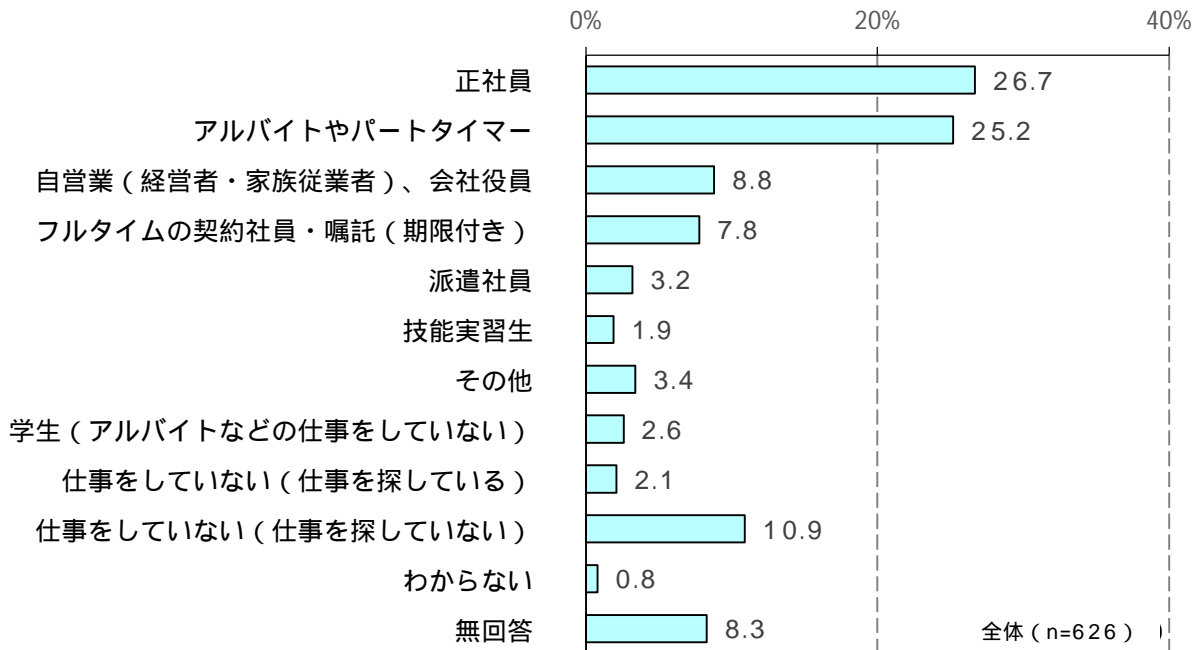
(n=626)

(単位：%)

6 . 仕事について

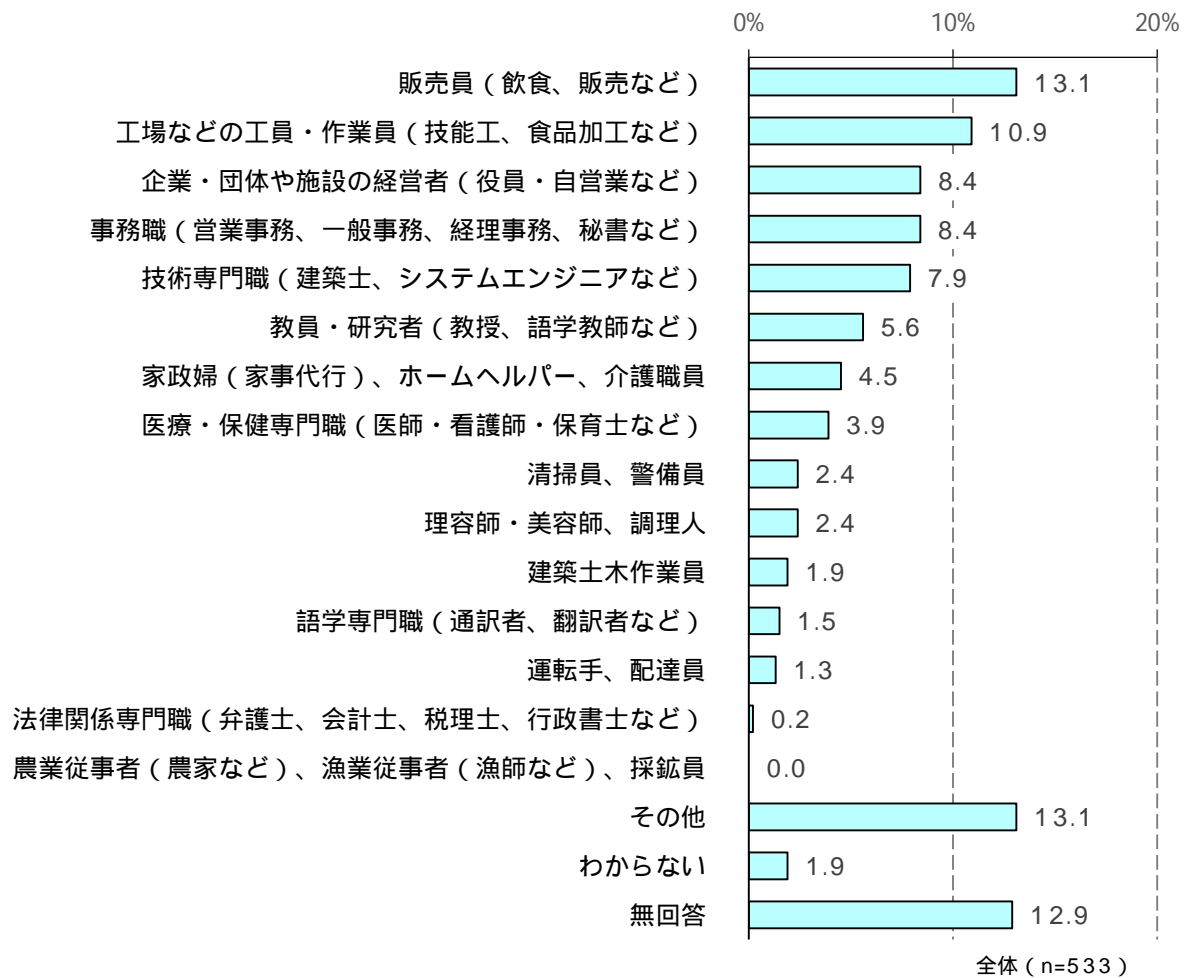
Q 31 あなたは今どのようなかたちでお仕事をしていますか。(単一回答)

就労状況は、「正社員」(26.7%)、「アルバイトやパートタイマー」(25.2%)が多い。「仕事をしていない(仕事を探していない)」が10.9%で続いている。



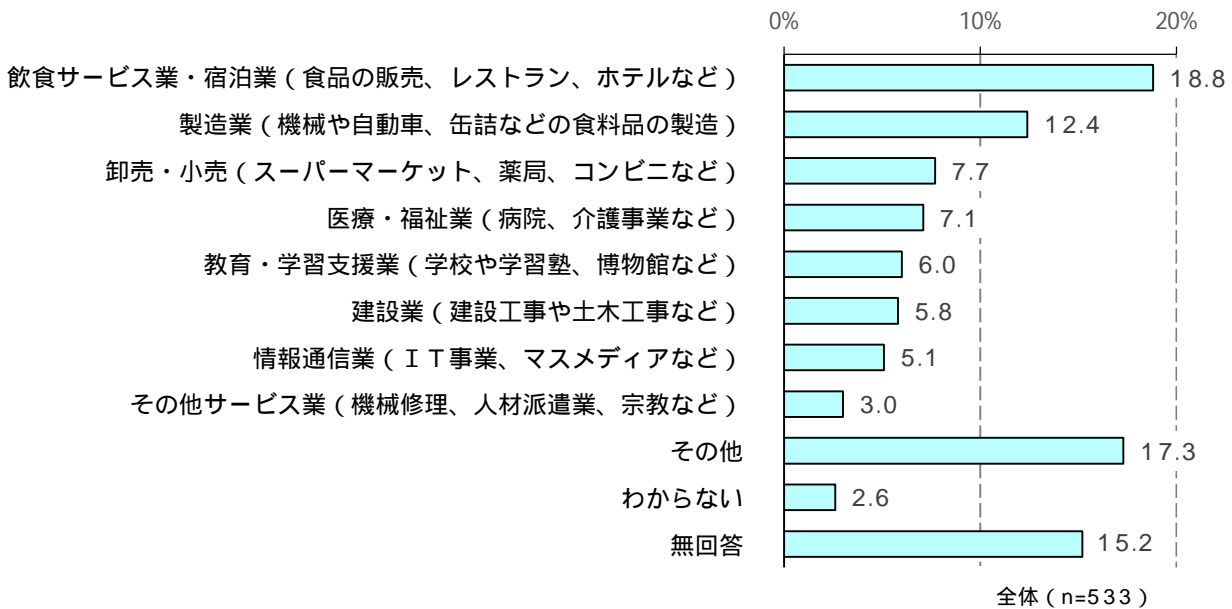
Q 32 あなたは今どのような立場（職種）で仕事をしていますか。（単一回答）

職種は、「その他」を除くと、「販売員（飲食、販売など）」が13.1%で最も多く、「工場などの工員・作業員（技能工、食品加工など）」（10.9%）、「企業・団体や施設の経営者（役員・自営業など）」「事務職（営業事務、一般事務、経理事務、秘書など）」（ともに8.4%）、「技術専門職（建築士、システムエンジニアなど）」（7.9%）と続いている。



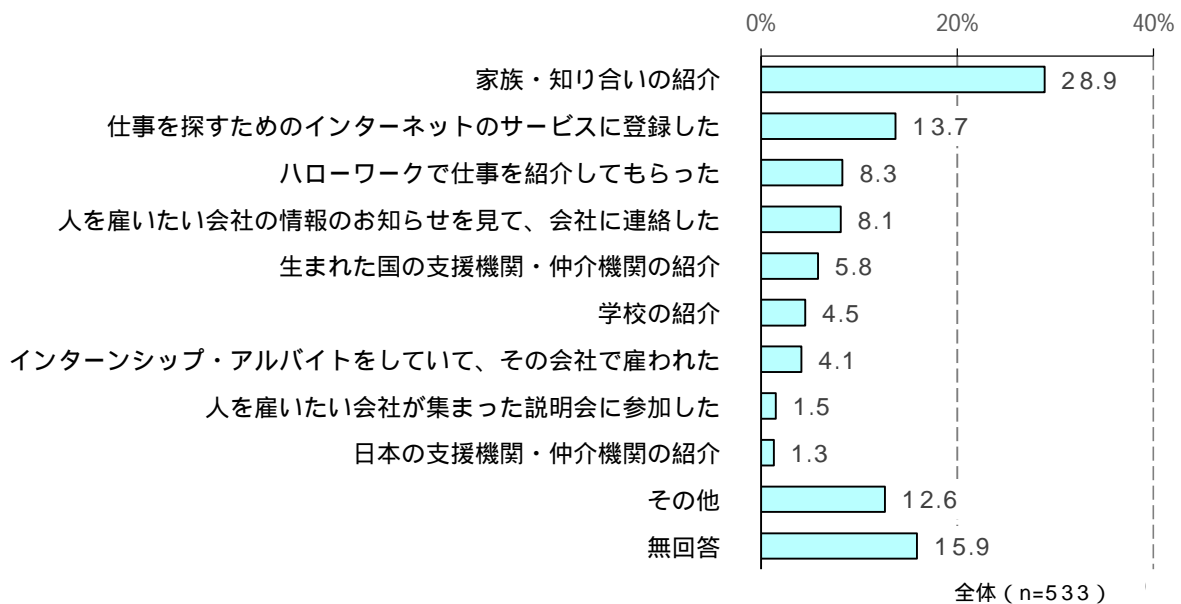
Q 33 今の仕事はどのような分野（業種）ですか。（単一回答）

業種は、「飲食サービス業・宿泊業(食品の販売、レストラン、ホテルなど)」(18.8%)が最も多く、「製造業(機械や自動車、缶詰などの食料品の製造)」(12.4%)が上位となっている。



Q 34-1 あなたは、今の仕事をどのように探しましたか。（単一回答）

求職方法は、「家族・知り合いの紹介」が 28.9%で最も多く、次いで、「仕事を探すためのインターネットのサービスに登録した」が 13.7%となっている。

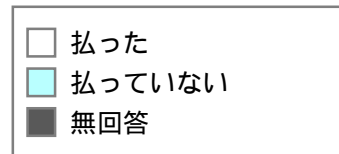
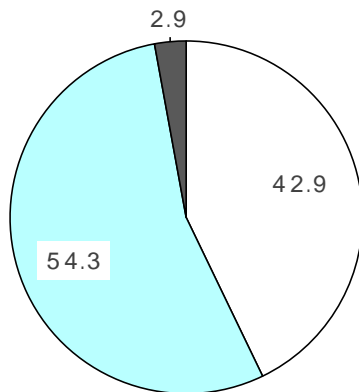


Q 34-2 (Q 34-1で「生まれた国の支援機関・仲介機関の紹介」「日本の支援機関・仲介機関の紹介」と答えた方にお聞きします。)

仕事を紹介されたとき、あなたは支援機関や仲介機関に紹介してもらったお礼のお金を払いましたか。払った場合は金額を教えてください。(単一回答)

仲介料の支払いは、「払った」人が42.9%となっている。

払った金額の平均は、約37万円となっているが、「100万円以上」払った人もみられた。

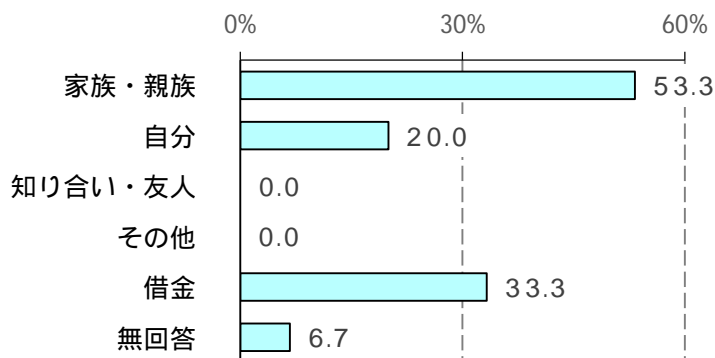


支援機関や仲介機関に払った金額 (n=15)

| | |
|---------------|----------|
| 5万円未満 | 2人 |
| 5万円以上10万円未満 | 3人 |
| 10万円以上50万円未満 | 3人 |
| 50万円以上100万円未満 | 4人 |
| 100万円以上 | 1人 |
| 無回答 | 2人 |
| 平均 | 366,154円 |

Q 34-3 (Q 34-2で「払った」と答えた方にお聞きします。) 払ったお金は誰のお金ですか。(複数回答)

仲介料の支払いは、「家族・親族」が53.3%と多数を占めるが、「借金」が33.3%で続いている。借金の平均金額は、約49万円となっている。



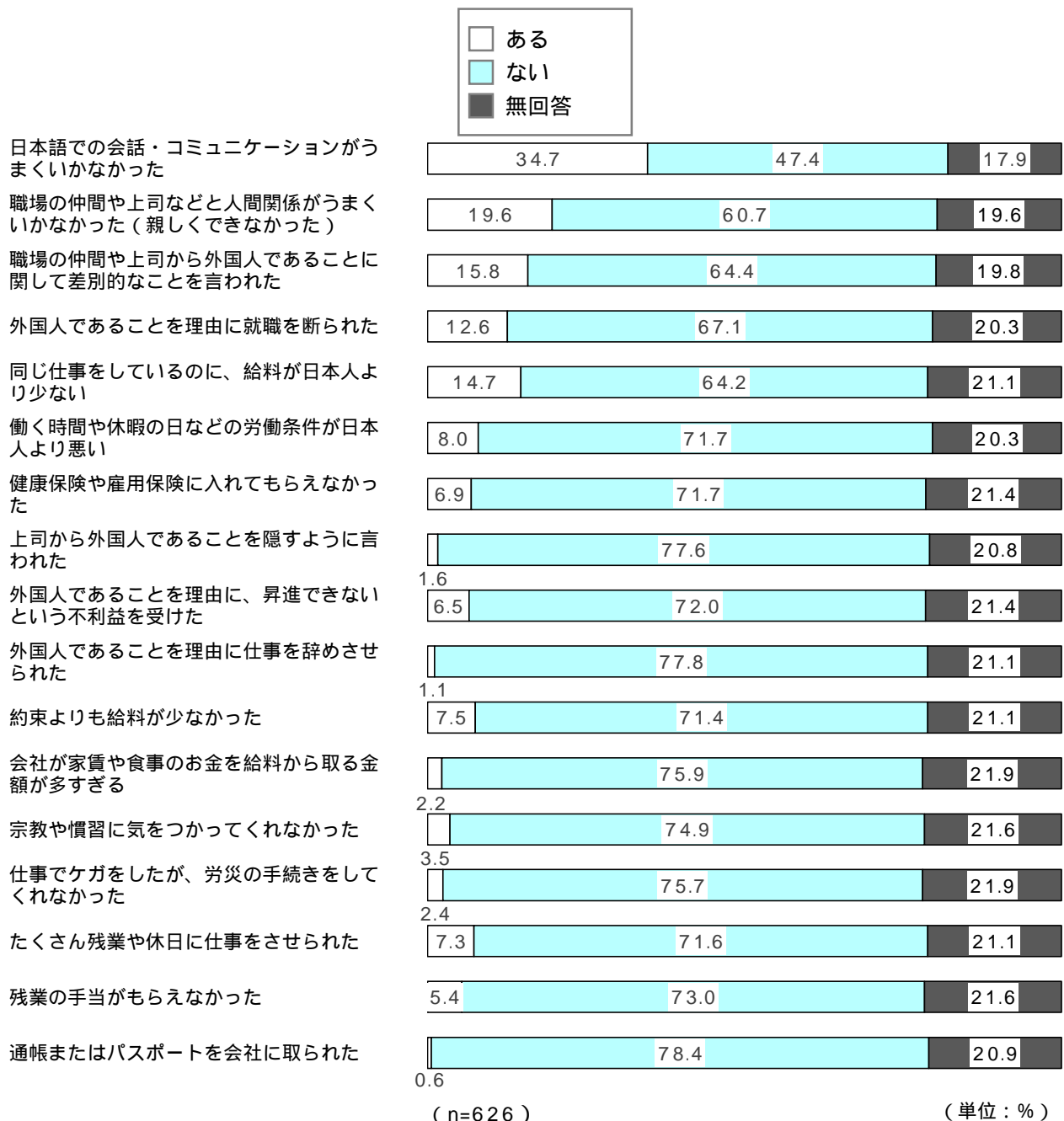
借金の金額 (n=5)

| | |
|---------------|----------|
| 5万円未満 | 0人 |
| 5万円以上10万円未満 | 1人 |
| 10万円以上50万円未満 | 1人 |
| 50万円以上100万円未満 | 3人 |
| 100万円以上 | 0人 |
| 無回答 | 0人 |
| 平均 | 488,000円 |

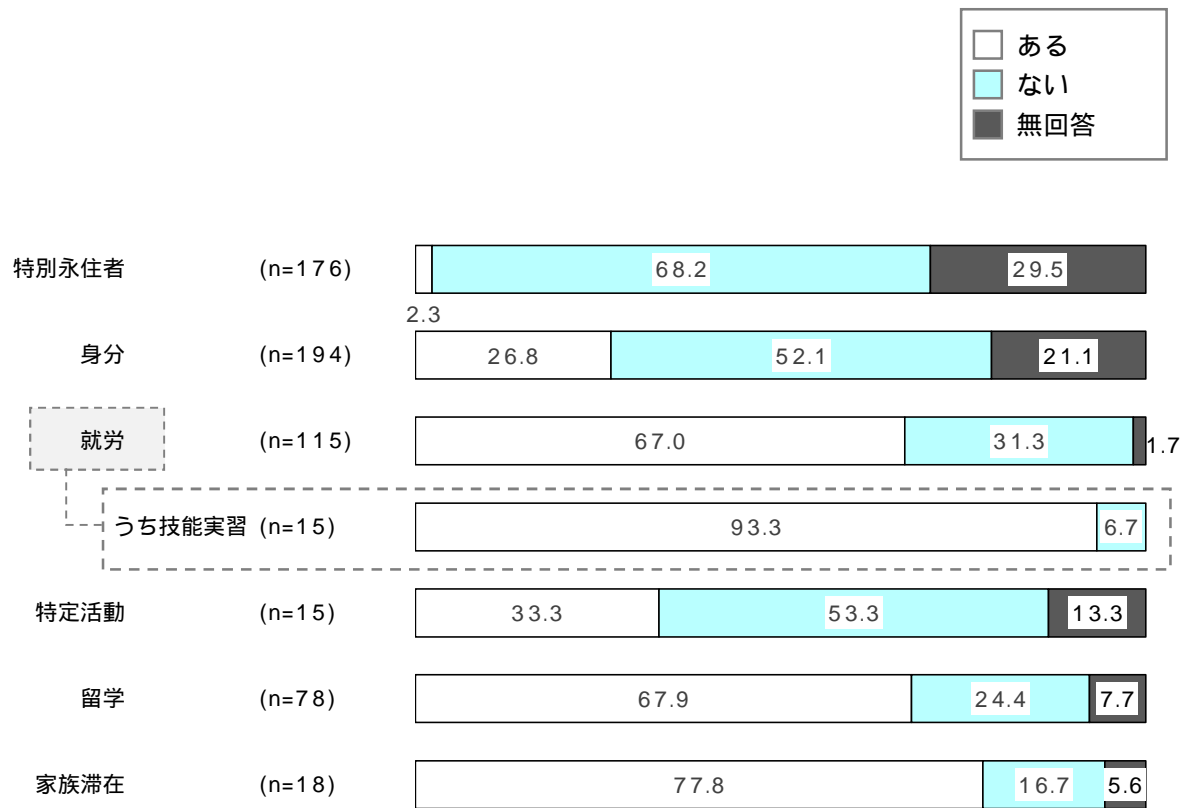
Q 35 あなたは仕事について、過去5年間に次のような経験をしたことがありますか。(単一回答)

仕事について、過去5年間の経験が「ある」と回答した割合は「日本語での会話・コミュニケーションがうまくいかなかった」で34.7%と最も高い。次いで、「職場の仲間や上司などと人間関係がうまくいかなかった(親しくできなかった)」、「職場の仲間や上司から外国人であることに関して差別的なことを言われた」、「同じ仕事をしているのに、給料が日本人より少ない」、「外国人であることを理由に就職を断られた」の順に高くなっている。

「日本語での会話・コミュニケーションがうまくいかなかった」ことが「ある」と回答した割合のみ在留資格別にみると、家族滞在で77.8%、留学で67.9%、就労で67.0%と高い。また、特に就労のうち、「技能実習」においては、93.3%が「ある」と回答している。



【在留資格別】 「日本語での会話・コミュニケーションがうまくいかなかった」の項目のみ

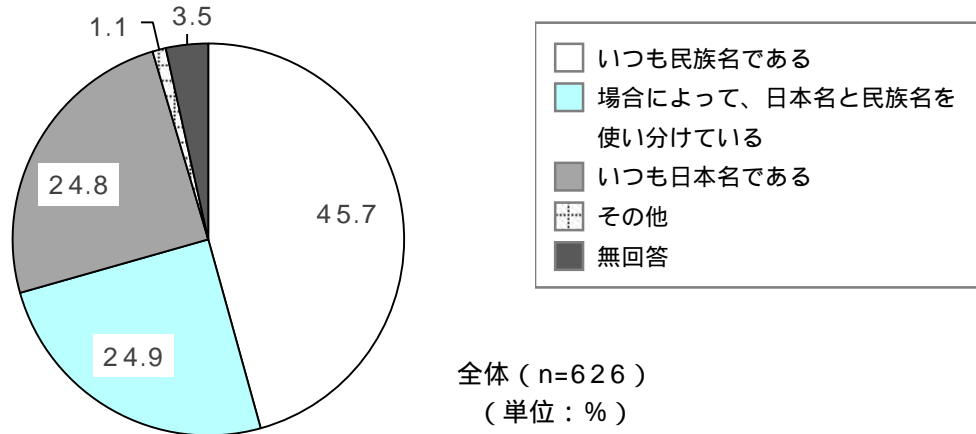


(単位：%)

7. あなた自身について

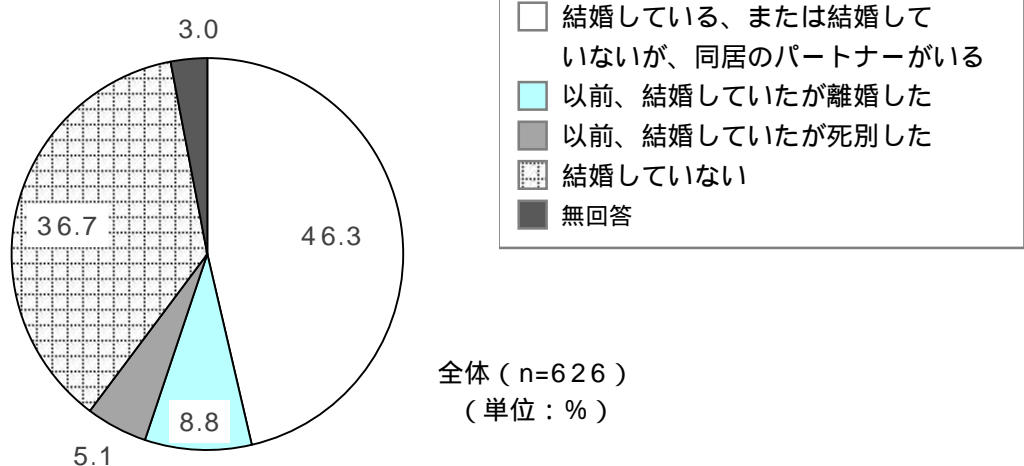
Q 36 あなたは今、どのような名前を使用していますか。(単一回答)

使用している名前は、「いつも民族名である」が45.7%で最も多く、「場合によって、日本名と民族名を使い分けしている」「いつも日本名である」がともに約25%となっている。



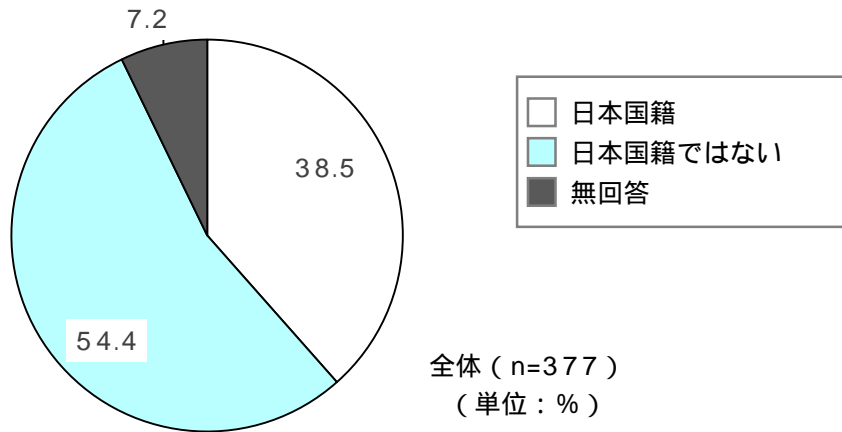
Q 41 あなたは今、結婚していますか。(単一回答)

結婚の状況は、「結婚している、または結婚していないが、同居のパートナーがいる」が46.3%で最も多く、次いで、「結婚していない」が36.7%となっている。



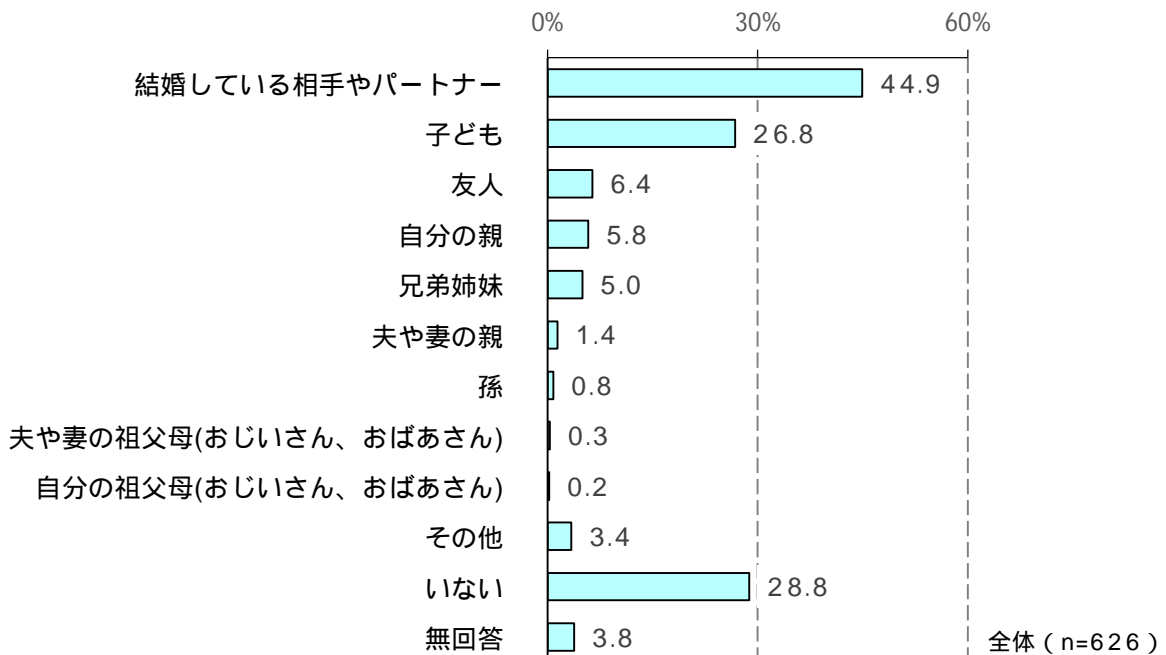
Q 42 今（離婚・死別の方は最後）の結婚している相手またはパートナーの国籍は何ですか。
（単一回答）

パートナーの国籍は、「日本国籍ではない」が54.4%と過半数を占め、「日本国籍」が38.5%となっている。



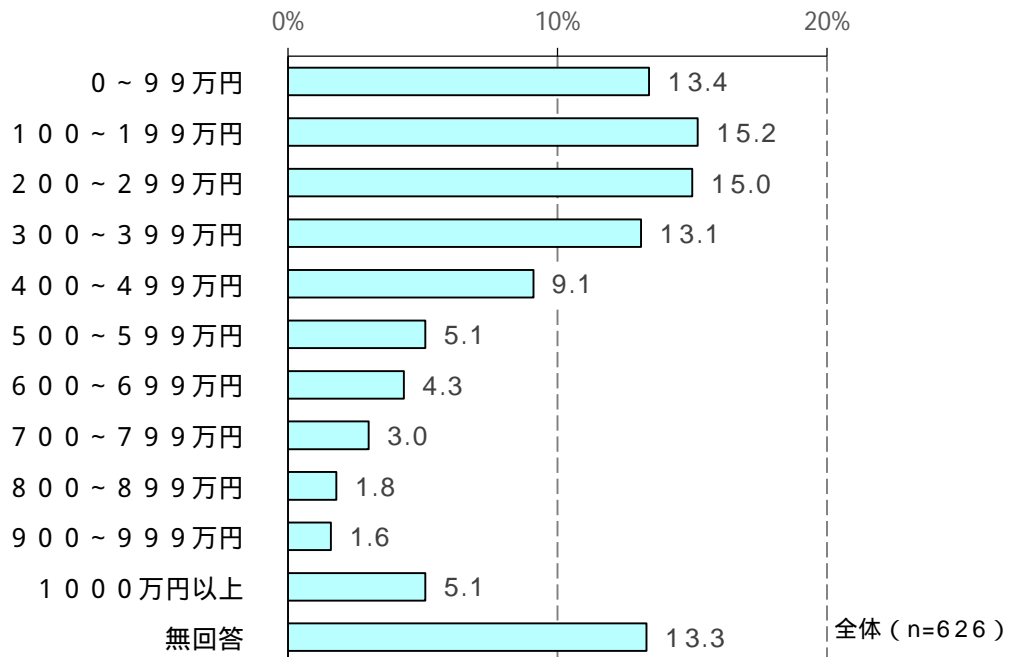
Q 43 今、あなたと一緒に住んでいる人全部に をつけてください。(複数回答)

同居の状況は、「結婚している相手やパートナー」が44.9%で最も多く、次いで、「いない」(一人暮らし)は28.8%、「子ども」が26.8%となっている。



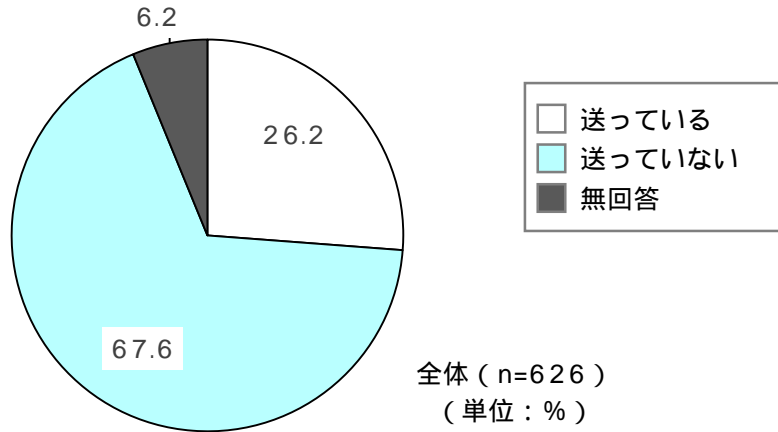
Q 44 あなたの世帯の年収は合計でどのくらいですか。(単一回答)

世帯年収は、「100～199万円」が15.2%で最も多く、次いで、「200～299万円」が15.0%、「0～99万円」が13.4%、「300～399万円」が13.1%となっており、399万円以下で56.7%と過半数を占める。400～999万円までは、金額帯が上がるほど、比率は低くなっている。

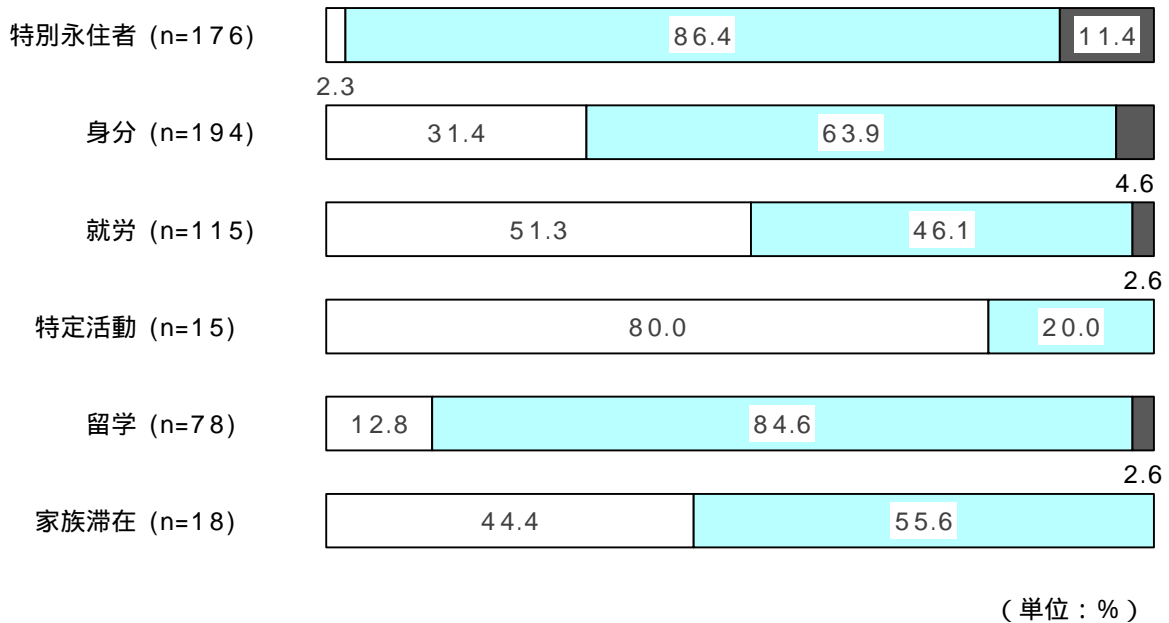


Q 45 あなたは生まれた国にいる家族などにお金を送っていますか。(単一回答)

生まれた国への送金状況について、「送っている」人は26.2%、「送っていない」人は67.6%となっている。



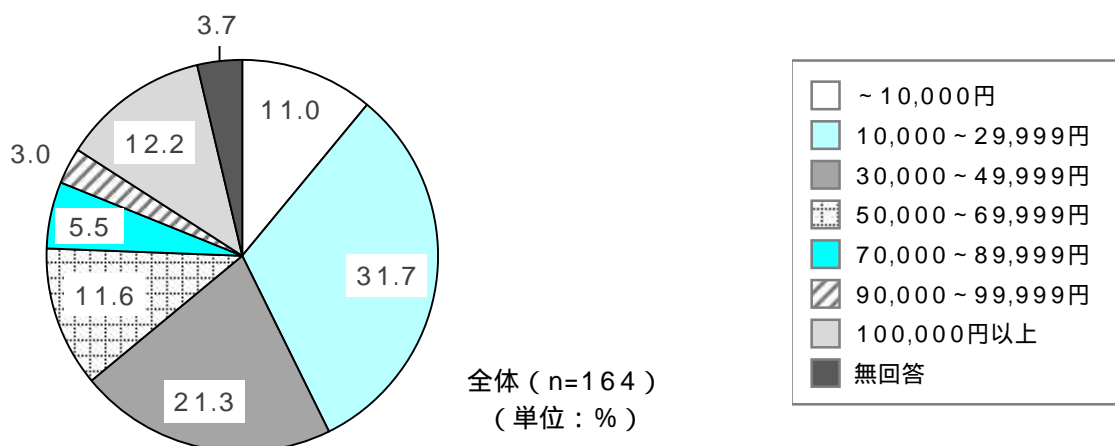
【在留資格別】



Q 45-1 (「送っている」と答えた方にお聞きします。)

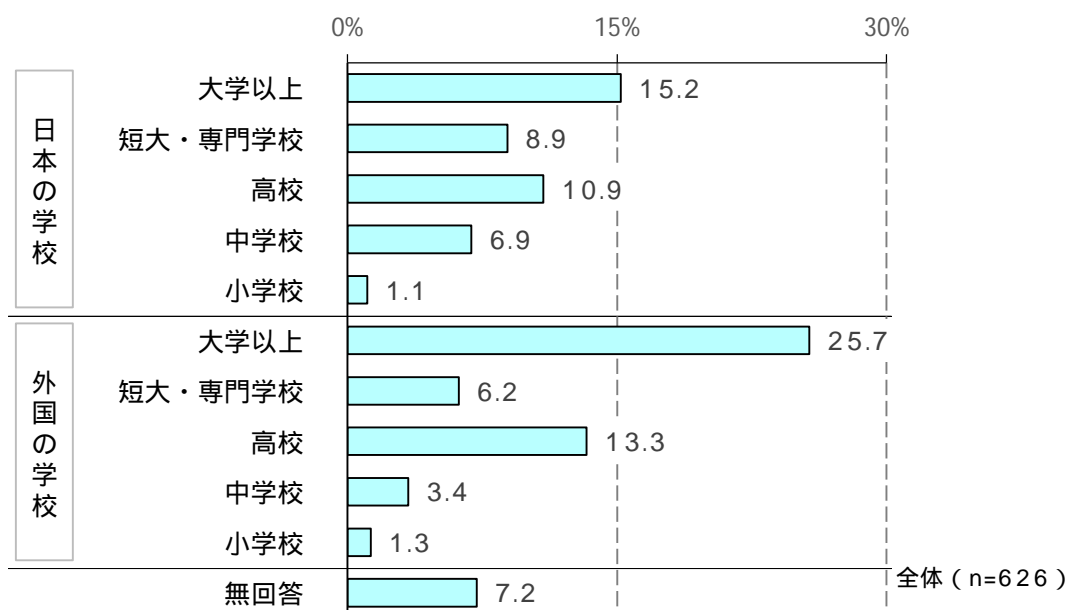
あなたが送っているお金は一か月にどのくらいですか。(単一回答)

生まれた国への送金額は、「10,000～29,999円」が31.7%で最も多く、次いで、「30,000～49,999円」で21.3%となっている。



Q 47 あなたの最終学歴 (最後に卒業した学校) は次のどれですか。(単一回答)

最終学歴は、「外国の大学以上」が25.7%で最も多く、「日本の大学以上」(15.2%)、「外国の高校」(13.3%)が続いている。



Q 48 2019年4月に国のきまりが変わり、「特定技能」という在留資格が新しくできました。
あなたは、そのことを知っていますか。(単一回答)

在留資格「特定技能」の認知は、「知っている」が33.7%、「知らない」が62.6%となっている。

